

## 和仏法律学校講義録

松岡, 義正 / 志田, 友吉 / 内田, 嘉吉 / 鶴, 丈一郎

---

(出版者 / Publisher)

和仏法律学校

(巻 / Volume)

3-25

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

83

(発行年 / Year)

1902-11-13

明治三十五年十一月十三日發行  
(明治三十五年十一月四日第三種郵便物認可。一月十五日第三日五頁六頁八頁十日十一日十三日十五頁十六日十八日廿日廿一日廿二日廿三日廿四日廿六日廿八日廿九日卅日發行)

明治三十五年十一月十三日發行

三十五年度 第二學年 第二十五號



# 和佛法律學校講義錄

第六號

和佛法律學校



第三學年第二十五號目次

民法 親族 (自一七) 法律學士 鶴 丈一 耶

商法 手形 (自三三) 法律學士 志田 友吉

商法 海商 (自二八) (完) 法律學士 内田 嘉吉

表紙及目次 八五

民事訴訟法 (自第六編) (自一三五) 法律學士 松岡 義正

至第八編 (至一五〇)

雜報 ○株主總會通知記載事項○債權申出期間内ニ於ケル相殺

090  
1902  
3-1-25

同居ヲ爲シテ三百日後ニ分娩シタルトキハ其子ハ法律上ノ推定ニ依リ嫡出子  
タルヲ得ス第一ノ場合ニ於テハ其父母カ認知シタルトキハ第八百三十六條ノ  
規定ニ依リ嫡出子タルノ身分ヲ取得スヘク第二ノ場合ニ於テハ第八百三十五  
條ノ規定ニ依リ認知ヲ求ムルヲ得ルニ止マリ嫡出子タルコトヲ得サルモノト  
ス

右法律上ノ推定ハ女カ第七百六十七條第一項ノ規定ニ背キ再婚シテ分娩シタ  
ル場合ニハ適用スルヲ得サルコトアリ即チ婦カ婚姻解消後六箇月ヲ經過セサ  
ル前例ヘハ三十日或ハ五十日ニシテ再婚ヲ爲シ再婚ヨリ二百日以後前婚解消  
ヨリ三百日以内ニ分娩シタルトキハ其子ハ第八百二十條第二項ニ依リ前婚ノ  
繼續中ニ懐胎シタリトノ推定ヲ受ケ又之ト同時ニ再婚ノ成立後ニ懐胎シタリ  
トノ推定ヲ受タヘテ法律ノ推定相抵觸スルヲ以テ同條ニ依リ子ノ父ヲ定ムル  
ニ由ナカルヘシ故ニ法律ハ第八百二十一條ニ於テ右ノ場合ハ裁判所ニ於テ之  
ヲ定ムルコトトセリ故ニ裁判所ハ事實ヲ審査シ自由ナル心證ヲ以テ之ヲ判斷  
スヘシト雖モ醫師ノ鑑定ニ依ルヘキ場合最モ多カルヘシ

民法親族 親子 實子

民法 親 養 (三)

商法 手 形 (三)

民法 海 商 (三)

民事訴訟法 (三)

法學士 松岡 義正

雜報 ○ 法學士 松岡 義正

090  
1902  
3-1-25

同居ヲ爲シテ三百日後ニ分娩シタルトキハ其子ハ法律上ノ推定ニ依リ嫡出子  
タルヲ得ス第一ノ場合ニ於テハ其父母カ認知シタルトキハ第八百三十六條ノ  
規定ニ依リ嫡出子タルノ身分ヲ取得スヘク第二ノ場合ニ於テハ第八百三十五  
條ノ規定ニ依リ認知ヲ求ムルヲ得ルニ止マリ嫡出子タルコトヲ得サルモノト  
ス

右法律上ノ推定ハ女カ第七百六十七條第一項ノ規定ニ背キ再婚シテ分娩シタ  
ル場合ニハ適用スルヲ得サルコトアリ即チ婚カ婚姻解消後六箇月ヲ經過セサ  
ル前例ヘハ三十日或ハ五十日ニシテ再婚ヲ爲シ再婚ヨリ二百日以後前婚解消  
ヨリ三百日以内ニ分娩シタルトキハ其子ハ第八百二十條第二項ニ依リ前婚ノ  
繼續中ニ懐胎シタリトノ推定ヲ受ケ又之ト同時ニ再婚ノ成立後ニ懐胎シタリ  
トノ推定ヲ受タヘク法律ノ推定相抵觸スルヲ以テ同條ニ依リ子ノ父ヲ定ムル  
ニ由ナカルヘシ故ニ法律ハ第八百二十一條ニ於テ右ノ場合ハ裁判所ニ於テ之  
ヲ定ムルコトトセリ故ニ裁判所ハ事實ヲ審査シ自由ナル心證ヲ以テ之ヲ判斷  
スヘシト雖モ醫師ノ鑑定ニ依ルヘキ場合最モ多カルヘシ

民法編纂 親子 實子



以上ハ嫡出子ヲ定ムル所ノ規定ナリ然ルニ第八百二十條ノ推定ハ反證ヲ以テ攻撃スルコトヲ得之ヲ否認訴權ト謂フ而シテ此訴權ハ原則トシテ夫ノミ之ヲ有シ母ニ其訴權ヲ與ヘサルハ自己ノ生ミタル子カ夫ノ子ニ非スト否認スルハ自ラ私通姦通ヲ爲シタル事實ヲ主張スルモノニシテ此ノ如ク自己ノ惡事醜行ヲ主張セシムルハ世ノ風教ヲ害スルヲ以テ法律ハ之ヲ許ササルナリ又子其他相續權ヲ有スヘキ親族ノ如キ右ノ反證ヲ舉クルノ利益ヲ有スル者ナキニ非スト雖モ元來子ノ何人ナルヤハ其父母ニ非サレハ知リ難キ事實ナルヲ以テ他人ヲシテ濫ニ斯ル訴訟ヲ起スコトヲ得セシムルトキハ風俗ヲ壞ルノ虞アリ故ニ法律ハ此等ノ者ニ反證提出ノ權ヲ與ヘサルナリ唯人事訴訟手續法第二十八條第二十九條ニ例外ノ規定アリ就テ見ルヘシ

右否認權ヲ行使スルハ妻タル者ノ利害ニ大ナル關係アルノミナラス子ノ身分ヲ定ムヘキ重大ナル行為ナルヲ以テ法律ハ必ス訴ニ依リ之ヲ爲スヘキモノトシタリ(第八二三條)而シテ其訴訟ノ直接ノ目的ハ子ノ身分ヲ定ムルニ在ルヲ以テ間接ニハ妻ノ利害ニ大ナル影響ヲ及ホスヘシト雖モ子ヲ以テ相手方ト爲シ

妻ヲ以テ相手方ト爲ササルナリ而シテ子ノ法定代理人ハ通常其父ナルカ故ニ夫ハ其子ノ法定代理人タル場合多カルヘシ然ルニ原告ニシテ同時ニ被告ノ代理人タルコトヲ得サルハ勿論ナルヲ以テ此場合ニ於テハ第八百二十三條但書ニ依リ特別代理人ヲ選任スヘキモノトス

右否認訴權ノ消滅原因ニ二箇アリ

第一原因 第八百二十四條ノ規定スル所ニシテ夫カ子ノ出生後ニ於テ其嫡出子タルコトヲ承認シタルトキハ否認權ヲ拋棄シタルヲ以テ當然消滅スヘキモノナリ而シテ法律ハ出生後ニ於テ承認スルコトヲ要シタルハ何ソヤ蓋シ子ノ出生前ニハ其懐胎期ヲ知ルコト難キヲ以テ或ハ妻カ之ヲ隱蔽スルコトナシトセサルノミナラス出生前ニ在リテハ如何ナル子ノ出生スルヤ固ヨリ知リ得ヘカラサルヲ以テ夫ニ於テ妻ノ非行ヲ知ラスシテ輕忽ニ承認スルコトナシトセサレハナリ

第二原因 第八百二十五條ノ規定ニシテ夫カ子ノ出生ヲ知リタル時ヨリ一年内ニ否認ノ訴ヲ提起セサルトキハ否認權ヲ失フモノトス何トナレハ妻ノ生ミ

タル子ヲ以テ己レノ子ニ非ストスルトキハ否ニ否認ノ訴ヲ起スヘキハ人ノ常情ナリ然ルニ一年以上其子ヲ以テ己レノ子ノ如クスルハ即チ暗黙ニ之ヲ承認シタルモノト看做スコトヲ得ヘク且子ノ身分ヲ永ク不確定ニ置クハ公益上害アルノミナラス年月ノ経過スルニ從ヒ證據ノ湮滅ヲ來シ裁判上尠カラサル困難ヲ生スルヲ以テナリ然レトモ此期間ハ夫カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其期間ノ起算點ヲ異ニセサルヘカラス(第八二六條)而シテ此一年ノ期間ハ固ヨリ時効ニ非サルヲ以テ無能力者ノ爲メニ停止スルコトナシ然ルニ否認訴權ハ夫ノ一身ニ專屬スルヲ以テ未成年者ノ法定代理人カ代リテ之ヲ行使スルヲ得ス又未成年ノ夫ト雖モ自ラ否認訴權ヲ行使スルヲ得ヘシト雖モ未成年者ハ思慮未タ十分ナラサルヲ以テ一年ノ期間ヲ徒過スルコトナシトスヘカラス故ニ其期間ハ夫カ成年ニ達シタル時ヨリ之ヲ起算スルコトトセリ但夫カ成年ニ達シタル後始メテ子ノ出生ヲ知リタルトキハ通常ノ規定ニ從フヘキハ勿論ナリ

又夫カ禁治產者ナルトキハ人事訴訟手續法第二十八條ニ依リ禁治產者ノ後見

人ハ親族會ノ同意ヲ得テ否認訴權ヲ行フコトヲ得ルモ之ヲ以テ足レリトスヘキニ非サルヲ以テ本人モ亦其禁治產ノ取消後其子ノ出生ヲ知リタル時ヨリ一年內ニ其訴ヲ起スヲ得セシメタリ而シテ禁治產取消後其子ノ出生ヲ知リタル時ヨリ期間ヲ起算スルハ禁治產者ハ心神喪失ノ常況ニ在ルヲ以テ其間ニ子ノ出生アルモ確實ニ之ヲ知リタルモノト謂フヲ得サレハナリ

第二款 庶子及ヒ私生子

婚姻外ニ生レタル子ハ總テ私生子ト稱ス故ニ私生子中ニハ近親間ノ私通ノ結果生レタル子即チ亂倫ノ子若クハ姦通ニ因リ生レタル子ノ如キモ尙ホ之ヲ包含スルモノトス佛國民法ニハ之ヲ區別セルモ新民法ハ此區別ヲ認メサリシナリ然リ而シテ其私生子中ニテ父ノ認知シタル子ヲ庶子ト謂フ從來我國ハ妾ナルモノヲ認メタルカ故ニ妾腹ノ子ヲ指シテ庶子ト稱シタレトモ新民法ハ妾ヲ認メサルヲ以テ庶子トハ廣ク婚姻外ニ生レタル私生子ニシテ父ノ認知ヲ受ケタル者ノ名稱ト知ルヘシ舊民法人事編第九六條第九八條明治六年第二十一號

布告參看)

私生子ナル者ハ婚姻ニ因リ生レタル子ニ非サルヲ以テ法律上當然父又ハ母タル者ナシト雖モ父母カ認知スルニ因リテ始メテ親子ノ關係ヲ生ス故ニ認知ハ其子ノ身分ヲ確定シ親子ノ關係ヲ生スル重大ナル行為ナリトス而シテ實際ニ於テ女ハ分娩ナル表現ノ事實アルヲ以テ母ハ子ノ出生後直チニ之ヲ認知スルヲ常トスルモ父子ノ間ニハ斯ル表現ノ事實ナキカ故ニ直チニ之ヲ認知セザルコト多カルヘシ若シ父又ハ母カ任意ニ認知ヲ爲サナル場合ニハ第八百三十五條ノ規定ニ從ヒテ父又ハ母ニ對シテ認知ヲ求ムルコトヲ得又其認知ヲ爲スヘキ者ハ父又ハ母ニ限ル(第八二七條故ニ其父母カ無能力ナルトキト雖モ其法定代理人ノ同意ヲ要セス(第八二八條))

認知ノ方法ニ二アリ一ハ戶籍吏ニ届出ツルニ依リテ之ヲ爲シ他ハ遺言ニ依リテ之ヲ爲ス(第八二九條)戶籍法第八〇條乃至第八四條)元來民法上身分ニ關スル行為ニ付テハ總テ戶籍吏ニ届出ツヘキモノト爲シタルヲ以テ私生子ノ認知ニ付テモ亦他ノ身分ニ關スル行為ト等シク之ヲ戶籍吏ニ届出ツヘキモノトス然

レトモ私生子ノ認知ハ畢竟自己ノ不行跡ヲ自白スルニ等シキヲ以テ他ノ身分ニ關スル行為ノ如ク公然之ヲ爲スヲ憚リ内心之ヲ認ムルモ表面上敢テ認知ヲ爲ササル者尠シトセサルヘシ此ノ如キ輩ト雖モ其死ニ臨ミテハ己レノ罪ヲ懺悔シ且其子ヲ撫セント欲スルハ人ノ至情ナルヲ以テ法律ハ遺言ニ依リテ私生子ヲ認知スルコトヲ得セシメタリ尤モ遺言ノ效力ヲ發生シタル以上ハ戶籍法第八十三條ニ依リ届出ヲ爲スコトヲ要スト雖モ認知ノ效力ハ届出ニ因リテ生スルニ非スシテ其遺言ノ效力ヲ生スルト同時ニ其效力ヲ生スルモノトス

私生子ノ認知ハ其父タリ母タルコトヲ任意ニ自白スル行為ニシテ通常子ノ承諾ヲ要セザル一ノ單獨行為ナリト雖モ成年ノ子ヲ認知スル場合ニ於テハ其承諾ヲ要スルモノトセリ(第八三〇條)是レ他ナシ子カ成年ニ至ルマテ多年願ミナリシ父母ニ於テ子カ欲セザルニ拘ハラス之ヲ認知スルコトヲ許スハ子ノ利益ヲ保護スル所以ニ非サレハナリ唯未成年ノ子ニ在リテハ父母ノ認知ヲ拒絕スルニ十分ナル知慮未タ成熟セザルモノト認メ父母ノ意思ノミヲ以テ認知スルコトヲ得セシメタリ然レトモ若シ親子ノ關係ナキ者カ濫ニ認知ヲ爲シタル場

合ニ於テハ子其他ノ利害關係人ハ反對ノ事實ヲ主張スルコトヲ得ヘシ(第八三  
 四條)  
 又法律ハ胎内ニ在ル子ト雖モ父ヲシテ認知スルコトヲ得セシメタリ(第八三一  
 條第一項)蓋シ胎兒ハ法律上未タ人格ヲ具ヘス(第一條)ト雖モ例外トシテ第七百  
 二十一條第九百六十八條第九百九十三條第六十五條等ノ場合ニ於テハ權利  
 ノ主體ト看做スコトアリ而シテ胎兒ノ認知ハ直チニ胎兒ヲ以テ權利ノ主體ト  
 看做シタルニ非サレハ直接ニ第一條ノ例外ヲ爲サズト雖モ認知セラレタル胎  
 兒カ生存シテ生レタルトキハ家督ヲ相續シ又ハ扶養ヲ受タル等ノ權利ヲ有ス  
 ルニ至ルヲ以テ胎兒ノ認知ハ其精神ニ於テハ第一條ノ原則ノ例外ナリト謂フ  
 ヲ得ヘシ又胎兒ノ認知ニ付テハ母ノ承諾ヲ要スル所以ハ畢竟胎兒ハ未タ母體  
 ヲ離レサルヲ以テ之ヲ認知スルニハ其母ヲ指名セサルヲ得ス然ルニ之ヲ指名  
 スルハ其人ノ名譽又ハ利益ニ重大ナル影響ヲ及ホスコトアルヘキヲ以テナリ  
 法律カ死亡シタル私生子ノ認知ヲ許スハ其子ノ直系卑屬アル場合ニ限ル蓋シ  
 直系卑屬ナキトキハ父母カ其子ヲ認知スルハ其遺産ヲ相續セント欲スルノ外

目的ナキヲ以テ之ヲ許ササルナリ而シテ死亡シタル子ヲ認知スルハ其直系卑  
 屬ヲ直接ニ認知スルニ由ナキヲ以テ假ニ死者ヲ認知シテ其利益ヲ直系卑屬ニ  
 及ホサンカ爲メナリ故ニ右死者ノ卑屬ハ自ラ認知ヲ受タルニ等シキヲ以テ若  
 シ成年者ナルトキハ其承諾アルニ非サレハ認知ヲ爲スヲ得サルモノトス(第八  
 三一條第二項)  
 以上ノ外認知ハ父又ハ母ノ意思ヲ法律上ノ方式ニ從ヒ表示スレハ完全ニ其效  
 力ヲ生スルモ若シ其認知カ事實ニ反スルトキハ其認知セラレタル子又ハ其他  
 利害關係人ハ反對ノ事實ヲ舉ケテ其認知ヲ攻撃シ以テ認知ノ取消ヲ請求スル  
 コトヲ得(第八三四條)而シテ法律ハ單ニ利害關係人ト云ヒ之ヲ制限セサルヲ以  
 テ子ノ親族戸主家族其他總テ利害ノ關係アル者ハ之ヲ包含スルモノト解セザ  
 ルヘカラス  
 右ノ如ク認知ニ反對スヘキ場合アルモ而モ又子並ニ其直系卑屬又ハ此等ノ若  
 ノ法定代理人ヨリ父又ハ母ニ對シテ認知ヲ求ムルコトヲ得(第八三五條)此權利  
 ヲ普通父系又ハ母系ノ搜索權ト稱ス母系搜索權ハ各國概テ之ヲ認ムルモ父系

搜索權ハ之ヲ認メタル國アリ我國法ニ於テモ從來ハ之ヲ認メナリシ明治六年  
 布告第二十一號尙ホ佛國民法ニモ之ヲ認メナリシカ新民法ハ之ヲ認許セリ蓋  
 シ自己ノ父タル確實ノ證據アルトキハ之ヲ許ササルノ理ナシ若シ之ヲ許サス  
 トモハ私生子ニ對シテ聽ナルノミナラス母系ノ搜索權ヲ許レ父系ノ搜索權ヲ  
 許ササルハ條理ニ反スレハナリ尤モ母ニ對シテハ分統ノ事實アルヲ以テ舉證  
 容易ナルモ之ニ反シ父ニ認知ヲ求ムルハ舉證甚タ困難ニシテ實際上ニ於テハ  
 認知ヲ求ムルコトヲ得ル場合尠カレヘシ  
 以上ヲ以テ何人カ如何ニ認知シ又如何ナル場合ニ認知ヲ攻擊シ又ハ認知ヲ請  
 求スルコトヲ得ルヤヲ説明セリ以下認知ノ無効取消ニ付テ一言スヘシ  
 認知ノ無効ニ付テハ法律ハ本編ニ於テ毫モ之ヲ規定セスト雖モ認知ノ取消ニ  
 付テハ第八百三十三條ニ規定セリ故ニ無効ノ場合ハ之ヲ認メサルカ如キ觀ア  
 リ然レトモ私生子ノ認知ハ一ノ法律行為タルヤ疑ナキヲ以テ認知ヲ爲スニ意  
 思ノ必要ナルコトハ勿論ナリ隨テ意思ノ欠缺スルトキハ認知行爲ノ成立シ得  
 ヘキ理由ナシ左レハ此場合ニ於テ本編ニ規定ナキモ總則ノ規定ニ依リテ無効

即チ不成立ナルコトハ疑ナケレハナリ故ニ法律カ茲ニ之ヲ規定セザリシハ總  
 則ヲ適用スルノ意ナルヤ明カナリ  
 然ラハ認知取消ノ場合ニ付テハ如何第八百三十三條ノ規定ニ依レハ認知ヲ爲  
 シタル父又ハ母ハ其認知ヲ取消スコトヲ得ストアリ或ハ本條ヲ解シテ單ニ一  
 旦認知ヲ爲シタル者ハ何時ニテモ隨意ニ之ヲ取消スコトヲ得ストノ意ニ過キ  
 スシテ總則ノ規定ニ依リ取消ノ理由アレハ之ヲ許ササルヘカラスト論スル者  
 アリト雖モ予ハ之ニ贊同スルコトヲ得ス若シ本條ヲ以テ右ノ如キ趣旨ナリト  
 セハ實ニ無用ノ規定ナリト謂ハサルヘカラス何トナレハ總則ノ規定ニ依レハ  
 單獨行為ト雖モ何時ニテモ隨意ニ取消スコトヲ許スモノニ非サレハナリ故ニ  
 本條ハ特別ノ規定ニシテ則チ私生子ノ認知ニ付テハ絕對ニ取消スコトヲ得ス  
 トノ法意ナリト解スルヲ妥當ナリト信ス然ルニ人事訴訟手續法第二十七條ヲ  
 觀ルニ子ノ否認認知其認知ノ無効若クハ取消……云云ノ規定アリ此ノ如ク認  
 知ノ無効若クハ取消トアルヲ以テ第八百三十三條ニ於テモ取消スコトヲ得ヘ  
 キカ如シト雖モ該規定ハ第八百三十四條ニ依リ子又ハ其他ノ利害關係人コリ

認知ヲ取消ス場合ニ於ケル管轄裁判所ヲ定メタルモノニシテ第八百三十三條ニ於ケル父母ノ認知ノ場合ニ適用スヘキモノニ非サルヘシ  
 又總則第二百十條第一項ニ取消シ得ヘキ行為ハ無能力者若クハ瑕疵アル意思表示ヲ爲シタル者其代理人又ハ承繼人ニ限リ之ヲ取消スコトヲ得トアリ然ルニ私生子ノ認知ニ付テハ無能力者ト雖モ法定代理人ノ同意ヲ要セスシテ之ヲ爲スヲ得第八二八條ルニ依ルモ右總則ノ適用ヲ受ケタルコトハ明カナルシミナラス父母ノ代理人又ハ承繼人ハ私生子ノ認知ヲ取消スコトヲ得ヘキモノニ非サレハ第二百十條ノ規定ハ到底私生子ノ認知ニ關シテハ之ヲ適用スルヲ得ヘカラス  
 次ニ私生子認知ノ效力ハ如何認知ノ效力ハ認知シタル父又ハ母ト認知セラレタル子トノ間ニ親子ノ關係ヲ生スルト同時ニ雙方ノ親族間ニモ親族關係ヲ生ス隨テ其親族關係ニ基因スル總テノ權利義務ヲ生スルニ至ル是レ法律ハ特ニ此點ニ付テ規定セザルモ認知其モノカ親子ノ關係ヲ生スルモノナルヲ以テ親子關係ヨリ生スル效力ハ當然附隨スルモノトス而シテ其認知ノ效力ノ發生時

期ハ第八百三十二條ノ規定スル所ナリ即チ認知ハ出生ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス左レハ認知ハ認知ノ當時ヨリ其效力ヲ認ムルニ非スシテ出生ノ時ヨリ我子ナルコトヲ認ムルモノトス然リト雖モ如何ナル場合ニ於テモ出生ノ時ニ遡ルコトヲ得ルモノトセハ第三者ノ既得權ヲ障害スルニ至ルヲ以テ法律ハ同條但書ノ制限ヲ設ケタリ例ヘハ父カ隱居シタル當時男子ナカリシヲ以テ女子カ相續ヲ爲シ又子ナクシテ他人ヲ養子トシテ相續ヲ爲サシメタル後私生男子ヲ認知シタリトセンカ若シ其認知ノ效力カ全ク出生ノ時ニ遡ルモノトセハ隱居ノ當時既ニ男子アリシヲ以テ女子ハ相續ヲ爲スヲ得ス況ヤ他人タル養子ニ於テヤ然レトモ此ノ如クセハ第三者ノ既得權ヲ侵害スルコト甚シキヲ以テ右但書ハ至當ノ規定ナリト謂フヘシ  
 第八百三十六條ニ依レハ私生子ハ直チニ嫡出子タル身分ヲ取得スルコトアリ是レ直チニ認知ノ效力ト謂フヘカラスト雖モ認知カ父母ノ婚姻ナル他ノ要件ト併合シテ生スル所ノ效力ナルコト疑ナシ抑モ嫡出子トハ父母ノ婚姻ニ因リテ生レタル者ニシテ其然ラザル者ハ總テ私生子ナルコトハ前説明ニ如シ故ニ

私生子カ父母ノ認知及ヒ婚姻ニ因リ嫡出子ト爲ルコトハ理論ニ合スルモノニ非ス然レトモ父母カ婚姻ヲ爲シタルトキハ其以前ニ於ケル過失ヲ償ヒ其子ヲシテ嫡出子ノ身分ヲ取得セシムルハ蓋シ人情ニ適シタルモノト謂フヘシ而シテ父母共ニ認知シタル子ハ父母ノ婚姻ニ因リテ直チニ嫡出子タル身分ヲ取得シ又婚姻前ニ未タ父母カ認知セス又ハ其一方カ未タ認知セサルモ婚姻後之ヲ認知シタルトキハ其認知ノ時ヨリ嫡出子タル身分ヲ取得ス是レ第八百三十六條第二項ノ規定スル所ニシテ其第一項ト異ナル所ナリ而シテ第八百三十二條ノ但書ト其趣旨ヲ同シクス

第八百三十六條第三項ハ既ニ死亡シタル子ヲ認知スル場合ニシテ死亡シタル私生子ヲ認知スルハ其死亡者ノ子孫ノ利益ヲ保護スルカ爲メナレハ同條第一項及ヒ第二項ヲ準用スルコトト爲シタリ其詳細ハ曩ニ縷述セシ所ナレハ茲ニ之ヲ略ス(第八三一條第二項)

## 第二節 養子

養子ハ本來他人ノ子ヲ養ヒ取リテ自己ノ子ト爲スニ在リ此養子ノ制度ハ古來ヨリ我國ニ於テモ又西洋ニ於テモ行ハレタリ特ニ羅馬時代ノ養子ハ我國ノ制度ト殆ト類似シ家名ヲ繼カシムルヲ以テ其主眼ト爲シタリシモ現今西洋諸國ニ於テハ法制上ニ其規定ヲ存スル所アルモ實際稀ニ行ハルル所ニシテ父母カ己レノ私生子ヲ以テ養子ト爲スカ如キ僅少ノ場合ニ過キスト云フ然ルニ我國ハ之ニ反シ養子ヲ爲スハ一般ノ習俗ニシテ其主眼トスル趣旨ハ祖先ノ祭祀ヲ絶タタルニ在リテ宗教上並ニ道德上最も緊要ナル事ト爲セリ殊ニ封建時代ニ於テハ武家ニ於ケル家名ノ斷絶ハ重大ナル結果ヲ來セルヲ以テ養子ノ必要ナリシコト勿論ナリ其他農工商ノ家ニ於テモ家名相續ヲ重要視シタルノミナラス養子ニ家督ヲ讓リテ自ラ隱居ヲ樂ミ又ハ養子ノ働ニ因リテ生計ノ途ヲ立ツルカ如キ例尠シトセス故ニ養子ハ元ト家名相續ノ必要ヨリ生シタルモノナルヘシト雖モ家名相續以外ノ場合ニ於テモ養子ヲ爲ス者甚タ多キニ至レリ而シテ現今ニ於テモ此習俗毫モ變更スル所アルコトナシ然レトモ養親ト養子ハ元ト實親子ニ非サルヲ以テ其間常ニ實親子ニ等シキ愛情ノ存セサルハ固ヨリ其



所ナリトス随テ養子ヨリ生ズル弊害モ亦決シテ尠少ナラズト雖モ養子ノ制度ハ我國ノ人情風俗ニ適スルノミナラス家ヲ以テ社會ノ基礎トスル家族制度ヲ存スル以上ハ之カ存在ヲ必要トスルコト亦勿論ナルヘシ  
本節ハ之ヲ分チテ四款トス即チ第一款縁組ノ要件第二款縁組ノ無効及ヒ取消第三款縁組ノ效力第四款離縁是ナリ

### 第一款 縁組ノ要件

養子縁組ハ婚姻ト相類似セリ故ニ法律上ノ規定ヨリ觀ルモ類似セル所多シ是ヲ以テ養子縁組ノ要件モ亦實質上ノ要件ト形式上ノ要件トニ區別スルコトヲ得故ニ先ツ其實質上ノ要件ヨリ説明シテ以テ形式的要件ニ及ホスヘシ  
第一 實質上ノ要件  
第一要件 當事者間ニ於テ縁組ヲ爲スノ意思アルコトヲ要ス  
養子縁組ノ要件ヲ列舉シタル本款中ニハ此規定ナキモ第八百五十一條第一號ニ於テ當事者間ニ縁組ノ意思ナキトキハ無効ト爲セリ是レ即チ養子縁組モ亦

契約ノ一ナレハ意思ヲ要スルコトハ言フヲ埃タスシテ明カナレハナリ然レモモ絕對ニ當事者ノ意思ヲ要スルモノト爲ストキハ意思能力ヲ有セザル幼者ハ養子ト爲ルコトヲ得サルニ至ル是レ我國從來ノ慣習ニ反スルノミナラス時ニ或ハ幼者ノ爲メニ甚シキ不利益ナキニシモ非ス是ニ於テカ法律ハ第八百四十三條ニ於テ「養子ト爲ルヘキ者カ十五歳未滿ナルトキハ其家ニ在ル父母之ニ代ハリテ縁組ノ承諾ヲ爲スコトヲ得」トノ例外規定ヲ設ケタル所以ナリ  
心神喪失者ノ如キ意思ナキ者ハ全ク養子縁組ヲ爲スコトヲ得ス但其者カ本心ニ復シタルトキハ自己ノ意思ノミニテ爲スコトヲ得ルハ勿論ナリ(第八四八條)  
第二要件 養子ヲ爲ス者ハ成年ニ達シタルコトヲ要ス(第八三七條)  
從來未成年者ニ養子ヲ爲スコトヲ許シタル例ナキニ非スト雖モ實際上之ヲ許スノ必要ナキヲ以テ新民法ハ之ヲ許サザルナリ舊民法人事編ニ於テモ未成年者ニハ養子ヲ爲スヲ許サス(同第一〇六條)唯遺言ヲ爲ス能力アル者ハ未成年者ト雖モ遺言ヲ以テ養子ヲ爲スコトヲ許シタリ而シテ新民法ニ於テハ遺言ヲ以テ養子ヲ爲スコトハ之ヲ認メタ事ト雖モ年齢ニ付テ何等ノ規定ナキヲ以テ成

年ニ違シタル者ニ非ズレバ遺言養子モ亦之ヲ爲スヲ得サルモ又ト謂ハザルル  
 カラスニ遺言ニ依テ養子ト爲スルコトハ遺言ニ依テ養子ト爲スルコトニ  
 第三要件ニ尊屬又ハ年長者ハ之ヲ養子ト爲スコトヲ得ス(第八三八條)  
 尊屬トハ祖父父母ノ如キ又伯叔父母若クハ兄姉ノ如キ目上ノ親族ヲ謂フ舊  
 民法ニ於テハ單ニ年長者ヲ養子ト爲スヲ得サル旨ヲ規定シタリト雖モ尊屬ニ  
 シテ年少ナル者ナキニ非ス而シテ假令年少者ト雖モ尊屬ナル以上ハ之ヲ子ト  
 スルハ不倫ノ嫌アルヲ免レザルヲ以テ新民法ハ尊屬ハ之ヲ養子ト爲スヲ得  
 ル旨ヲ明言シタリ  
 年長者ヲ養子ト爲スコトヲ得サルモ亦不倫ノ嫌アルヲ以テナリ何トナレハ養  
 子ハ實子ト同一ノ關係ヲ生スルモノナルニ子カ親ヨリ年長者ナルカ如キハ甚  
 タ穩當ナラサルヲ以テナリ卑屬ハ之ヲ養子ト爲スコトヲ妨ケザルヲ以テ弟妹  
 孫曾孫庶子私生子等ハ之ヲ養子ト爲スコトヲ得ヘシ而シテ庶子私生子ノ如キ  
 ハ實子ナルヲ以テ之ヲ養子ト爲スハ一見奇ナルカ如シト雖モ養子ハ縁組ノ時  
 僅リ養親ノ嫡出子タル身分ヲ取得スルモノナレハ庶子又ハ私生子ヲ養子ト爲

シ嫡出子タル身分ヲ得セシムルハ毫モ不當ノコトニ非サルナリ又他家ニ在ル  
 自己ノ嫡出子ト雖モ之ヲ養子ト爲スヲ得ヘキナリ  
 第四要件 男子ヲ養子ト爲スニハ法定ノ推定家督相續人タル男子ナキヲ要ス  
 但女婿ト爲ス爲メニスル場合ハ此限ニ在ラス(第八三九條)  
 舊民法人事編第百七條ニ依レハ家督相續ヲ爲スヘキ男子アル者ハ養子ヲ爲ス  
 コトヲ得ストナリ又同法第百九條ニ依レハ戶主ニ非サル者ハ養子ヲ爲スコト  
 ヲ得ス但推定家督相續人ニシテ戶主ノ許諾ヲ得タル者ハ此限ニ在ラストアリ  
 ナ同法ハ家督相續ノ爲メニスルニ非サレハ養子ヲ爲スコトヲ許ササルノ趣旨  
 ナルヤ明カナリ新民法ニ於テハ其趣旨ヲ改メ養子縁組ハ單ニ家督相續ノ爲メ  
 ニスルモノニノミ之ヲ許スニ非スシテ汎ク何人ニモ之ヲ許スコトト爲シタル  
 モノナリ然ラハ則テ何故ニ法定ノ推定家督相續人タル男子在ル場合ニ男子ヲ  
 養子ト爲スコトヲ許ササルカ其理由甚タ解シ難シ或ハ曰ハシ養子ハ單ニ家督  
 相續ノ爲メニスルニ非スト雖モ其主タル目的ハ家督相續ノ爲メナレハ已ニ家  
 督相續人アル以上ハ之ヲ許スヘキ必要ナク又家督相續人アルニ拘ハラス重キ

ヲ養子ヲ爲セハ一家ノ平和ヲ破リ且相續權ヲ侵害スルノ虞アルヲ以テナリト然レトモ既に女孺ト爲ス爲メニスル場合ハ家督相續人タル男子アルトキト雖モ男子ヲ養子ト爲スヲ許ス以上ハ女孺ト爲ス爲メニセザル養子ヲ爲スモ一家ノ平和ヲ破ルノ虞アリト謂フヘキ理由ナク又養子縁組ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得シタル者ハ家督相續ニ付テハ其嫡出子タル身分ヲ取得シタル時ニ生シタルモノト看做ス(第九七〇條第二項)以テ假ニ養子ヲ以テ家督相續人タル男子ヨリ年長者ナリトスルモ家督相續ニ付テハ年少者タル順位ニ在ルヲ以テ家督相續人ニ對シ何等ノ害ヲ及ホスヘキ虞アルコトナシ故ニ新民法ノ趣旨ヨリ云ヘハ此ノ如キ制限ヲ設ケタルノ必要ナキカ如シ

第五要件 後見人ハ被後見人ヲ養子ト爲スコトヲ得ス其任務カ終了シタル後未タ管理ノ計算ヲ終ハラサル間亦同シ

前項ノ規定ハ第八百四十八條ノ場合ニハ之ヲ適用セス(第八四〇條)

此規定ヲ設ケタル理由ハ畢竟被後見人ヲ保護センカ爲メナリ後見人ハ被後見人ノ財産ヲ管理シ其任務終了ノ後二箇月内ニ其管理ノ計算ヲ爲ササルヘカラ

第九三七條然ルニ若シ被後見人ヲ養子ト爲スヲ許ストキハ其結果後見人ハ其資格ヲ變シ親權者トシテ財産ノ管理ヲ爲スコトト爲リ隨テ計算ノ義務ヲモ免ルルコトト爲ル加之後見人ニ付テハ親族會又ハ後見監督人等ノ監督ノ下ニ在ルモ親權者ハ此等ノ監督機關ナキヲ以テ濫費私消シタル不始末ヲ蔽ハンカ爲メ被後見人ヲ以テ養子ト爲スカ如キコトナキヲ保スヘカラス故ニ此制限ヲ設ケリ然レトモ遺言養子ヲ爲ス場合ニ於テハ右ニ説述シタル如キ弊害ヲ生スルノ虞ナキヲ以テ第二項ノ例外ヲ設ケタルナリ

第六要件 配偶者アル者ハ其配偶者ト共ニスルニ非サレハ縁組ヲ爲スコトヲ得ス

夫婦ノ一方カ他ノ一方ノ子ヲ養子ト爲スニハ他ノ一方ノ同意ヲ得ルヲ以テ足ル(第八四一條)

配偶者アル者カ養子ヲ爲スニハ其配偶者ト共ニスルニ非サレハ能ハス配偶者アル者養子ヲ爲スニ當リ自己一人ニテ之ヲ爲ストキハ配偶者ト養子トノ間ニハ親子ノ關係生セサル奇怪ノ結果ヲ生シ從來ノ慣習ニ反スルヲ以テナリ又配

偶者アル者ハ其配偶者ト共ニスルニ非ナレハ養子ト爲ルコトヲ得ス是レ亦舊慣ニ從ヒタルモノナリ(舊民法八事編第一一〇條參看)然レトモ夫婦ノ一方ノ子ヲ他ノ一方ノ養子ト爲ス場合ニハ他ノ一方ノ者ニ對シテハ固ヨリ實子タルヲ以テ一方ノ同意ヲ以テ足レリトス是レ當然ノコトト謂フヘシ然ルニ例ヘハ夫ノ庶子ヲ其同意ヲ得テ妻カ養子ト爲シタルトキハ養子ハ縁組ノ時ヨリ嫡出子ノ身分ヲ取得スルヲ以テ妻ヨリ見レハ其養子ハ嫡出子ナルモ夫ヨリ見レハ依然タル庶子ナリト謂ハサルヘカラス故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ夫婦共同シテ養子ト爲スヲ以テ相當ナリトスヘシ

本條ニ依リ夫婦共同ニテ養子ヲ爲ス場合ニ夫婦ノ一方カ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ第八百四十二條ノ規定ニ依リ他ノ一方ハ雙方ノ名義ヲ以テ縁組ヲ爲スコトヲ得即チ第八百四十一條ニ依レハ夫婦ハ共同ニテ縁組ヲ爲スヘキモノナレハ其一方カ精神病等ニテ意思ヲ表示シ能ハサルトキハ縁組ヲ爲ス能ハサル不便アルヲ以テ他ノ一方カ雙方ノ名義ヲ以テ縁組ヲ爲スコトヲ得セシメタルナリ舊民法八事編第一百十條ニモ同趣旨ノ規定アリ其詳詳見八

第七要件 養子ト爲ルヘキ者カ十五歳未満ナルトキハ其家ニ在ル父母之ニ代ハリテ縁組ノ承諾ヲ爲スコトヲ得

繼父母又ハ嫡母カ前項ノ承諾ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス(第八四三條)

前ニ第一要件ヲ述アルニ當リ縁組ハ雙方ノ意思ヲ要スルモ十五歳未満ノ養子ニ對シテハ特例アルコトヲ注意シタリ本條ハ即チ其特例ヲ規定セリ十五歳未満ノ者ハ全然意思能力ナキカ或ハ意思能力極メテ薄弱ナルヲ以テ法律ハ此等ノ者ノ養子ト爲ルニ付テハ其家ニ在ル父母代リテ承諾ヲ爲スヘキモノトセリ元來養子縁組ノ當事者ハ養親ト養子トニ外ナラス其當事者タル養子カ意思ヲ表示セスシテ其父母代リテ之ヲ表示スルハ論理ニ協ハサルノ嫌アリト雖モ幼者ヲ養子ト爲スハ從來慣習ノ認ムル所ナルノミナラズ必要アルヲ以テ此特例ヲ設ケタルモノナリ幼者ニ代リテ縁組ノ承諾ヲ爲ス者ハ其家ニ在ル父母ニ限ル故ニ父母ト雖モ他家ニ在ル者ハ之ヲ爲スヲ許サズ繼父母又ハ嫡母カ承諾ヲ爲ス場合ハ親族會ノ同意ヲ要ス是レ繼父母及ヒ嫡母ハ幼者ノ利益ヲ圖ルコト

實父母ノ如ク注意周到ナラサルニ虞アルヲ以テナリ若シ十五年未滿ノ者カ養子ト爲ルニ當リ父母ノ一方知レサルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキ他ノ一方ノ同意ノミヲ以テ足ル若シ父母共ニ知レサルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ未成年者ハ其後見人及ヒ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス(第八四六條第七七二條第二項及ヒ第三項)

第八要件 成年ノ子カ養子ヲ爲シ又ハ滿十五年以上ノ子カ養子ト爲ルニハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス(第八四四條)

成年ノ子カ養子ヲ爲シ又十五年以上ノ者カ養子ト爲ルニ付テモ總テ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得サルヘカラス蓋シ養子ヲ爲スハ單ニ養親ト養子トノ關係ニ止マラスシテ其養親ノ父母ハ養子ノ祖父母ト爲ルヘキヲ以テ父母ハ自己ノ子カ養子ヲ爲スニ付テハ直接ノ利害關係ヲ有スルヲミナラス養子ヲ爲スハ一家ノ大事ナレハナリ又養子ト爲ルハ即チ實家ヲ去リテ養親ノ家ニ入ルヘキモノニシテ家族關係ニ重大ナル影響ヲ及ホスヲ以テナリ

本條ノ場合ニ於テモ第八四六條第一項ヲ以テ第七百七十二條第二項及ヒ第三項ノ規定ヲ準用スルコト第七要件ノ場合ト同一ナリトス又同條第二項ヲ以テ第七百七十三條ヲ準用シ繼父母又ハ嫡母カ子ノ縁組ニ同意セサルトキハ子ハ親族會ノ同意ヲ得テ縁組ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第九要件 縁組又ハ婚姻ニ依リテ他家ニ入リタル者カ更ニ養子トシテ他家ニ入ラント欲スルトキハ實家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但妻カ夫ニ隨ヒテ他家ニ入ルハ此限ニ在ラス(第八四五條)

本條ハ既ニ縁組又ハ婚姻ヲ爲シテ他家ニ入リタル者カ更ニ養子トシテ他家ニ入ルヘキ場合ニ付テノ規定ナリ此場合ニ於テ更ニ實家ノ父母ノ同意ヲ要スル理由ハ始メテ實家ヲ去ルニ當リ父母ノ同意ヲ要スル所ナシ唯妻カ夫ニ隨ヒテ他家ニ入ル場合ハ實家ノ父母ノ同意ヲ要セサル所以ハ法律上妻ハ夫ニ隨フヲ原則トスルヲ以テ總令父母ノ同意ナキモ妻ハ夫ニ隨ヒ其家ニ入ラサルヲ得サレハナリ第八百四十六條第一項ヲ以テ第七百七十二條第二項及ヒ第三項ノ規定ヲ準用シ同條第二項ヲ以テ第七百七十三條ヲ本條ノ場合ニ準用ス

ルコト前項ニ同シニ同前條第二項ニ於テ遺言者ノ遺言ニ於テハ  
 第二項形式上ノ要件ハ第四十六條第一項ニ於テ遺言者ノ遺言ニ於テハ  
 縁組ノ形式上ノ要件ハ婚姻ニ於ケルカ如ク戸籍吏ニ届出ツルニ在リ第七五  
 條第八四七條而シテ其届出ニ關スル方式モ亦婚姻ニ於ケルト同一ナリトス然  
 レトモ法律ハ遺言養子ナルモノヲ認メタリ即チ養子ヲ爲サント欲スル者ハ遺  
 言ヲ以テ其意思表示ヲ爲スコトヲ得是レ從來ノ慣例上家督相続人ナキ者カ疾  
 病ニ罹リ瀕死ノ場合ニ於テ遺言ヲ以テ養子縁組ヲ爲スコト屢見聞シタル所ニ  
 シテ則チ法律ハ此慣例ヲ認メタリ此遺言養子ニ關スル形式上ノ要件即チ届出  
 ハ第八四十八條ニ依ラサルヘカラス即チ遺言執行者養子ト爲ルヘキ者又ハ  
 十五年未滿ノ者ニ代リテ承諾ヲ爲シタル者及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ遺言  
 カ效力ヲ生シタル後遲滞ナク縁組ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス茲ニ所謂遺言カ效  
 力ヲ生シタル後トハ遺言者カ死亡シタルトキハ遺言ノ效力ヲ生スルヲ常トス  
 ルモ必スシモ然ルニ非ス遺言カ條件ニ繋リタルトキハ其條件ノ成就セザレハ  
 其效力ヲ生セズ故ニ法律ハ遺言ノ效力ヲ生シタル後遲滞ナク届出ツルコトヲ

要スト爲シ遺言者ノ死亡シタル後ト爲サナリシナリ  
 遺言養子ノ效力カ普通ノ養子縁組ノ如ク届出ノ當時ヨリ其效力ヲ生スルモノ  
 トセハ遺言者ノ死亡シタル時ヨリ縁組ノ届出ヲ爲ス間ハ養子ナキモノトセザ  
 ルヘカラサルカ故ニ其縁組ノ届出ハ遺言者ノ死亡後幾何ノ時間ヲ經過ス  
 ルモ遺言者ノ死亡ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生スルモノトセリ茲ニ注意スヘキハ  
 遺言養子ハ遺言ヲ以テ其意思表示ヲ爲スノミヲ以テ成立スルモノニ非ス養子  
 ト爲ルヘキ者カ承諾スルカ又ハ養子ト爲ル者カ十五年未滿ノ幼者ナルトキハ  
 第八百四十三條ノ規定ニ依リ父母カ之ニ代リテ承諾シ而シテ遺言執行者及ヒ  
 成年ノ證人二人以上ト共ニ届出ヲ爲スニ因リテ始メテ遺言養子ハ完成スルモ  
 ノナリ  
 養子縁組ノ届出ニ關スル戸籍吏ノ義務ハ第八百四十九條ニ規定スル所ニシテ  
 其大體ニ於テハ婚姻ノ届出ニ關スル規定ト略ホ同一ナリ即チ戸籍吏ハ其届出  
 カ適法ナルコトヲ認メタル後ニ非サレハ之ヲ受理スルコトヲ得ス其届出カ適  
 法ナルヤ否ヤヲ調査スルニハ第八百四十九條ニ列記スル條項及ヒ其他ノ法令

(戸籍法華族令陸海軍武官結婚條例等ノ如キニ依據セサルヘカラス然レトモ養子縁組ヲ爲ス者カ第七百四十一條第一項又ハ第七百五十條第一項ニ依リ戸主ノ同意ヲ得スシテ縁組ノ届出ヲ爲シタルトキハ戸籍吏ハ一應注意ヲ與ヘ若シ當事者之ヲ背セスシテ尙ホ届出ヲ爲ストキハ戸籍吏ハ之ヲ受理セサルヲ得ス是レ戸主ノ同意ハ縁組ノ絕對的必要條件ニ非スシテ唯其制裁トシテ離籍セラレ又ハ復籍ヲ拒マルルコトアルニ過キサレハ當事者カ此制裁ヲ受タルコトヲ甘スルトキハ又止ムヲ得ツレハナリ尙ホ其詳細ハ婚姻ノ届出ニ關スル説明ヲ見テ了得スヘシ

外國ニ於テ爲ス日本人間ノ縁組ノ届出ハ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ之ヲ爲ス而シテ其届出ノ方式ハ内國ノ戸籍吏ニ届出ヲ爲スト同シ即チ第七百七十五條第八百四十八條及ヒ第八百四十九條ヲ準用ス

### 第二款 縁組ノ無効及ヒ取消

縁組ノ無効及ヒ取消シ得ヘキ場合ハ婚姻ノ無効及ヒ取消シ得ヘキ場合ト同シ

ク法律ニ之ヲ限定セリ即チ第八百五十一條ニ「縁組ハ左ノ場合ニ限り無効トス」ト規定シ又第八百五十二條ニ「縁組ハ後七條ノ規定ニ依ルニ非サレハ之ヲ取消スコトヲ得スト規定スルヲ以テ其限定的ナルコト明カナリ」ト規定ス

縁組ノ無効ナル場合ハ第八百五十一條之ヲ列舉セリ即チ左ノ如シ第七七八條參照)

- (一) 人違其他ノ事由ニ因リ當事者間ニ縁組ヲ爲ス意思ナキトキ但養子ト爲ルヘキ者カ十五年未滿ナルトキハ其者ハ未タ識別心ナキヲ以テ第八百四十三條ノ規定ニ從ヒ其家ニ在ル父母之ニ代リテ承諾ヲ爲スコトヲ得ルヲ以テ此場合ニ在リテハ其家ニ在ル父母ニ縁組ヲ爲ス意思ナキトキモ亦本條ノ適用ヲ受ケサルヘカラス
- (二) 當事者カ縁組ノ届出ヲ爲ササルトキ但届出ノ方式ヲ缺クト雖モ縁組ノ効力ハ之カ爲メニ妨ケラレズ蓋シ偶其方式ニ缺點アリトテ之ヲ無効トスルハ斷ニ失スルヲ以テナリ而シテ其方式ニ缺點アリヤ否ヤハ第七百七十五條第二項又ハ第八百四十八條第一項ノ規定ニ準據シタルヤ否ヤヲ見レハ明カナリ



縁組ヲ取消シ得ヘキ場合ハ次ノ如シ第八五二條ノ旨ニ依リ養親カ成年ニ達セシテ養子ヲ爲シタル場合第八五三條ノ旨ニ依リ養子ヲ爲ス者ハ成年ニ達スルコトヲ要ス第八三七條舊民人第一二八條故ニ未成年者カ養子ヲ爲シタルトキハ未成年タル養親又ハ其法定代理人ハ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得是レ即チ普通ノ法律行爲ト同シク未成年者カ爲シタル人事行爲ハ十分ノ智慮識別心ヲ以テ爲シタルモノニ非サルヲ以テ其取消ヲ許スヘキコト妥當ナレハナリ然レトモ之ニハ例外アリ即チ養親カ成年ニ達シタル後六箇月ヲ經過スルカ又ハ追認ヲ爲シタルトキハ其取消權ヲ喪失ス其理由ハ養親カ成年ニ達シタル後六箇月モ取消ヲ爲サザルトキハ最早默認シタルモノト看做シテ不可ナク又養親カ成年ニ達シテ追認シタルトキハ其取消權ヲ失フヘキハ當然ノコトニシテ別ニ論ヲ俟タザルナリ

(二) 尊屬親又ハ年長者ヲ養子ト爲シ又ハ法定ノ推定家督相續人タル男子アル者カ男子ヲ養子ト爲シタル場合第八五四條ノ旨ニ依リ養親カ成年ニ達シタル場合ハ各當事者ハ勿論戸主又ハ親族ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ

得然リ而シテ此場合ハ最モ公益ニ關スルカ故ニ何時ニテモ取消ヲ爲スコトヲ得之カ追認ヲ許サス尙ホ一方ノ死亡シタル後ト雖モ取消ヲ爲スコトヲ得唯婚姻ノ場合ニハ檢事ニ取消權ヲ與ヘタルモ此場合ニ於テハ之ヲ許サス是レ畢竟國家ノ干渉ヲ要セストノ理由ニ出テタルモノナルヘシ

(三) 後見人カ管理ノ計算ヲ終ラサル前被後見人ヲ養子ト爲シタル場合第八五二條ノ旨ニ依リ養親カ成年ニ達セシテ養子ヲ爲シタル場合ハ最モ公益ニ關スルカ故ニ何時ニテモ取消ヲ爲スコトヲ得然リ而シテ此場合ハ最モ公益ニ關スルカ故ニ何時ニテモ取消ヲ爲スコトヲ得之カ追認ヲ許サス尙ホ一方ノ死亡シタル後ト雖モ取消ヲ爲スコトヲ得唯婚姻ノ場合ニハ檢事ニ取消權ヲ與ヘタルモ此場合ニ於テハ之ヲ許サス是レ畢竟國家ノ干渉ヲ要セストノ理由ニ出テタルモノナルヘシ

(五) 後見人カ管理ノ計算ヲ終ラサル前被後見人ヲ養子ト爲シタル場合第八五二條ノ旨ニ依リ養親カ成年ニ達セシテ養子ヲ爲シタル場合ハ最モ公益ニ關スルカ故ニ何時ニテモ取消ヲ爲スコトヲ得然リ而シテ此場合ハ最モ公益ニ關スルカ故ニ何時ニテモ取消ヲ爲スコトヲ得之カ追認ヲ許サス尙ホ一方ノ死亡シタル後ト雖モ取消ヲ爲スコトヲ得唯婚姻ノ場合ニハ檢事ニ取消權ヲ與ヘタルモ此場合ニ於テハ之ヲ許サス是レ畢竟國家ノ干渉ヲ要セストノ理由ニ出テタルモノナルヘシ

後見人カ被後見人ヲ養子ト爲スコトヲ得サルハ被後見人ノ財産ヲ保護スルノ主旨ニ出ツ故ニ養子又ハ實方ノ親族ニノミ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得セシメ養親ニハ之ヲ許サス但管理ノ計算ヲ終リタル後養子カ追認シ又ハ六箇月ヲ經過シタルトキハ其取消權ヲ失フ是レ法律ノ保護スル原因ナキニ至リタルヲ以テナリ而シテ養子カ追認ヲ爲スニハ其養子カ成年ニ達シ又ハ能力ヲ回復シタル後即チ禁治産ノ宣告ヲ取消サレタル後タルヲトヲ要ス又管理ノ計算カ養子ノ成年ニ達セヌ又ハ能力ヲ回復セザル前ニ終了シタルトキハ前ノ六箇月ノ期間ヲ計算スルノ起算點ハ養子カ成年ニ達シタル時又ハ能力ヲ回復シ

タル時ヨリ之ヲ起算スルモ、ナリ養子ニ依リテ其親族ノ地位ヲ得ルハ、  
 (四) 配偶者アル者ガ其配偶者ノ同意ヲ得シテ縁組ヲ爲シタル場合第八五六  
 此場合ハ同意ヲ爲サナリシ配偶者ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但  
 其配偶者カ縁組アリタルコトヲ知リタル後追認シ又ハ六箇月ヲ経過シタルト  
 キハ追認シタルモノト看做ス蓋シ夫婦カ共同セスシテ縁組ヲ爲シタルトキハ  
 配偶者ノ一方ハ之カ取消ヲ請求スルヲ得ルニ拘ハラヌ六箇月モ経過シタルト  
 キハ之ヲ自己ノ養子トシテ認メタルモノト謂フヘシ  
 (五) 第八百四十四條乃至第八百四十六條ノ規定ニ違反シテ縁組ヲ爲シタル場  
 合第八五七條  
 即チ成年ノ子カ養子ヲ爲シ又ハ滿十五年以上ノ子カ養子ト爲ルニ由リ其家ニ  
 在ル父母ノ同意ヲ得サリントキ又縁組若クハ婚姻ニ因リテ他家ニ入りタル者  
 カ縁組ニ依リ更ニ他家ニ入ラントスルニ方リ實家ニ在ル父母ノ同意ヲ得サリ  
 シトキ或ハ又同意ヲ得タルモ其同意カ詐欺又ハ強迫ニ因リタルトキ此三箇ノ

者ヲシテ任意ニ其滿期日ヲ定メ得セシムルトキハ手形ハ滿期日ノ異ナルニ隨  
 ヒ其相場ヲ異ニシテ償還金額ニ高低ヲ生シ其請求ヲ受タル者ニ意外ノ損失ヲ  
 被ラシムルノ不都合アレハナリ  
 以上ノ諸點ヲ除キテハ戻手形モノノ爲替手形ナルカ故ニ其成立效力及ヒ消滅  
 ニ關シテハ普通ノ爲替手形ト異ナル所ナシ  
 償還ノ請求ハ現金ノ取立ニ係ルト戻手形ヲ發行シテ之ヲ爲ストヲ問ハス孰レ  
 ノ場合ニ於テモ爲替手形支拂拒絶證書及ヒ償還計算書ヲ提供シテ之ヲ爲スニ  
 トヲ要ス償還義務者カ手形ノ呈示ニ對シ支拂ナカリシ事實竝ニ自己ノ盡スヘ  
 キ責任ノ範圍ヲ知ルハ一ニ此等ノ書類ニ依ルモノナルヲ以テ之ト引換ニ非ザ  
 レハ償還ヲ爲スニ及ハサルコトハ彼ノ支拂カ手形ト交換的ニ爲サルヘキト同  
 一ナリ故ニ若シ戻手形ヲ發行シタルトキハ其手形ニ此等ノ書類ヲ添附セザル  
 ヘカラス然ラサレハ終ニ戻手形ノ支拂ヲ得ル能ハサルノ恐アリ尙ホ償還ノ請  
 求ヲ爲シタル者カ償還ヲ受タルニ當リ償還ヲ爲ス者ヨリ請求アルトキハ償還  
 計算書ニ償還ヲ受ケタル旨ヲ記載シ且署名シテ之ヲ引渡ササルヘカラス此等

第七節 保証

一般債務ニ關シテ一般ノ保証アルト同シタ手形行爲ヨリ生シタル手形債務ニモ亦之ヲ擔保スルカ爲メノ手形保証アリ手形保証ト云フモ固ヨリ保証ノ一種ニ過キサルヲ以テ一般ノ保証ト同シク其債務ハ從タル性質ヲ有シ主タル債務ノ存在ヲ條件トシテ成存スヘキハ勿論ナリ故ニ若シ主タル手形債務カ或ハ其發生原因タル手形行爲ニ法定要件ノ欠缺アリタルカ爲メ成立セザルカ如キ場合ニハ保証債務モ亦發生スルコトナク又主タル債務カ時效若クハ手續ノ欠缺ニ因リテ消滅シタル場合ニハ保証債務モ亦之ニ伴ヒテ消滅スヘキナリ然レトモ手形保証ハ嚴格ナル手形債務ヲ擔保スルカ爲メニ存在シ其行爲モ亦一ノ手形行爲ヲ成スモノナルヲ以テ此點ヨリ一種ノ性質ヲ具フルニ至リ他面ニ於テ一般ノ保証トハ全ク其趣ヲ異ニシ居レリ等シク主タル債務ノ存在ヲ條件トシテ成存スト云フモ手形保証ニ在リテハ其主タル手形債務ノ形式ノ上ニ於テ存

在スレハ足り敢テ其實質ニ於テ真正ニ成存シ居ルヲ必要トセス故ニ主タル債務者タル振出人裏書人引受人又ハ參加引受人ノ署名カ偽造ニ成リタルカ爲メ又ハ主タル債務者カ無能力者ニシテ其債務ヲ取消シタルカ爲メ主タル債務者カ無効ナルカ如キ場合ニモ一旦其者ノ爲メニ爲サレタル保証ハ之ニ影響セララルコトナク完全ニ成立シ又ハ存在スヘキナリ(第四九七條)

元來保証ハ手形債務ヲ擔保シ其履行ヲ確實ニスルヲ其目的トスルモノナルヲ以テ手形債權者ハ之ニ因リテ利益ヲ受クルニハ相違ナキモ手形債務ニ保証ノ存在スルト云フコトハ取リモ直サス其債務者ノ信用ヲ表白スルコトト爲リ隨テ其手形ハ之カ爲メ却テ流通ヲ沮害セララルルノ虞ナキニ非ス故ニ若シ手形債務ヲ擔保スルニハ此保証ニ依ルノ外他ニ適當ナル手段ナシトセハ格別然ラサレハ此方法ハ好ミテ用フヘキニ非ス引受人ノ債務ヲ確保スルカ爲メニハ此保証ヲ必要トスルコトアルヘシト雖モ尤モ手形振出ノ當時ナラハ保証人タラントスル者ヲ支拂人ト爲シ且引受ヲ爲サシメ以テ同一ノ目的ヲ達シ得ヘキカ故ニ此時ニハ強テ保証ノ方法ニ依ルヲ要セス振出人又ハ裏書人ノ債務ヲ擔保

スルニハ一旦保證人タラントスル者ニ其手形ヲ裏書シ更ニ其被裏書人即チ保證人タラントスル者ヨリ手形債權者ニ裏書セシムルニ於テハ其保證人タラントスル者ハ裏書人トシテ擔保義務ヲ負擔シ恰モ其振出人又ハ裏書人ノ債務ヲ保證シタルト同一ノ效果ヲ生シ得ヘキナリ此ノ如ク振出人及ヒ裏書人ノ爲メニスル保證ハ之ニ因リテ却テ手形ノ信用ヲ害センヨリハ寧ロ他ノ手形即チ裏書ニ依リテ十分其目的ヲ達シ得ヘキヲ以テ此保證制度ハ實際ノ取扱ニ於テ引受人ノ爲メニスル保證ノ外ハ有害無益ノモノトシテ殆ト之ヲ用フルモノナカルヘシ

手形保證ノ如何ナルモノナルカハ之ヲ了解シ得タルヘシ依テ以下其手形保證ハ如何ニシテ成立スルカ將タ亦其效力如何ニ付テ説明スヘシ

第一 保證ノ要件 保證モ亦手形行爲ノ一ナルカ故ニ其意思ハ必ス之ヲ手形面ニ表示セサルヘカラス手形以外ニ於テ爲サレタル保證ハ決シテ手形上ノ效力ヲ生スルコトナシ其表意ノ方式ハ手形又ハ其謄本若クハ補箋ニ保證ノ意味ヲ表示シテ之ニ署名スルニ在リ手形ノ外向ホ其謄本又ハ補箋ニ爲サレタル保

證ヲ認メタルハ蓋シ裏書ニ關レテ謄本又ハ補箋ノ效力ヲ認メタル以上ハ裏書人ノ爲メニスル保證モ亦之ニ其意思ヲ表示スヘキ機會アルヘケレハナリ何人ノ爲メニ保證ヲ爲シタルヤノ記載ハ敢テ保證債務ノ成立ニ必要ナラス隨テ時トシテ之ヲ缺キ爲メニ其被保證人ノ誰タルカノ不明ナルコトアリ此場合ニ關シテハ手形ノ信用ヲ増加センカ爲メ一ノ規定ヲ設ケ其保證ヲ以テ最モ重キ手形債務ノ爲メニ爲サレタルモノト看做シタリ即チ主タル債務者タル引受人アルトキハ其引受人又引受人ナキトキハ擔保義務者中最終ノ責任者タル振出人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做サル(第四九八條)

第二 保證ノ效力 保證人ノ責任ハ主タル債務者ノ責任ト其範圍ヲ同シウシ其保證シタル債務ニ付キ主タル債務者ト連帯シテ其履行ヲ爲ス責ニ任ス(第二六三條第一項第四號)第二七三條第四九七條故ニ手形保證ニハ保證人カ主タル債務者ト連帯シテ其責ニ任スル場合ノ一般規定カ適用セララルナリ茲ニ注意スヘキハ手形上ノ保證人カ主タル手形債務者ト同一ノ責任ヲ負フハ第二百七十三條ノ規定ニ依リ各自連帯シテ其責ニ任スルヨリ然ルニ非スシテ其保證カ一

手形行爲トシテ獨立ニ此效力ヲ發生スルモノト解スヘキコト是ナリ其證據ハ主タル債務カ無効ナルトキニハ連帶スヘキ債務ナキニ拘ハラス尙ホ保證人ニ其主タル債務者カ負擔スヘカリシト同一ノ責任ヲ負擔スレハナリ(第四九七條)故ニ手形保證ト第二百七十三條トノ關係ハ手形保證債務以外ノ手形債務相互ノ間ニハ元來連帶ノ關係存在セザルモノナルモ(此事ニ付テハ嘗テ述ヘタルコトアリト記憶ス)手形保證債務ト其主タル手形債務トノ間ニハ特ニ連帶ノ關係存スト云フノ外他ニ深キ意味ヲ有セザルモノト解スヘキナリ

保證人カ其債務ヲ履行シタルトキハ之ニ因リテ手形上ノ權利ヲ取得ス即チ所持人カ主タル債務者ニ對シテ有セシ權利及ヒ主タル債務者カ其前者ニ對シテ有スヘキ權利ヲ取得スルナリ手形上獨立ノ權利者タル地位ニ立ツニ非スシテ所持人ノ有セシ權利ヲ承繼シ又ハ主タル債務者ノ有スヘキ權利ヲ執行シ得ルニ過キサルカ故ニ主タル債務者カ所持人ニ對シ又主タル債務者ノ前者カ主タル債務者ニ對シテ對抗シ得ヘキ事由ハ等シク之ヲ保證人ニモ對抗シ得ルナリ

### 第八節 參加

手形カ經濟界ニ於テ殆ト貨幣ト等シキ作用力ヲ有スルハ畢竟手形カ手形記載ノ文言通リニ履行セラルルト云フ信用ニ基クモノナリ然ルニ手形面上特ニ支拂人トシテ指定セラレタル者カ引受ヲ拒絶シ又ハ支拂ヲ爲サザルコトアリトセハ手形ノ流通ハ最初ヨリ得テ望ミ得ヘキニ非ス然レトモ引受又ハ支拂ヲ爲スト否トハ支拂人ノ自由權能ニ屬スルヲ以テ必スシモ此不當ナル現象ヲ生スルコトナキヲ保セス故ヲ以テ法ハ此萬一ノ場合ニ備フルカ爲メ特ニ擔保ノ請求又ハ償還ノ請求ニ關スル規定ヲ設ケ以テ手形上ノ權利ヲ確保シ手形ノ流通ヲ圓滑ナラシメタルコト前陳セルカ如シ故ニ手形ノ所持人ハ若シ引受又ハ支拂ヲ求メテ之ヲ得ザルトキハ直チニ其前者ニ對シテ擔保又ハ償還ノ請求ヲ爲シ得ヘキハ勿論ナリト雖モ此請求權タルヤ畢竟手形ノ信用ヲ維持シ其流通ヲ計ルカ爲メ設ケタル究極ノ手段タルヲ以テ若シ此權利ヲ行使スル以前ニ於テ敢テ手形權利者ノ利益ヲ害スルコトナクシテ手形ノ信用ヲ保存シ得ヘキ方法

尙ホ他ニ存在セテトセハ法ハ管ニ之ヲ認ムヘキノミナラヌ寧ロ之ヲ獎勵スヘキナリ何トナレム之ニ因リテ手形債務者ハ自己カ指定シ(振出人ノ場合又ハ其指定ニ基キテ裏書シタル(裏書人ノ場合)手形ノ支拂人カ引受又ハ支拂ヲ爲サタルヨリ將ニ失墜セントスル名譽ヲ回復スルコトヲ得テ手形ハ依然トシテ其信用ヲ保持スヘク隨テ手形權利者モ亦擔保ノ請求又ハ償還ノ請求ヲ爲スヨリ生スヘキ幾多ノ手數ト餘分ノ費用トヲ避ケ得ヘキヲ以テ其方法タルヤ手形ノ流通上一層ノ便宜ヲ與フヘケレハナリ本節所謂參加ハ此必要ニ應センカ爲メ特ニ設ケラレタル制度ナリ

要スルニ參加ハ手形カ支拂人ニ因リテ引受ケラレス又ハ支拂ハレサル場合ニ手形債務關係ニ於テ局外ノ地位ニ在ル者カ之ニ立入り其引受又ハ支拂ヲ爲スノ謂ニシテ其目的トスル所ハ之ニ因リテ手形ノ信用ヲ維持シ以テ手形ノ所持人カ其前者ニ對シテ將ニ執行セントスル擔保又ハ償還ノ請求權ノ行使ヲ必要ナラシムルニ在リ其介入シテ引受又ハ支拂ヲ爲ス所ノ者ハ之ヲ參加引受人又ハ參加支拂人ト謂ヒ何人ノ爲メニ參加カ爲サレタルカト云フ其參加ノ利益

ヲ受クル一定ノ人ヲ稱シテ被參加人ト謂フ此被參加人又ハ參加人ハ何人カ之ニ當リ得ルカハ參加ノ目的ニ省ミハ之ヲ決スルコト敢テ難キニ非ス參加ノ目的ハ畢竟擔保又ハ償還ノ請求權ノ行使ヲ止ムルニ在ルカ故ニ擔保義務ヲ負擔スル者即チ振出人及ヒ裏書人カ被參加人タリ得ルハ勿論參加支拂ノ場合ニハ絕對ニ支拂義務ヲ負擔セル引受人モ亦被參加人タリ得ルナリ蓋シ引受人ノ爲メニスル參加支拂ハ參加ノ最モ大ナル效力ヲ有スルモノニシテ之ニ因リテ擔保義務者モ亦自然償還ノ義務ヲ免レ得ヘケレハナリ參加人タリ得ヘキ者ハ如何手形ニ何等ノ關係ヲ有セザル者ハ勿論手形關係ニ立ツ者ト雖モ自己カ手形上債務者トシテノ地位ニ在ラザル限ハ參加人タルヲ妨ケス故ニ隨然タル第三者ハ勿論手形ニ記載セラレタル豫備支拂人支拂擔當者及ヒ支拂人ハ未ダ手形上何人ニ對シテモ何等ノ義務ヲ負擔シ居ラサル者ナルヲ以テ參加人タリ得ヘキハ言フヲ缺タス(支拂人ハ一旦支拂ヲ拒絶シタル後更ニ參加人タリ得ヘキカ裏書人モ亦其後者ニ對シテハ手形債務者ナリト雖モ其前者ニ對シテハ寧ロ權利者ノ地位ニ在リテ義務ヲ負擔スルモノニ非ザルヲ以テ後者ハ其前者ノ爲

ニ參加ヲ爲スコト毫無差支ナキナリ振出人ハ擔保義務者ノ最終ノ責任者ナ  
 ルヲ以テ引受拒絶ノ場合ニ參加引受ヲ爲ストモ自己ノ爲メニスルノ外ナシ  
 ト雖モ支拂拒絶ノ場合ニハ自己又ハ引受人ノ爲メニ完全ニ參加支拂ヲ爲シ得  
 ルナリ  
 參加ニハ參加引受タルト參加支拂タルトヲ問ハス手形ニ特ニ參加人タルヘク  
 指定セラレタル者即チ豫備支拂人ニ依リテ行ハルルモノト其他ノ參加人ニ依  
 リテ生ズルモノトナルハ以上ノ説明ヨリ容易ニ之ヲ會得シ得ヘシ此區別ニ依  
 リ其參加ノ手形所持人ニ對スル拘束力ニ大ナル相違ヲ生スト雖モソハ以下順  
 次之ヲ説明スヘシ

第一款 參加引受

參加引受ハ手形ノ所持人カ満期日前ニ於テ手形ヲ支拂人ニ呈示シ引受ヲ求メ  
 タ之ヲ得タル場合ニ生ズルコト竝ニ此參加引受ニ豫備支拂人カ之ヲ爲ス場合  
 ト豫備支拂人ニ非サル者ノ爲ス場合ノ區別アルコトハ既に述ヘタリ此豫備支拂

人カ參加引受ヲ爲サントスルトキニハ手形所持人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ザルノ  
 ミナラス寧ロ自ら進ミテ其引受ヲ求ムルノ義務ヲ負ヒ之ヲ履行シタル後ニ非  
 ナレハ其前者ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲シ得ザルナリ蓋シ豫備支拂人ハ嘗テ説  
 明シタルカ如ク支拂人ノ引受ヲ爲サヌ又ハ支拂ヲ爲サザル場合ヲ慮リ振出人  
 又ハ裏書人カ所謂豫備ノ支拂人トシテ特ニ之ヲ手形ニ記載シ而シテ手形法規  
 ニ依リテ其效力ヲ認メラルルモノナルカ故ニ第四四八條第四五八條及ヒ第四  
 三九條參照此記載アル手形ヲ取得シタル者ハ其取得ノ當時ニ於テ他日或ハ此  
 者ニ引受又ハ支拂ヲ求ムヘキ機會ノ發生スルコトアルヲ豫期シタルモノト謂  
 フヲ得ヘク隨テ手形所持人ニ此義務ヲ負ハシムルコト當事者ノ意思ヨリ觀察  
 シテ至當ナルハ勿論爾カセザレハ特ニ豫備支拂人ノ記載ヲ認メタル前記ノ法  
 文ハ全ク無意味ニ終ルヘケレハナリ尤モ豫備支拂人ニ引受ヲ求ムルハ手形所  
 持人ノ義務ナリト云フモ其記載アレハトテ必スシモ之ニ引受ヲ求ムルノ必要  
 ナシ之ヲ求メザレハトテ他日或ハ支拂ヲ求メ或ハ償還ノ請求ヲ爲スニ何等ノ  
 影響ヲ受クヘキニ非サルコト普通ノ引受ノ場合ニ於ケルト取テ異ナルコトナ



シ唯前者ニ對シテ擔保ヲ請求セントスルニハ先ツ之ニ引受ヲ求メサルヘカエ  
 スト云フニ過キス此參加引受ヲ求ムルノ方法ハ支拂人ノ支拂ナカリシコトヲ  
 拒絕證書ニ依リテ證明シ手形ヲ呈示シテ之ヲ爲スニ在リ而シテ若シ豫備支拂  
 人ノ引受ヲ得ナリシトキニハ所持人ハ其旨ヲ此拒絕證書ニ記載セシムルコト  
 ヲ要ス何トナレハ所持人ハ必ス豫備支拂人ニ引受ヲ求ムヘキモノナルヲ以テ  
 之ヲ裏面ヨリ言ヘハ其前者ハ實ニ引受カ支拂人ニ拒絕セラレタルノミナラス  
 尙ホ進ミテ豫備支拂人ニモ亦拒絕セラレタルコトヲ條件トシテ擔保供出ノ責  
 ニ任スルモノナルヲ以テ其條件ノ到來シタルキ否キノ事實ハ手形法一般ノ原  
 則ニ依リ公ノ證明ニ依リテ之ヲ明カナラシムルノ必要アレハナリ(第五〇〇條)  
 要スルニ所持人カ其前者ニ對シテ擔保ヲ請求ヲ爲シ得ルニハ普通ノ場合ニ於  
 テハ唯支拂人カ引受ヲ爲サス又ハ引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケテ擔保ヲ供セサ  
 ルコト及ヒ之ヲ拒絕證書ニ依リテ證明シタルコトヲ以テ足レリトスルモ手形  
 ニ豫備支拂人ノ記載アル場合ニハ尙ホ一段ノ手續ヲ要シ此者ニモ引受ヲ求  
 テ其引受ヲ得ナリシコト及ヒ其事實ヲ拒絕證書ニ附記セシムルコトヲ必要ト

シ此手續ヲ爲シタル後ニ非サレハ其請求權ヲ行使シ得タルコト爲ルナリ之  
 ニ反シテ豫備支拂人ニ非サル者ハ參加引受ニ在リテハ唯特定ノ擔保義務者ノ  
 名譽利益ノ爲メ好意上突然手形關係ニ介入シ來リテ手形ノ信用ヲ保持セント  
 スル場合ナルヲ以テ豫備支拂人ニ關スル場合ト全ク其趣ヲ異ニシ所持人ハ進  
 ミテ其引受ヲ求メ得ヘキニ非サルハ勿論此申出アレハトテ敢テ之ニ拘束セラ  
 ルヘキニ非ス其參加引受ヲ受タルト否トハ全ク所持人ノ自由權能ニ屬ス(第五  
 〇一條)蓋シ參加引受ハ擔保請求權ノ行使ヲ止ムルモノナルヲ以テ所持人ニ取  
 リテハ之ヲ受タルト否トノ利害殊ニ大ナルモノアリ參加人ノ信用如何ニ依リ  
 テハ其參加引受アレハトテ之カ爲メニ其手形ニ何等ノ信用ヲ加ヘサル場合アリ  
 リ然ルニ所持人ノ意思ニ反シテモ尙ホ強テ之ヲ拒ムコトヲ得ストセハ如何其  
 結果ハ或ハ手形債務者ハ其參加人ト通謀シテ故ヲ以テ有名無實ノ引受ヲ爲サン  
 以テ擔保供出ノ義務ヲ免ルルニ至リ所持人ハ之カ爲メニ終ニ其權利ヲ保全  
 シ得タルコトナシトセシ況ヤ前陳セルカ如ク眞實人ト雖モ其前者ノ爲メニハ  
 參加引受ヲ爲シ得ヘキヲ以テ自己カ擔保ヲ供出スルノ責任ヲ免レンカ爲メ故

ラニ其前者ノ爲メニ参加引受ヲ爲スカ如キ不都合ヲ生スルニ於テヲヤ(其前者ニ擔保供出ノ見込ナキ場合ニ多ク此事アルヲ見ル此ノ如クンハ擔保ノ請求ニ關スル規定ハ其名アリテ其實ナキ結果ニ歸著スヘケレハナリ故ニ此場合ニ於テハ所持人ハ若シ其参加引受ヲ好マザレハ之ヲ拒絕シテ直チニ其前者ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲シ得ヘキナリ是レ最モ至當ノ規定ニシテ此ノ如ク規定シタル結果トシテ参加引受ヲ爲サントスル者數人アルトキハ所持人ハ其選擇ニ從ヒ其中ノ何人ヲシテ参加引受ヲ爲サシムルモ妨ナク(第五〇二條必スシモ或立法例ノ如ク最モ多數ノ手形債務者ヲシテ其責任ヲ免レシムル所ノ参加引受ヲ受クヘキ必要ナキナリ尤モ此第五百二條ノ規定ハ廣ク参加引受ヲ爲サントスル者數人アルトキハ云ト規定シ居ルカ故ニ必スシモ豫備支拂人ニ非サル者ノ多數ナル場合ニ限ラスシテ豫備支拂人ノ數人アル場合ニモ適用シ得ヘキカ如シ然レトモ豫備支拂人ニ對シテハ所持人ハ義務トシテ之ニ引受ヲ求ムヘク其引受ハ甘シテ之ヲ受諾スヘキ地位ニ在ルモノナルヲ以テ若シ豫備支拂人ノ多數カ引受ヲ爲サントスル場合ニハ其中ノ最モ多數ノ手形債務者ヲシテ責任

ヲ免レシムル所ノ引受ヲ受クヘキモノト爲スコト至當ナルニ非サルカ所持人ハ多數ノ豫備支拂人中ニ此ノ如キ豫備支拂人モ存シ居ルゴトヲ知り其者ノ引受アリタルトキハ最モ多數ノ債務者ニ對シテ擔保ヲ請求シ得サル結果ヲ生スヘキコトヲ豫期シテ手形ヲ取得シタルモノナルカ故ニ所持人ニ此義務ヲ負ハシムルモ敢テ酷ナリト謂フヲ得サルナリ所持人カ前者ノ記載シタル豫備支拂人ノ引受ヲ拒ミテ後者ノ指定シタル豫備支拂人ノ引受ヲ受タルノ自由ヲ有ストセハ之カ爲メニ前者ハ特ニ豫備ノ支拂人ヲ定メ而モ之カ引受ヲ爲サントシタルニ拘ハラヌ之ヲ定メザリシ場合ト等シク擔保ノ請求ヲ受クヘキ不利益ヲ被ルニ至ルノ不都合アリ然レトモ此法文カ廣キ意義ニ於テ規定セラレ居ルト他ニ第五十條ノ如キ特別ノ規定ナキヲ以テ推セハ或ハ立法者ハ擔保義務者ヨリハ所持人ノ利益ニ重キヲ置キテ豫備支拂人ノ多數カ参加引受ヲ爲サントスル場合ニモ亦所持人ニ自由ニ其中ノ一人ヲ選擇スルコトヲ得セシメタルモノト解スヘケンカ若シ然リトセハ豫備支拂人ト其以外ノ参加人トカ共合スル場合モ亦之ニ包含セララルコトト爲リ此場合ニハ豫備支拂人ノ引受ハ之ヲ拒

ミ得ナルコト前陳セル如キヲ以テ先ツ其豫備支拂人ノ引受又受ヘクシテ若シ之カ多數ナレハ其中ノ一人ヲ選擇シ得ルコトト爲ルナリ其人ノ其合スル以上ノ説明ニ依リテ參加引受カ特ニ手形ニ記載セラレタル委託ニ因リテ生スル場合ト然ラサル場合トノ間ニ存スル差異ハ之ヲ了解シ得タルナルヘシ以下其參加引受ハ如何ニシテ成立スルカ其效力如何ニ付テ説明スルシハ豫備支拂第一ノ參加引受ノ要件ニ參加引受モ亦一ツ手形行爲ナリ故ニ手形行爲ノ成立ニ共通ノ一般原則ニ從ヒ手形ニ特定ノ行爲又爲スニ非サレハ成立スルコトナシ其形式ハ手形面ニ參加引受ノ旨ヲ記載シ參加引受人ノ署名スルニ在リ參加引受ノ文言ト參加引受人ノ署名トハ其成立要件ナリ普通ノ引受ニ在リテ單ニ支拂人カ手形ニ署名スルノミニテ成立スルコトアルモ(第四六八條參加引受ニ在リテハ必ス參加引受ノ文言ヲ記載スヘキナリ(第五〇三條一項) 爲替手形何人ノ爲メニ參加シタルヤ不明カモスルカ爲メ被參加人ヲ記載スルハ固ヨリ妨ナシ之ヲ記載シタルトキハ手形上ノ效力ヲ生ス然レトモ此記載ハ參加引受ノ成立要件ニ非サルヲ以テ之カ記載ヲ缺ク場合ヲ生シ果シテ何人ノ爲メニ參加シタルヤ不明ナルコトアリ此場合ニ於テハ法律上其參加引受ハ振出人ノ爲メニ爲テタルモノト看做サルナリ(第五〇三條第二項蓋シ參加引受ノ場合ニ於テハ振出人ノ爲メニスル引受カ最も多數ノ手形債務者ヲシテ其責任ヲ免レシムルモノナルヲ以テ此ノ如ク規定スルコト多クノ手數ト費用トヲ省ク上ニ於テ將タ亦手形關係ノ錯雜ヲ避クル上ニ於テ最モ便益ヲ感スレハナリ此規定ハ唯豫備支拂人ニ非サル者ノ爲メニ參加引受ニ付テ適用アルノミ何トナレハ豫備支拂人ノ參加ハ特ニ其被參加人ヲ明カニセサルモ特ニ之ヲ指定シタル者即チ委託者ノ爲メニ爲シタルモノナルコト明カナレハナリ

以上ノ要件ヲ具フル參加引受アリタルトキハ所持人ハ讓ニ支拂人ノ引受ヲ得ナリシ場合ニ作成シタル引受拒絶證書ニ其旨ヲ記載セシメ且其證書作成費用ノ支拂ト引換ニ之ヲ參加引受人ニ交付スルコトヲ要ス而シテ參加引受人ハ遲滯ナク其拒絶證書ヲ被參加人ニ送付セサルヘカラス蓋シ被參加人ヲシテ參加引受アリタルコトヲ知ラシメ且之ヲシテ後ニ説明スルカ如ク其前者ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲シ得セシムルカ爲メニハ此拒絶證書ノ引渡ヲ必要トスレハナ

加シタルヤ不明ナルコトアリ此場合ニ於テハ法律上其參加引受ハ振出人ノ爲メニ爲テタルモノト看做サルナリ(第五〇三條第二項蓋シ參加引受ノ場合ニ於テハ振出人ノ爲メニスル引受カ最も多數ノ手形債務者ヲシテ其責任ヲ免レシムルモノナルヲ以テ此ノ如ク規定スルコト多クノ手數ト費用トヲ省ク上ニ於テ將タ亦手形關係ノ錯雜ヲ避クル上ニ於テ最モ便益ヲ感スレハナリ此規定ハ唯豫備支拂人ニ非サル者ノ爲メニ參加引受ニ付テ適用アルノミ何トナレハ豫備支拂人ノ參加ハ特ニ其被參加人ヲ明カニセサルモ特ニ之ヲ指定シタル者即チ委託者ノ爲メニ爲シタルモノナルコト明カナレハナリ

以上ノ要件ヲ具フル參加引受アリタルトキハ所持人ハ讓ニ支拂人ノ引受ヲ得ナリシ場合ニ作成シタル引受拒絶證書ニ其旨ヲ記載セシメ且其證書作成費用ノ支拂ト引換ニ之ヲ參加引受人ニ交付スルコトヲ要ス而シテ參加引受人ハ遲滯ナク其拒絶證書ヲ被參加人ニ送付セサルヘカラス蓋シ被參加人ヲシテ參加引受アリタルコトヲ知ラシメ且之ヲシテ後ニ説明スルカ如ク其前者ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲シ得セシムルカ爲メニハ此拒絶證書ノ引渡ヲ必要トスレハナ

第二 參加引受ノ效力 參加引受ハ被參加人ニ對スル擔保請求權ノ行使ヲ沮止スルヲ以テ其目的トス而シテ此目的ヲ達スルニハ參加引受人ニ於テ滿期日ノ到來シタルトキ支拂人ニ於テ支拂ヲ爲ササル場合ニハ自ラ其支拂ノ責ニ任スルノ覺悟ナカルヘカラス參加引受人ニ此責任アリテコソ始メテ手形ハ其信用ヲ保存シ被參加人ハ之カ爲メニ自己ニ對スル訴求權ノ行使ヲ免レ得ヘキナリ故ニ參加引受ハ此ニ方面ニ其效力ヲ發生スルナリ

(一) 參加引受人ハ支拂人カ手形金額ノ支拂ヲ爲ササル場合ニ於テ被參加人ノ後者ニ對シ支拂アラサリシ手形金額及ヒ費用ヲ支拂フ義務ヲ負フ(第五〇五條前段)即チ參加引受人ハ支拂人カ支拂ヲ爲ササリシコトヲ條件トシテ支拂ノ責ニ任スルモノニシテ第二段ノ主タル義務者ト爲ルナリ而シテ其債務ノ範圍ハ手形金額ノ外費用ヲモ支拂スヘキハ勿論ナルモ支拂人ニ於テ支拂ヲ爲ササリシ限度ニ於テ其責ニ任スルノミ尙ホ其債務ノ相手方ニモ一定ノ制限アリ換言スレハ何人ニ對シテ此債務ヲ負フカト云フニ被參加人ノ後者ニ對シテノミ其責ニ任シ被參加人及ヒ其前者ニ對シテハ何等ノ債務ヲ負擔セサルナリ其理由ハ極メテ明白ナリ參加ノ目的ハ被參加人ニ對スル權利者即チ其後者ノ訴求權ノ行使ヲ止ムルニ過キスシテ其前者ハ却テ被參加人ニ對シテ義務者ノ地位ニ立ツモノナレハナリ

以上説明スルカ如ク參加引受人ハ第二段ノ主タル義務者トシテ支拂ノ責ニ任スルモノナルヲ以テ所持人ハ先ツ支拂人ニ對シテ滿期日及ヒ其後二日內ニ支拂ヲ求メ之カ拒絕セラレタルトキニハ其實質ヲ拒絕證書ニ依リテ證明シタル後ニ非サレハ此參加引受人ニ對シテ請求ヲ爲シ得サルハ勿論ナルモ所持人ハ尙ホ一層ノ手續ヲ爲スニ非サレハ此參加引受人ニ對スル權利ヲ保全シ得サルナリ其權利ヲ保全スルニハ支拂人ニ對スル手形ノ呈示ト同一ノ期間內即チ滿期日及ヒ其後二日內ニ更ニ支拂ヲ求ムル爲メ手形ヲ參加引受人ニ呈示スルコトヲ要シ若シ此手續ヲ怠リタルトキハ爲メニ參加引受人ニ對スル權利ヲ失フヘキナリ(第五〇五條)是レ普通ノ引受ヨリ生シタル債務ト大ナル相違アル所ニシテ普通ノ引受債務ハ手形ノ呈示ナケレハトテ敢テ其消滅ヲ來スコトナシト雖

モ參加引受ニ在リテハ手形不呈示ノ爲メ債務消滅ノ結果ヲ生スルナリ此差別アルハ畢竟參加引受人ハ等シク支拂義務者ナルモ普通ノ引受人ト異ナリ支拂人ノ支拂ナキコトヲ條件トシテ第二段ニ於テ其責任任スヘキ地位ニ立ツモノナレハナリ

(二) 手形ノ所持人其他被參加人ノ後者ハ參加引受ニ因リテ擔保ヲ請求スル權利ヲ失フ(第五〇六條是レ參加引受ノ目的トスル所ニシテ參加引受人ハ其引受ニ因リテ(一)ニ述ヘタルカ如ク手形金額及ヒ費用支拂ノ主タル債務ヲ負フヘキヲ以テ被參加人ノ後者ハ恰モ引受ノ拒絕ニ遭遇セザリシト同一ノ地位ニ立ツヘケレハナリ此ノ如ク參加引受アリタルトキハ之ニ因リテ被參加人ノ後者ハ其前者ニ對シテ擔保請求權ヲ失フハ當然ノ事柄ナリト雖モ之カ爲メニ被參加人ノ前者カ其擔保義務ヲ免ルヘキ理由尠モ存セザルノミナラス被參加人カ此等ノ者ニ對スル請求權ノ消滅スヘキ理由ナキナリ故ニ被參加人ハ其前者ニ對シテ擔保ヲ請求スルコトヲ得罷ニ述ヘタルカ如ク參加引受人ヲシテ遲滯ナク引受拒絕證書ヲ被參加人ニ送付キシムル所以ノ(第五〇四條參照)主旨モ畢竟之

カ爲メナリ其請求ノ手續竝ニ請求ヲ受ケタル前者ハ再ヒ其前者ニ擔保ヲ請求シ得ルコト等ハ曩ニ擔保ノ請求ニ關シテ述ヘタル所ニ同シ即チ第四百七十五條乃至第四百七十九條ノ規定カ此場合ニ準用セラルルナリ(第五〇七條)

### 第二款 參加支拂

參加支拂ハ手形ノ所持人カ滿期日ノ到來シタルトキ手形ヲ支拂人ニ呈示シテ支拂ヲ求メ其支拂ヲ得ザリシ場合ニ生スルコト及ヒ其目的ハ手形ノ不支拂ヨリ生スル償還請求權ノ行使ヲ沮止スルニ在ルコト竝ニ之ニ豫備支拂人ノ爲メ支拂ト其以外ノ者ノ爲メ參加支拂トアルコトハ既ニ述ヘタリ手形ニ豫備支拂人ノ記載セラレ居ル場合ニ所持人ハ之ニ引受ヲ求メタル後ニ非サレハ其前者ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲シ得ザルト同一ノ主旨ニ依リ手形ノ支拂ナキ場合ニモ若シ其手形ニ豫備支拂人又ハ參加引受人アルトキニハ尙ホ此等ノ者ニ手形ヲ呈示シテ其支拂ヲ求メタル後ニ非サレハ其前者ニ對シテ償還ヲ請求スルコトヲ得ス詳言スレハ參加引受人アルトキニハ先之ニ對シテ支拂ヲ求ムヘク

若シ参加引受人ナキトキ又ハ参加引受人カ支拂ヲ爲サザリシトキニハ豫備支拂人ニ其請求ヲ爲スヘク此手續ヲ盡シタルトキ始メテ所持人ハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲シ得ルニ至ルナリ茲ニ参加引受人ニハ豫備支拂人ニ先テテ其請求ヲ爲スヘシトシタルハ参加引受ノ性質ニ省ミハ容易ニ之ヲ了解シ得ヘク又豫備支拂人ニハ先ニ参加引受ヲ拒絕シタルコトアルト否トヲ問ハス絶對ニ之ニ支拂ヲ求ムヘシトシタルハ是レ恰モ普通ノ場合ニ於テ支拂人カ引受ヲ拒絕シタルトキニモ他日再ヒ之ニ支拂ヲ求ムルニ非サレハ償還ノ請求ヲ爲シ得サルト同一ノ理由ニ出テタルナリ此支拂ヲ爲メニスル呈示ハ手形ノ満期日又ハ其後二日ノ期間内ニ於テ之ヲ行フヲ要シ参加引受人又ハ豫備支拂人カ此呈示ニ對シテ支拂ヲ爲サザリシトキハ所持人ハ其旨ヲ先ニ作成シタル支拂拒絕證書ニ記載セシメサルヘカラス要スルニ手形ニ参加引受人又ハ豫備支拂人アルトキニハ普通ノ手續ノ外尙ホ之ニ對シテ此手續ヲ完了スルコトカ償還請求權行使ノ條件ヲ成スナリ尤モ参加引受人ト云ヒ豫備支拂人ト云フモ唯被参加人又ハ其豫備支拂人ヲ指定シタル者ノ爲メニ存スルニ過キサルカ故ニ所持

人カ此手續ヲ爲ササルカ爲メニ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲シ得サル範圍ハ此被参加人又ハ指定者及ヒ其後者ニ止マリ其前者ニ對シテハ此手續ヲ缺ケハトテ敢テ請求權ヲ失フコトナキナリ(第五〇八條此ノ如ク豫備支拂人及ヒ参加引受人ノ参加支拂ニ關スル規定ハ参加引受ノ場合ト略シ其趣ヲ同シウスルモ此等以外ノ者ノ参加支拂ニ付テハ全ク其規定ヲ異ニス所持人ハ豫備支拂人又ハ参加引受人ニ非サル者ノ参加支拂ト雖モ之ヲ拒ムコトヲ得シテ若シ之ヲ拒ミタルトキハ被参加人及ヒ其後者ニ對スル償還請求權ヲ失フ(第五〇九條)蓋シ支拂ハ引受ト異ナリ所持人ハ何人ヨリ之ヲ受タルモ敢テ異議ヲ唱フヘキモノニ非サレハナリ又参加ヲ爲サントスル者數人アル場合ニ付テモ参加引受ト其規定ヲ異ニシ参加支拂ニ在リテハ参加引受ニ於ケルカ如ク其中ノ一人ヲ選擇スルコトヲ得シテ所持人ハ必ス最モ多數ノ者ヲシテ債務ヲ免レシムル效力ヲ有スル支拂ヲ受ケサルヘカラス(第五一〇條蓋シ参加支拂ハ参加引受ト異ナリ所持人ニ於テ之ヲ拒絕シ得サルモノニシテ而シテ支拂ヲ爲ス者ノ何人タルカハ自己ニ何等ノ痛痒ヲ感セサルノミナラス此ノ如ク規定スルトキハ幾

多ノ手數ヲ費用トシ省キ且手形關係ノ錯雜ヲ避ケル上ニ於テ大ナル便益アレ  
 以上ハ手形ニ豫備支拂人ノ記載アルトキハ所持人ハ如何ニ之ニ拘束セラレル  
 カ其他ノ者ノ參加支拂ハ之ヲ拒ミ得サルカ將タ亦何人ノ支拂ヲ受クヘキカニ  
 付テ説明シタルナリ以下其參加支拂ハ如何ニ之ヲ爲スカ其支拂ノ效力如何ニ  
 付テ述フヘシ

(一) 參加支拂ノ方法 先ツ一言スヘキハ參加支拂ヲ爲スニハ參加支拂人ハ何  
 人ノ爲メニスルカラ明示シテ其支拂ヲ爲スノ必要アルコト是ナリ豫備支拂人  
 又ハ參加引受人ノ參加支拂ニ付テハ別ニ問題ヲ惹起スコトナキモ何トナレハ  
 豫備支拂人ノ支拂ハ之ヲ指定シタル者ノ爲メナルコト又參加引受人ノ支拂ハ  
 被參加引受人ノ明カナルトキハ其被參加引受人又之カ不明ナルトキハ第五百  
 三條第二項ニ依リ振出人ノ爲メナルコト明白ナレハナリ此等以外ノ者ノ參加  
 支拂ニ在リテハ被參加人ヲ明示スルノ必要アリ若シ之ヲ明示セザレハ其支拂  
 ハ支拂人ノ爲メニ爲シタルモノト看做サルルノ不利アリ第五一條此ノ如キ

「ゴ」テアシトラズルンテ規則第一ノ實額ニ依ルノ方法ヲ採リ獨逸ノ商法ハ第  
 二ノ方法ニ依ル佛蘭西ノ商法ハ我商法ト同シク運賃ノ半額ヲ以テ分擔ヲ爲ス  
 前掲ノ船舶及ヒ積荷ハ船舶ノ到達又ハ積荷ノ陸揚ノ時ニ於ケル價格ニ依リテ  
 分擔ノ責ニ任スルモノナリ故ニ其以前ニ於テ滅失スルトキハ共同海損ハ成立  
 スルモ海損ノ分擔ヲ爲ササルモノナリ  
 尙ホ終ニ附加スヘキハ船舶カ不可抗力ニ因リテ發航港又ハ航海ノ途中ニ於テ  
 碇泊ヲ爲スコトヲ必要トスル場合ナリ此碇泊ヲ爲ス爲メニ要スル費用ハ直チ  
 ニ之ヲ共同海損ト看做スコトヲ得ス然レトモ其性質タル船舶並ニ積荷ノ利益  
 ヲ圖ルヨリ出テタルモノナレハ其費用ハ共同海損ノ例ニ從ヒテ船舶積荷運送  
 貨ニ於テ之ヲ分擔スルヲ相當ナリトス商法第六百五十二條ニ即チ此趣旨ヲ以  
 テ設ケテレタルモノナリ

第三節 船舶ノ衝突



海上ノ危險ハ船舶ノ衝突ニ原因スルモノ頗ル多シ近年汽船ノ航海頻繁ト爲ルニ從ヒ船舶ノ衝突ハ著シク其數ヲ増加シタリ各國ニ於テ衝突ヲ豫防スルニ必要ナル規定ヲ實施スルモ往往ニシテ衝突ノ不幸ヲ生スルヲ免レス船舶ノ衝突ニ因リ生スル損害ハ何人ニ於テ之ヲ負擔スヘキヤト云フニ古代ヨリノ法律ニ定ムル所種種ノ變遷ヲ爲シ現在各國ノ法律モ亦規定ヲ區區ニスルヲ免レス羅馬法ノ主義ニ依レハ船舶ノ衝突ヨリ生スル損害ハ民法ノ規定ニ依リテ處分スヘキモノトセテ即チ不可抗力ニ關スル衝突ハ衝突シタル船舶カ各自ニ負擔ヲ爲シ過失ニ基ク衝突ハ過失船カ被害船ニ損害ヲ賠償スヘキモノナリ然ルニ中古ノ時代ニ至リ船舶貨物ハ共同ノ危險ヲ分擔スルトノ主義ニ依リテ衝突ヨリ生シタル損害モ共同海損ノ例ニ依リテ關係船舶ト其積荷トカ分擔スルコトト爲シタリ然ルニ近世ノ商法ハ再ヒ羅馬法ノ主義ニ近ツキ概テ之ヲ單獨海損トシテ規定ヲ設ケタリ然レトモ原因不詳ノ場合ニ於テハ其損害ヲ關係船舶ニ分擔セシムルノ規定ヲ行フモノニアリ船舶ノ衝突ハ其原因スル所稱種アルヘシト雖モ要スルニ第一不可抗力ニ基クトキ第二一方ノ過失ニ基クトキ第三雙方

過失ニ基クトキ第四原因不詳ノトキノ四ニ外ナラサルヘシト思惟ス次ニ此四種ノ場合ニ就キ我商法ニ於テ如何ニ其責任ノ所在ヲ定ムルヤヲ述ヘントス第一衝突ノ原因カ不可抗力ニ在ル場合ニ於テ其損害ヲ共同海損トシテ各船舶カ不可抗力ニ因リテ損害ヲ受ケタルモノナレハ自ラ之ヲ負擔スルハ當然ナリ我商法ニハ此點ニ付テ明文ヲ設ケス民法ノ原則ニ依レハ此ノ如ク解釋スヘキハ當然ノコトトス獨逸商法第七百三十五條佛蘭西商法第四百七條伊太利商法第六百六十條ニ同様ノ規定アリ英國海商法第六百六十條自ラノ過失ニ衝突ノ原因カ一方ノ過失ニ在ル場合ニ於テ其損害ヲ及ボシタルモノナレハ不此場合ハ過失ニ因リ衝突ヲ惹起シ他ノ船舶ニ損害ヲ及ボシタルモノナレハ不法行為ノ原則ニ依リ加害者ニ於テ損害賠償ノ責任スヘキハ明カナリ我商法ニ於テ特ニ之カ規定ヲ設ケサルハ民法ノ原則ニ依リテ明カナリト認メタルニ外ナラス外國ノ商法ニ於テハ特ニ明文ヲ以テ規定セシモノ尠カラズ獨逸商法第七百三十四條佛蘭西商法第四百七條伊太利商法第六百六十一條等ヲ參照スヘシ

第三 衝突ノ原因カ雙方ノ過失ニ在ル場合

此場合ニ關スル各國ノ法令ハ區區ニ岐ヒタリ我商法ノ規定ニ依リハ衝突カ雙方ノ船員ノ過失ニ基因スルトキハ過失ノ輕重ニ從ヒ損害ヲ分擔スルモ其ノ比例トモ若シ過失ノ輕重ヲ判定スルコト能ハサルトキハ衝突ニ因リテ生シタル損害ハ各船舶ニ於テ平分シテ負擔スルコトトセリ第六五〇條外國ノ法律ハ概シテ二様ノ區別アリ

(甲) 雙方ニ過失アルコト明カナル場合英國ニ於テハ船舶各自カ相互ノ損害ヲ分擔ス伊太利和蘭葡萄牙露西亞丁抹西班牙等ニ於テハ船舶ハ各自ノ受ケタル損害ヲ負擔ス白耳義佛蘭西諸國獨逸ニ於テハ相互ノ損害ヲ併セテ過失ノ輕重ニ從ヒ其割合ニ依リテ之ヲ分擔ス埃及商法ニ於テハ其割合ヲ船舶ノ價格ニ依ラシムルコトトセリ

(乙) 雙方ノ何レニ過失アルヤ明カナラサル場合 英吉利伊太利獨逸西班牙瑞典丁抹ニ於テハ各自カ其受ケタル損害ヲ負擔ス佛國ニ於テハ衝突ニ因リテ生シタル損害ノ半額ヲ各自分擔ス白耳義露西亞諸國等ニ於テハ別段ノ規定ヲ設ケス

第四 衝突ノ原因カ不詳ナル場合 英吉利獨逸ニ於テハ衝突ノ原因不明ナル場合ニ付テハ我商法ニ明文ヲ缺ク吾人ノ見ヲ所スレバ衝突ノ原因ハ不可抗力ニ基キタルヤ否ヤ明カナラザルトモ同時ニ相手方各船舶ハ過失ニ基キタルヤ否ヤモ亦明カナラザルナリ隨テ損害ヲ受ケタル船舶ハ自己ノ受ケタル損害ヲ相手ノ船舶ヲシテ賠償セシムルノ權利ヲ有セサルモトス故ニ第一ノ不可抗力ニ基ク場合ト同シテ各船舶カ其受ケタル損害ヲ負ハサルヘカラスト解釋スルヲ相當ナリト認ム外國ノ法律ニ於テハ此場合ニ付テ船舶ヲシテ雙方ニ損害ヲ分擔セシムルノ制ヲ探ルモ我法律ノ解釋ニ於テハ之ニ依ルヲ得サルヘシ

第九章 海上保險

第一節 海上保險ノ要素

海上保險ハ商業上極メテ樞要ニシテ海運ノ發達ハ主トシテ此制度ハ存在ニ原

因セスシハアラス元來海上ノ輸送ハ危險ニ瀕スルコト陸上ニ於ケルノ比ニア  
ラス是ヲ以テ船舶所有者積荷關係人等海商營業者ハ海上保險ノ方法ニ依リ航  
海ニ關シ生スル危險ノ爲メ船舶積荷等ニ付キ受ケタル損害ニ對シ賠償ヲ求ム  
ル手段ヲ行ヘリ海上保險ハ航海上偶然ナル事故ニ因リ生スル損害ノ填補ヲ目  
的トスルモノニシテ損害保險ノ一種ニ屬スルモノナリ

我商法ノ規定ニ依レハ海上保險ハ契約當事者ノ一方カ航海ニ關スル一定ノ事  
故ニ因リ生スルコトアルヘキ損害ヲ填補スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其報  
酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ效力ヲ生スルモノナリ(第三八四條第六五三  
條)是ニ由リテ之ヲ觀レハ海上保險契約ニ於テハ普通損害保險ニ關スル契約ニ  
於ケルカ如ク當事者雙方カ合意ニ依リ一ハ損害ヲ填補シ一ハ報酬ヲ支拂フ義  
務ヲ負フモノニシテ所謂雙務契約ノ範圍ニ屬スルモノナリ此契約ハ我商法ノ  
規定ニ依レハ必スシモ書面ノ作成ヲ要スルモノニ非スト雖モ保險者ハ保險契  
約者ノ請求アルトキハ保險證券ヲ交付スル義務アルモノナリ海上保險證券ニ  
記載スヘキ事項ハ商法第四百三條第六百六十一條ニ掲タル所ニ依ル今保險契

約ハ締結效果等ヲ説明スルニ先テ左ニ海上保險ノ要素タル目的及ヒ危險ニ付  
キ説述スル所ナラントシテ其後ニ保險ノ種類ハ新商法ノ規定ニ依リテ保險  
目録ニ列シ主客ノ別ニ依リテ保險ノ種類ニ列シテ其後ニ保險ノ種類ニ列シ  
目録ニ列シ主客ノ別ニ依リテ保險ノ種類ニ列シテ其後ニ保險ノ種類ニ列シ

第一款 海上保險ノ目的

海上保險契約ハ損害保險ノ原則ニ從ヒ金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ニ限リ  
其目的ト爲スコトヲ得ルモノトス第三八五條此利益ハ航海ニ關スル事故ニ因  
リ損害ヲ生スヘキモノナラサルヘカラサルハ論ヲ埃タス物件ノ回收ヲ目的ト  
スルニ在ラスシテ其物件ニ付キ有スル利益ヲ害セラレタル場合ニ其損害ノ填  
補ヲ求ムルニ在リ故ニ普通ノ用語トシテ船舶ヲ保險ニ付シ若クハ積荷ヲ保險  
ニ付スト謂フハ船舶又ハ積荷ニ付キ有スル利益ヲ保險ノ目的トスルノ謂ニシ  
テ若シ其利益カ海上ノ危險ニ因リテ損害ヲ受ケタル場合ニハ金錢ヲ以テ之カ  
填補ヲ爲スモノナリ隨テ金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ニ限リ保險ノ目的ト  
爲スコトヲ得ルモノトス此利益ハ所謂被保險利益ニシテ現ニ存在スルモノナ  
ラサルヘキ現ニ存在スルトハ必スシモ保險契約締結ノ當時ニ於テ具體的

ナルコトヲ要セス條件附ナルモ妨ナシ被保險利益ハ現ニ存在スル船舶若クハ積荷ノ價格ニ有スル利益ニミテ指スニテアラズ航海ノ安全ナル終了ニ因リ享有スルコトヲ得ヘキモノ即チ未タ具體的ナラザル利益ヲモ包含ス然レトモ此未來ニ屬スル利益ハ單ニ空想ニ止マルモノナラヘカラス現ニ契約締結ノ當時ニ於テ航海ノ終了ニ因リ享有スルコトヲ得ヘキモノナルコトヲ要ス從前ノ法律ニ於テハ海上保險ハ單ニ契約締結ノ當時ニ於ケル金錢上ノ利益ノミヲ目的トスヘキモノトシタルモノアルモ今ヤ此主義ハ採用セラレズ各國大概航海ノ終了ニ關係ヲ有スル利益ヲ目的トスルコトヲ認ムルヲ普通トス外國ノ法律ニ於テハ海上保險ノ目的物ヲ列舉スルモノアリ例ヘハ獨逸商法第七百七十九條伊太利商法第六百六條ノ如シ我商法ハ一一之ヲ掲ケス航海ニ關スル事故ニ因リ生スル損害ヲ填補スルコトノ概括的規定ヲ設ケタリ此規定ニ依リ海上保險ノ目的タル主要ノ利益ヲ列記スレハ概テ左ノ如シ

一 船舶 海上保險ノ目的物タル船舶ハ海商法ノ適用ヲ受クル船舶即チ航海ノ用ニ供スルモノナラザルヘカラス船舶ハ前章ニ說明シタル如ク船舶ノ本體

並ニ屬具ヲ總稱ス船舶ニ對スル保險ヲ通常船體保險ト謂フ英國ノ判例ニ依レハ船舶保險ニ付テハ船舶ノ屬具ハ勿論艦裝費用等ヲ包含スルモノナルモ獨逸又ハ佛蘭西ニ於テハ船體保險ヲ英國ニ於ケルヨリ狹義ニ解釋スルヲ普通トス即チ船體保險ニ付テ特約ナキトキハ船舶屬具全體ニ對スル損害ノミヲ目的トシ艦裝ノ費用海員ノ給料等ハ包含セラレズ此等ノ費用ハ特ニ契約ヲ結ビ船舶ト共ニ若クハ單獨ニ保險ニ付スルコトヲ得ルモノトス船舶ノ保險價額ハ保險者ノ責任カ始マル時ニ有スル價額トス第六五六條

二 積荷 積荷ト稱スルハ海上ニ於テ船舶ニ依リ運送セラルル商品其他ノ動産ヲ指ス通常船體保險ニ對シ貨物保險ト稱ス積荷ノ保險價額ハ船積ノ地及ヒ時ニ於ケル價額ニ船積並ニ保險ニ關スル費用ヲ包含シタルモノトス

三 運送貨 運送貨ハ物品運送ヨリ生スルモノモ旅客運送ヨリ生スルモノモ共ニ保險ニ付スルコトヲ得ヘシ運送貨ヲ保險ニ付スルトキハ保險者ハ航海ニ關スル事故ノ爲メ收入ヲ減少シタル運送貨ヲ填補スルノ責任ヲ負フモノナリ運送貨ノ保險ニ關シテハ各國ノ法制ニ於テ多少規定ヲ異ニスルモノアリ英國

ニテハ反對ノ契約ナキトキハ總收入ヲ指シ獨逸ニ於テハ船舶ト共ニ船費費用等ヲ保險ニ付スルトキハ純收入ヲ指シ佛蘭西ニ於テハ最初運送貨ノ保險ヲ認メナリシモ千八百八十五年ノ改正ニ依リ之ヲ保險ニ付スルコトヲ得ルモノトシ若シ船費費用等ヲ特ニ保險ニ付シタルトキハ純收入ニ限リ保險ニ付スルヲ得ルモ船舶所有者ハ船費費用ヲ除キ船舶及ヒ運送貨總收入ヲ保險ニ付スルヲ得ルモノトセリ我商法ニハ此點ニ關シ明文ナシト雖モ獨逸及ヒ佛蘭西ノ法理ニ依ルヘキモノト認ム

四、海産ヲ限度トスル債權、海産ヲ限度トスル債權ハ所謂冒險貸借其他船舶運送貨積荷等ヲ限リ辨濟ヲ受タルモノニシテ債權者ハ此等海産ノ損害ト共ニ利益ヲ損セラルルヲ以テ保險ニ付スルコトヲ得ヘシ

五、積荷ノ到着ヨリ生スル報酬及ヒ利益、商品ノ運轉ヨリ生スル仲買人等ノ手数料若クハ商人ノ益金等ナリ保險金額ヲ以テ保險價額ト推定ス

六、保險金ニ保險者ハ航海ヨリ生スル危險ニ依リ保險金ヲ填補スル損害ヲ生ス此危險ニ對シ船舶積荷等ヲ再保險ニ付スルヲ得

第二款 危險

海上保險ハ航海ニ關スル危險ニ因リ生スヘキ損害ノ填補ヲ目的トスルモノナリ航海ニ關スル事故ヨリ生スル損害ハ種種アリ船舶ニ付テ之ヲ言ヘハ通常ノ使用ヨリ生スルモノアリ年數ヲ經過シタルヨリ生スルモノアリ腐蝕虫蝕等ヨリ生スルモノアリ積荷ニ對シテ之ヲ言ヘハ其性質又ハ瑕疵ヨリ生スルモノアリ自然ノ消耗ヨリ生スルモノアリ此等ハ海上保險ノ目的ニアラケルナリ事故ハ航海ニ關スルモノナラサルヘカラス航海ニ關スル事故ハ二種アリ一ハ海水ノ侵入乗揚難破沈没失火流水膠沙破裂落雷衝突等ニシテ直接ニ天災ニ起因シ若クハ人為ノ結果トシテ天災ニ罹ルモノナリ一ハ盜難掠奪乘組員ノ不正等純然タル人為ニ起因スルモノアリ保險者ハ此等航海ニ關スル事故ヨリ生スル損害ニ付キ總テ補償ノ責任ヲ負フモノナリ然レトモ保險者ハ契約ニ於テ其責任ノ範圍ヲ制限スルコトヲ得ルハ論ヲ竣タス外國ノ商法ニ於テハ特約ナキトキハ交戰國ノ處分ニ限リ生スル損害ハ保險者ノ責任ニ歸セザルモノナルモ

我商法ニ於テハ反對ノ特約ナキトキハ保險者ハ之カ責任ヲ有スルモノトス

### 第二節 海上保險契約ノ締結

海上保險契約ハ前段ニ説明シタル如ク當事者ノ一方カ航海ニ關スル一定ノ事  
 故ニ因リ生スルコトアルヘキ損害ヲ填補スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其報酬  
 ヲ與フルコトヲ約束スルモノナリ海上保險契約ハ契約ナルカ故ニ當事者ノ合  
 意アルコトヲ前提トスルハ論ヲ俟タス此合意ハ一方ニハ損害ヲ填補スルコト  
 一方ニハ報酬ヲ支拂フコトニ在リテ實ニ此二點ハ汎ク保險契約一般ニ於ケル  
 如ク海上保險契約ニ於テモ必須ノ要件ニ屬ス海上保險契約ニ於テハ海上ノ危  
 險ヨリ生スルコトアルヘキ損害ヲ填補スルコトヲ目的トスルモノニシテ其危  
 險ハ種種ノ狀況ニ依リ變動ヲ來スヘシ或ハ船舶ノ大小新舊若クハ構造ニ依リ  
 或ハ航海スル水路ノ難易ニ依リ或ハ航海スル季節ノ荒靜ニ依リテ變動アルヘ  
 キハ明カナリ此等ノ狀況ハ危險ノ程度ニ影響ヲ及ホスヲ以テ報酬モ亦之ニ依  
 リテ異動アルヲ免レス即チ海上保險契約ヲ締結スルニ於テ重要ナル事項ニ屬

ス  
 海上保險契約ハ我商法ニ於テハ其締結ニ關シ書面ノ取換ヲ要セスト雖モ實際  
 ニ於テハ一定ノ方式ニ依ル書面ヲ作製スルヲ普通トス此書面ハ所謂海上保險  
 證券ニシテ之ニ記載スヘキ事項ハ商法第四百三條及ヒ第六百六十一條ニ規定  
 スル所アリ悉ク海上保險ノ性質上必要ノモノニ屬ス即チ契約當事者保險ノ目  
 的船舶船長航路危險ノ種類保險金額保險價額保險料期間等トス以下款ヲ  
 分チテ此諸項ニ付キ概説スル所アルヘシ  
 海上保險契約ノ締結ニ際シテハ保險契約者ハ重要事實ヲ告知スルノ義務ヲ有  
 ス若シ契約者カ事實ヲ隱蔽シ若クハ不實ノ事ヲ告ケタルトキハ保險契約ハ無  
 效ニ歸スルモノトス第三九八條此規定ハ保險者ノ利益ヲ保護スルニ於テ必要  
 ナルモノニシテ所謂告知ノ義務ト稱シ昔時ヨリ諸國ノ法律ニ於テ認ムル所ナ  
 リ告知義務ノ主旨ハ保險者ヲシテ其負擔スル危險ニ關シ必要ナル事項ヲ知得  
 セシメ自己ノ責任ヲ商量スルノ資ト爲サシムルニ在ルヲ以テ保險契約者カ告  
 知ヲ爲ササルモ保險者カ或他ノ方法ニ依リ其實事ヲ知り余ルトキハ保險契約

ヲ無効トラシムルヲ理由チキモ夫トス又保險者カ事實ヲ知り得ベカトシテ注意ノ爲メ之ヲ知ラナリシ場合モ亦同様ナリ外國ノ法律ニ於テハ事情ノ發生シタル場所ノ距離ト時間ノ經過トノ割合ニ依リ保險者カ事實ヲ知りタリト推定ヲ爲ス規定ヲ設タルモノアリ

第一款 海上保險契約ノ當事者

契約ニ當事者アルコトヲ要スルハ論ヲ俟タズ而シテ普通法律行為ヲ爲ス能力ヲ有スル者ハ何人タリトモ海上保險契約ヲ締結スル能力ヲ有スルヲ原則トス當事者ノ一方ヲ保險者トシ一方ヲ保險契約者トス我商法ノ規定ニ依リハ保險證券ニハ保險契約者ノ氏名又ハ商號ヲ記載シ保險者ハ之ニ署名スベキモノトス

第二 保險契約者 海上保險契約ニ於テ一般ノ保險契約ニ於ケル如ク被保險利益ノ存在スルコトヲ必要トス如何ナル利益カ被保險利益ナリヤハ前節ニ於テ海上保險ノ要素ニ關シテ説明シタルヲ以テ茲ニ再述セス而シテ此被保險利益ハ法律上正當ノ原因ニ依リ獲得シタルモノナラザルヘカラス不法ノ手段ニ依リ獲得シタルモノハ法律上ノ利益ト認ムルコト能ハサルヲ以テ危險ノ發生ニ因リ之ヲ失フモ毫モ損害ヲ受ケタルモノト謂フヘカラス隨テ保險契約ニ依リ之カ損害ヲ填補セシムルノ保護ヲ享ケシムルノ必要ナキヤ明カナリ然レトモ其利益ハ必ズシテ被保險物件ノ所有權ト相伴フコトヲ要セス例ヘハ船舶債權者ノ如ク船舶ノ所有權ヲ有スル者ニ非サルモ船舶ノ喪失等ニ因リ利益ヲ損害セラレベキヲ以テ其船舶ヲ保險ニ付スルコトヲ得ヘシ被保險利益ヲ有スル者ハ自ら保險契約ヲ締結シ若クハ代理人ヲ以テ之ヲ爲サシムルコトヲ得ルハ一般法律行為ノ原則ニ依リ明カナリ此場合ハ自己ノ爲メニ保險契約ヲ締結スルモノニシテ被保險利益ヲ有スル者カ保險契約者ト爲ルモノナリ其他保險契約ハ他人ノ爲メニ亦之ヲ締結スルコトアリ此場合ニハ被保險利益ヲ有セ



受保者カ保險契約者ト爲ルモ、シテ自ラ保險料ヲ支拂フ責任ヲ負擔シ契約  
 ヲリ生スル損害補ノ利益ハ被保險者ニ於テ之ヲ享クルモノトシ他人ノ爲メ  
 ニスル保險契約ハ或ハ被保險者ノ委託ニ基テコトアリ或ハ事務管理ニ基テ  
 トアリ又他ノ場合ニ於テ保險契約ノ締結ニ際シ自己ノ爲メニスルカ他人ノ爲  
 メニスルカ明カナズナルコトアリ通常此類ノ契約ニ於テハ被保險者ノ氏名ヲ  
 示サス之ニ代ブルニ自己又ハ他人ノ爲メニスル意味ノ文字ヲ使用セリ我商法  
 ノ規定ニ依レハ保險契約者ハ委任ヲ受ケスシテ他人ノ爲メニ契約ヲ爲シタル  
 場合ニハ其旨ヲ保險者ニ告知スルコトヲ要スト爲ス保險契約ヨリ生スル權利  
 ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ルモノナリ被保險物件ヲ讓渡シタル場合ニハ法律上同  
 時ニ保險契約上ノ權利ヲモ讓渡シタルモノト推定セラル但物權ノ讓渡ニ依リ  
 危險ヲ變更又ハ増加シタルトキハ保險契約ハ無効ト爲ルヘシモ、不特ノ事  
 録ノ海上保險ノ要領ニ關シテ、（一）被保險者ノ委任ニ依リテ、或ハ事務管理ニ基テ、  
 海上保險證券ニハ保險ノ目的ヲ記載スルコトヲ必要トス保險ノ目的ノ何カ

### 第二款 海上保險契約ノ目的

ヤハ第一節ニ於テ既ニ説述シタル所ナリ保險ノ目的ヲ保險證券ニ記載スルニ  
 ハ被保險利益ノ明定セラルルコトヲ主旨トセザルヘカラス如何ナル利益カ保  
 險ニ付セラレタルカヲ知ルコト能ハサルカ如キ契約ハ無効ニ屬スヘシ然レト  
 モ保險ノ目的ヲ微細ニ分解シテ之ヲ記載スルヲ要セス或ハ併合シテ總稱ヲ以  
 テ表示スルヲ妨ケス又海上保險ニ於テハ如何ナル種類ノ利益ヲ保險ニ付シタ  
 ルニ拘ハラズ即チ船舶自體ヲ保險ニ付シタルト否トニ拘ハラズ船舶ノ名稱國  
 籍並ニ種類ハ必ス之ヲ記載スルコトヲ必要トス何トナレハ船舶ハ海上運送ニ  
 於ケル必須ノ機關ニシテ運送ヨリ生スル危險ノ大小ハ一ニ茲ニ關係ヲ有スレ  
 ハナリ左ニ主要ナル保險ノ目的ニ付キ如何ニ保險證券ニ記載スヘキカヲ説明  
 スヘシ  
 一 船舶自體ノ保險ニ付スルトキハ普通ニ之ヲ船體保險ト稱スルハ前ニ述  
 ベタル如シ我商法ノ規定ニ依レハ船舶ヲ保險ニ付シタル場合ハ船舶ノ名稱國  
 籍及ヒ種類、船長ノ氏名、發航地、到達港又ハ寄港地ノ定アルトキハ其港名ヲ保險  
 證券ニ記載スヘキモノトシ船舶ノ名稱國籍種類ハ其如何ナル船舶ナルヤヲ示



又モノニシテ保險者カ負擔スル危險ニ重要ノ關係ヲ有スルヲ以テ其記載ニ不實アルトキハ契約ニ效力ヲ生セサルヘシ船長ノ氏名ハ契約ノ當時其船舶ヲ指揮スル者ヲ指スモノニシテ後ニ至リ船長ヲ變更スルモ契約ニハ影響ヲ及ボササルヲ原則トス第六六四條發航港到達港寄港地等ニ付テハ航路及ヒ航海ノ處ニ於テ述フル所アルヘシ船舶ニ對スル保險ハ屬具ニ對スル保險ヲモ包含ス航路ノ費用ハ船舶ト共ニ保險ニ付スルコトヲ得ヘシ

二 運送貨 運送貨ノ保險ニ於テハ其運送貨ヲ保險ニ付スルコトヲ明記シ且船舶ノ名稱種類航路ヲ記載スルヲ必要トス汎ク運送貨ナル名義ヲ以テ契約ヲ締結シタルトキハ總收入ヲ指スモノト解釋スルヲ穩當ナリト認ム

三 積荷 積荷ノ保險ニ於テハ積荷ノ種類個數重量若クハ容積並ニ船舶ノ名稱國籍種類及ヒ航路ヲ記載スヘキモノトス實際ニ於テハ積荷ニ關シ汎ク貨物又ハ商品等ノ名稱ヲ以テ保險契約ヲ締結スルコトアリ此場合ニ於テハ船舶航路積荷關係等ノ指定ニ依リ如何ナル積荷ナルヤヲ知り得ヘキコトヲ必要トス若シ契約ニ於テ單ニ積荷ノ種類ヲ示シ其數量等ヲ記載セサルトキハ指定シタ

ル船舶ニ於テ積載スル同種ノ積荷ハ總テ保險ニ付セラレタルモノト看做ス積荷ノ保險ニ於テ指定シタル船舶ヲ變更シタルトキハ其變更ノ事由カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル場合ノ外保險者ハ變更以後ノ損害ニ付テハ責任ヲ負ハサルモノトス尤モ積荷ヲ保險ニ付スルニ當リ保險契約者カ其積荷ハ如何ナル船舶ヲ以テ運送セラルルヤヲ知ラサルニ由リ契約ニ於テ船舶ヲ定メサルコト稀ナラス例ヘハ外國ニ於テ船積ヲ爲ス等ノ場合ニシテ此場合ハ保險契約者又ハ被保險者カ船積ヲ爲シタル船舶ヲ知り得タルトキハ遲滞ナク其船舶ノ名稱國籍ヲ保險者ニ通知セサルヘカラス此業務ヲ怠リタルトキハ保險契約ハ效力ヲ失フモノトス(第六六六條)

四 積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益又ハ報酬並ニ海產ヲ以テ限度トスル債權 積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益又ハ報酬ニ付テハ其積荷ニ關スル記載ヲ爲シ各種ノ債權ニ付テハ船舶運送貨又ハ積荷ノ全部ニ對スル債權ナルヤ將タ其一部ニ對スル債權ナルヤヲ記載スヘキモノトス以上何レノ場合ニ於テモ船舶ヲ以テ基礎トスルカ故ニ其船舶ノ名稱國籍ハ必ス之ヲ記載セサルヘカラス

### 第二款 海上保險契約ニ於テ負擔スル危險

海上保險ニ於テ負擔スル危險ノ何タルハ前節ニ於テ保險ノ要素トシテ概要ヲ記述シタル所ナリ即チ航海ニ關スル事故ニシテ保險者ハ契約ニ於テ指定スル危險ヨリ生スル損害ヲ填補スル責任スルモノトス契約法ノ原則ヨリ言ヘハ保險者ハ契約ニ明記ナキ危險ニ付テハ責任ヲ負ハサルヲ以テ保險契約ニ於テハ各種ノ危險ヲ列舉スヘキモノトス然レトモ航海ニ關スル危險ハ千差萬別ニシテ到底悉ク列舉シ能ハサル所ナルヲ以テ往時ヨリ屢次發生スル危險ノ種類ヲ舉示シ併セテ概括的ノ文字ヲ掲タルヲ慣例トス我商法ハ此實際上ノ必要ニ應スル爲メ原則トシテ保險者ハ保險期間中保險ノ目的ニ付キ航海ニ關スル事故ニ因リテ生シタル一切ノ損害ヲ填補スヘキコトヲ定ム此點ニ關シ各國ノ法律ニ規定スル所ハ一樣ナラス英吉利ノ制例ニ依レハ保險者ノ責任ハ契約ニ依リ定マリ契約ニ記載ナキ危險事故ニ對シテハ保險者ハ責任ヲ負ハサルヲ原則トス佛蘭西ノ商法ニ於テハ主トシテ不可抗力即チ天災抗拒スヘカラサル公力

等ノ結果トシテ生スル危險ニ對シ責任ヲ負フモノトシ船長船員ノ行爲等ニ付テハ責任ナキコトヲ原則トセリ獨逸ノ法律ハ之ヨリ範圍ヲ擴メ航海上發生スル諸種ノ危險ヲ包含シ戰爭ヨリ生スル危險ノ如キモ亦保險者ニ於テ責任ヲ有スルモノトセリ我商法ハ獨逸商法ノ如ク汎キ範圍ヲ以テ規定ヲ設ケタリ我商法ノ規定ニ依リ保險者ノ責任ニ歸スヘキ危險ヲ分解スレハ天然ヨリ生スルモノト人爲ヨリ生スルモノトノ二種ト爲スコトヲ得ヘシ天然ヨリ生スル危險トハ暴風流水火災等ノ海難ヲ指シ人爲ヨリ生スルモノトハ商人ノ行爲即チ盜難掠奪乘組人ノ不正等並ニ公力ノ作用即チ戰爭封港押收等ヲ指スモノナリ此各種ノ中主要ナルモノニ付キ概要ヲ説明スヘシ其區別ハ後述ノ條ニ詳シク論ズ

一 海難 海難トハ暴風雨流水坐礁膠沙難破沈沒電火火災衝突等ニ起因スル危險ヲ指ス此點ニ付テハ各國ノ法律及ヒ商慣習ニ於テ差別ナク保險者ノ負擔スヘキモノトス

二 公力ノ作用 公力ノ作用トハ戰爭捕獲押收港灣封鎖等自他ノ國家公力ノ處分ニ基ク危險ヲ指ス此點ニ付テモ大體ヨリ見ルニキハ各國ノ法制ハ殆ト一

様ナリト謂フコトヲ得ヘシ唯保險者ハ戰爭ヨリ生スル損害ニ對シ當然責任ヲ有スルヤ否キノ點ハ頗ル異ナル所アリ英吉利ノ法制ニテハ總テ明文ヲ缺ツテ以テ契約ナキトキハ之カ責任ヲ負ハシムヘカラサルハ明カナリ獨逸ニ於テハ法律ノ規定ニ依リ保險者ノ責任ニ屬セシムルヲ以テ反對ノ契約ヲ結フニ非ザレハ保險者ハ責任ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス我商法モ亦之ニ同シ

三 人爲 人爲ト稱スルハ箇人ノ行爲ヲ指ス其區域頗ル廣シ或ハ乘組人ノ所爲ナルコトアリ或ハ乘組人ニ非サル者ノ所爲ナルコトアリ此等ノ行爲ハ其ニ或不法行爲ナルコトアリ又正當ノ行爲ナルコトアリ船員ノ正當ノ行爲トハ船長カ法定ノ權限ニ依リ船舶若クハ積荷ニ對シ必要ナル處分ヲ爲スコト天災ノ爲メ航路又ハ航海ヲ變更スルコトノ類ヲ謂フ船員等ノ不當ノ行爲トハ徒黨竊取掠奪其他惡意又ハ重過失ニ因リ損害ヲ及ホス行爲ヲ謂フ此船員等ノ不當ノ行爲ニ付テハ佛國ノ法律ハ特約ナキトキハ保險者ヲシテ責任ヲ負ハシムルコトナントス獨逸商法ハ我商法ト同様ニ保險者ノ責任ニ歸セシム乘組人ニ非サル者ノ行爲トハ竊盜放火其他ノ行爲ニ因ル保險ノ目的ニ對スル危險ヲ指ス獨

逸ノ法律ニ於テハ強盜竊盜共ニ保險者ヲ負擔ニ屬スルモノト爲スモ佛蘭西及ヒ英吉利ノ制度ニテハ竊盜ハ特約ナキトキハ責任ナキモノトセリ夫レ又獨逸ノ以上説述シタル所ハ概要ニ止マル各種ノ危險カ或ハ單獨ニ發生シ或ハ同時若クハ前後シテ發生スルコトアリ我商法ニ於テハ保險者ハ保險ノ目的ニ付キ生シタル損害ニ對シ責任ヲ有スルモノトスルカ故ニ經令前段ニ記述スル各種保險者ノ負擔ニ歸スヘキ危險ヨリ生シタル損害ナリト雖モ保險ノ目的ニ付キ生シタルモノナラザルトキハ責任ヲ負フコトナキハ疑ヲ容レス例ヲ以テ之ヲ明カニスヘシ船員ノ不當行爲ニ因リ他船ニ衝突シ之ニ損害ヲ加ヘタルトキハ船舶所有者ハ之ヲ賠償スル責任ヲ有ス此損害ハ自己ノ船舶ヲ保險ニ付シタルノ故ヲ以テ保險者ヲシテ填補ヲ爲サシムルコト能ハサルハ即チ此類ナリ

四 火險 火險ニ對シテ保險者ノ責任ハ法律ノ規定ト當事者間ノ特約トニ依リ變更セラルルモノナリ法律ノ規定トハ商法第六百六十七條ノ規定ノ類ニシテ特約トハ戰爭ヨリ生スル危險ヲ除外スルノ類ノ如シ

第四款 保險金額及ヒ保險價額

我商法ノ規定ニ依レハ保險證券ニハ保險金額及ヒ保險價額ヲ定メタルトキハ之ヲ記載スヘキモノトス保險價額トハ保險ノ目的ノ實際ノ價格ニシテ危險ノ發生ニ因リ被保險者ノ被ルヘキ損害ノ總額ヲ指シ保險金額トハ危險ノ發生ニ因リ保險者カ支拂フヘキ契約上ノ賠償額ヲ指スモノトス保險ノ要旨ハ被保險者カ危險ノ發生ニ因リ被ル損害ヲ填補スルニ在ルヲ以テ保險金額カ保險價額ニ超過スルトキハ其超過シタル部分ニ付テハ保險契約ハ無效ト爲ルモノトス何トナレハ若シ然ラスシテ保險金額カ保險價額ニ超過スルコトヲ得ルモノトセハ被保險者ハ實際ニ受クル損害ニ超過スル金額ノ支拂ヲ受タルコトト爲リ保險契約ニ依リ利得スルノ結果ヲ生スレハナリ尤モ保險ニ於テ損害ヲ填補スル利益ハ必スシモ被保險者カ現ニ享有スルモノノミニ止マラス航海ヨリ生スル未來ノモノヲモ包含スルモノナリ同一ノ目的ニ付キ同時又ハ相次テ數箇ノ保險契約ヲ爲シタル場合保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合保險價額カ減

少シタル場合等ニ於テハ損害保險ニ關スル一般ノ原則ニ從フヘキモノナルヲ以テ茲ニ說明セシ第三八七條以下參照

保險價額ハ保險契約ニ於テ之ヲ定ムルトキト然ラサルトキトアリ保險契約ニ於テ保險價額ヲ定ムルトキハ損害カ發生シタル場合ニ保險ノ目的ノ價額ヲ調査スルノ類ヲ省クコトヲ得ヘシ保險價額ノ定アリトスルモ保險者ニ於テ其價額ノ適當ナルコトヲ證明スルトキハ填補額ノ減少ヲ請求スルコトヲ得ヘシ保險契約ニ於テ保險價額ノ定ナキトキハ法律ノ規定若クハ合意ニ依リ其價額ヲ定メサルヘカラス我商法ニ定ムル所ニ依レハ其方法ハ左ノ如シ  
一 船舶 船舶ノ保險價額ハ保險者ノ責任カ始マル時ニ於ケル價額トス(第六五條) 船舶ノ屬具ハ船舶ニ包含セラレルコトハ前章ニ述ヘタルカ如シ商法ニ於テ保險者ノ責任ノ始マル時ヲ標準トシタルハ當事者ノ意思ヲ推測シテ之ヲ定メタルニ外ナラス獨逸ノ法律ハ危險カ始マル時ニ於ケル船舶ノ價額英吉利ノ法律ニ於テハ航海ヲ始ムル港ニ於ケル船舶ノ價額ヲ標準トス  
二 積荷 積荷ノ保險價額ハ船積ノ時及ヒ地ニ於ケル價額ト船積並ニ保險ニ

關スル費用トヲ併セタルモノトス(第六五七條)即チ船積ノ際ニ於ケル其地ノ實價ニ運搬關稅保險等ノ爲メ要スル費用ヲ通算シタルモノナリ

三 利益報酬 積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益又ハ報酬ノ保險價額ハ保險金額ニ依ル(第六五八條)

### 第五款 保險期間

我商法ノ規定ニ依レハ保險契約ニ於テ保險期間ヲ定メタルトキハ其始期及ヒ終期ヲ記載スルコトヲ要スルモノトス保險期間ト稱スルハ保險者カ危險ノ發生ニ對シ損害ノ填補ヲ爲ス時限ヲ指ス即チ其期間内ニ危險ヲ發生シタルトキハ保險者ニ於テ之カ損害ヲ填補スル責任ヲ有スルモノナリ保險期間ハ保險者ノ責任ニ關シテハ重要ナル影響ヲ及ホスヘシ同一ノ航路ト雖モ季節ノ如何ニ依リテハ頗ル危險多キコトアリ又保險期間カ長ケレハ隨テ保險者ノ責任ハ増加セララルコト爲ルヘシ保險料ニ差異ヲ生スヘキハ勿論ナリ

保險期間ニ付テハ契約ニ於テ一定ノ期限ヲ明示スルコトアリ又期限ヲ示サズ

シテ航海ヲ以テ契約ヲ結フコトアリ保險契約ニ於テ一定ノ期間ヲ明示スル場合ニ於テモ更ニ種種ノ方法アリ第一ハ確定ノ日時ヲ以テ期間ノ起點ト終點トヲ示スモノナリ例ヘハ何年何月何日何時ヨリ何年何月何日何時マテトスル類ノ如シ第二ハ日數週數月數又ハ年數ヲ定ムルモノアリ何年間何月間何日間ト定ムル類ノ如シ第三ハ期間ノ起點終點ニ關シ一定ノ日時ヲ示スモ其終點ハ場合ニ依リ延長スルコトヲ定ムルモノナリ例ヘハ船舶カ積荷ノ陸揚ヲ終了スルマテトスル類ノ如シ

航海ヲ以テ期間ヲ定ムルトキハ船舶ニ就テハ保險者ノ責任ハ荷物又ハ底荷(陸揚ノ船積ニ著手シタル時)ヲ以テ始マリ到達港ニ於テ荷物又ハ底荷(陸揚ノ船積)ヲ終リタル時ニ終ルモノナリ既ニ荷物又ハ底荷(陸揚ノ船積)ヲ爲シタル後ニ保險契約ヲ結ビタルトキハ契約成立ノ時ニ始マルモノトス而シテ此何レノ場合ニテモ荷物又ハ底荷(陸揚ノ船積)ヲ終了シタル時ヲ以テ終ルモノトス積荷積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ニ付テハ保險者ノ責任ハ積荷カ陸地ヲ離レタル時ヲ以テ始マリ陸揚港ニ於テ陸揚ヲ終了シタル時ヲ以テ終

ル保險期間ヲ航海ヲ以テ定メタル場合ニ積荷ノ陸揚カ運延スルトキハ其原因ノ如何ニ依リ結果ニ差別ヲ生スヘシ不可抗力ニ因ルモノナルトキハ保險者ノ責任ハ繼續シ不可抗力ニ因ルニ非サルトキハ陸揚カ終了スヘカリシ時ヲ以テ終了スルモノトス第六五九條第六六〇條)

### 第六款 航海及ヒ航路

航海及ヒ航路ハ保險者ノ責任ニ關シ重要ノ影響ヲ及ホスモノナリ海洋ハ場所ニ依リ暗礁ノ多キコトアリ風波ノ險惡ナルコトアリ潮流ノ急激ナルコトアリ又港灣ノ形勢ニ依リ或ハ出入ニ不便ナルコトアリ或ハ碇泊ニ不安全ナルコトアリ或ハ積荷ノ揚卸ニ危險ナルコトアリ加之季節ノ水路ニ對スル關係ヨリ各種ノ狀勢ニ著シキ變動ヲ生スルハ殆ト常態ト見ルヘキ所ナルヲ以テ保險者ノ責任ハ航海若クハ航路ノ如何ニ依リ輕重ノ差アルヘキハ論ヲ埃タス  
我商法ノ規定ニ依レハ海上保險證券ニハ船舶ノ保險ニ付テハ發航港到達港又ハ寄航港ノ定アルトキハ其港名ヲ記載スルコトヲ要シ積荷又ハ積荷ニ因リテ得

ヘキ利益若クハ報酬ノ保險ニ付テハ船積港及ヒ陸揚港ヲ記載スヘキモノトス(第六六一條)普通航海又ハ航路ヲ定ムルニハ此規定ノ如ク發航港及ヒ到達港ヲ指示シテ航海ノ何タルヲ明カニシ寄航地ヲ示シテ航路ノ何タルヤヲ明カニスルヲ慣例トス到達港ハ或ハ契約締結ノ際二箇以上ノ港ヲ指示シ其一ヲ選ブコトニ定ムルコトアリ例ヘハ横濱ヨリ大坂若クハ神戸ト定ムルカ如シ又二箇以上ノ港ヲ同時ニ指定スルコトアリ例ヘハ横濱ヨリ大坂及ヒ神戸ト定ムルカ如シ發航港ニ付テモ稀ニ二箇以上ノ港ヲ指定スルコトアリ又發航港到達港ヲ定ムルニ場合ニ依リ一地方一島地ヲ指シ港名ヲ示ササルコトアリ到達ニ付テ之ヲ言ハンニ沖繩ヨリ臺灣ニ至ル航海ト定ムルハ即チ此類例ナリ此類例ニ示ス航海ハ二様ノ解釋ヲ生スヘシ即チ一ノ解釋ニ依レハ船舶カ沖繩ヲ發シ臺灣ノ一港ニ到着スレハ航海ヲ終了シタルモノトシ他ノ解釋ニ依レハ臺灣ノ一港ニ到着シタルノミニテハ航海ハ未タ終了シタルニ非ス最後ノ港ニ到着シタル時ニ始メテ終了スルモノナリトス此二様ノ解釋ノ何レニ依ルヘキヤハ當事者ノ意思ヲ推測シテ決定セサルヘカラス然レトモ反對ノ證明オキトキハ第二ノ解

釋ヲ以テ普通ノモノトス又發航港ニ付テ之ヲ言ハシニ北海道ヨリ横濱ニ至ル  
ト定ムルハ即チ此類例ナリ此場合ニハ前段同様ニ種ノ解釋ヲ生スヘシ一ノ解  
釋ニ依レハ北海道ヨリ最後ニ横濱ニ向ケ發航シタル時ヨリ航海ヲ始ムト看做  
ストスルモノ他ノ解釋ニ依レハ北海道ノ二港以上ヲ經過スルモ最初ニ發航ヲ  
始メタル時ヨリ航海ヲ始ムト看做ストスルモノ是ナリ此ニ據ルノ解釋モ亦當事  
者ノ意思如何ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノトス然レトモ若シ反對ノ證明ナシト  
スレハ船舶カ北海道ニ於テ横濱ニ運搬スヘキ積荷ヲ搭載シテ發航シタル時ヲ  
以テ航海ヲ始メタリトスルヲ穩當ナリト認ム尤モ或場合ニハ航海又ハ航路ヲ  
精確ニ指定セサルコトナキニ非ス其實例ハ船舶ノ保險ニ於テ之ヲ見ル船舶ノ  
保險ハ大體ノ水路ヲ示シ年限ノミヲ以テ保險者ノ責任ヲ制限スルコトアリ例  
ヘハ一箇年間日本海ニ於ケル航海ニ關シ保險契約ヲ結ブノ類ナリ此場合ニハ  
保險者カ船舶所有者ノ信用船舶ノ構造船長ノ技能等ニ重キヲ置キ契約期間中  
ハ指定シタル水路ノ區域内ニ於テ何レノ港ヨリ何レノ港ヘモ航行スルコトヲ  
承認スルモノナリ

海上保險契約ニ於テハ航海又ハ航路ハ保險者ノ責任ニ影響ヲ及ボスコト渺カ  
ラサルヲ以テ被保險者ニ於テ之カ變更ヲ爲ストキハ其事情ニ依リ保險契約ノ  
效果ニ異動ヲ生セシムルモノトス即チ保險者ハ契約ニ指定スル航海航路ニ發  
生シタル損害ニ對シテノミ責任ヲ負フヲ原則トシ航海航路ヲ變更シタルトキ  
ハ其事情ニ依リ責任ヲ免レシムルモノトス航海ノ變更ト航路ノ變更トハ契約  
ノ效果ニ對スル影響ニ差別アリ且兩者共ニ其事由ノ如何ニ依リテ更ニ差別ヲ  
設ケラル左ニ之ヲ說述スヘシ

一 航海ノ變更 航海ハ前段ニ述ヘタル如ク危險ノ發生ニ直接ノ關係ヲ有ス  
ルヲ以テ指定シタル航海ハ被保險者ニ於テ變更改スルコトヲ許サス航  
海ノ變更カ保險者ノ責任ノ始マル前ニ生シタルトキハ保險契約ハ效力ヲ失フ  
コトト爲ル保險者ノ責任カ始マリタル後ニ航海ヲ變更シタルトキハ保險者ハ  
其變更後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ尤モ或場合ニハ不可抗力等保險契  
約者又ハ被保險者ノ責任ニ歸スヘカラサル事由ノ爲メ航海ヲ變更セサルヲ得  
サルコトアリ例ヘハ航海中ニ於テ豫定地ニ到達スルヲ得サルカ如キ場合ニハ

空シク洋海中ニ碇泊シ居ル能ハサルカ故ニ危險ヲ避クル爲メ針路ヲ轉セサルヲ得ス此ノ如ク航海變更ノ場合ニ其事由カ保險契約者又ハ被保險者ノ責任ニ歸スヘカラサルトキハ保險契約ヲ無効トスルハ酷ニ失スルノ嫌アルヲ以テ契約上前ノ航海ニ代フルニ後ノ航海ヲ以テシタルモノト看做シ保險者ノ責任ハ繼續ス航海ノ變更ハ同一航路ノ上ニ在ルトキト雖モ尙ホ發生スルコトアリ我商法ニ於テハ到達港ヲ變更スルノ決意ヲ以テ其實行ニ著手シタルトキハ航路ヲ離レサルトキト雖モ航海ヲ變更シタルモノト看做シテ前段ニ述ヘタル區別ニ從ヒ契約ノ效力ニ異動ヲ生セシムルモノトス

二 航路ノ變更 被保險者ハ契約ニ定ムル航路ニ依ルノ義務アリ保險契約ニ於テ發航港到達港ノミヲ定ムルトキハ普通航海者ノ航行スル航路ニ依ルヘキモノトス航路ノ變更ハ航海ノ變更ノ如ク必スシモ常ニ保險者ノ責任ヲ加重スルモノニ非ス多少ノ變更ハ普通ノ場合ニ免ルヘカラサル所ニ屬ス然レトモ航路ノ變更ニ因リ危險ヲ變更若クハ増加シタルトキハ其變更又ハ増加以後ノ事故ニ付テハ保險者ハ責任ヲ負ハサルモノトス航路ヲ變更シタル爲メ危險ヲ變更

更又ハ増加シタルトキト雖モ事故ノ發生ニ影響ヲ及ホササルトキ竝ニ保險者ノ責任ニ歸スヘキ不可抗力ニ基クカ若クハ正當ノ理由ニ起因スルトキハ保險者ハ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

被保險者カ發航ヲ爲スコトヲ怠リ又航海ヲ繼續スルコトヲ怠ルトキハ保險者ノ責任ヲ加重スルノ虞アリ若シ其結果トシテ危險ヲ變更増加シタルトキハ保險者ハ其變更増加以後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシトス危險ノ變更又ハ増加アリタル場合ニ於テモ其原因竝ニ事故トノ關係如何ニ依リ保險者ノ責任ヲ免レシメサルコトハ前記航路變更ノ場合ト同様ナリ

第七款 損害ノ負擔

海上保險ニ於テハ保險者ハ保險ノ目的ニ付キ航海ニ關スル事故ニ因リ生シタル一切ノ損害ヲ負擔スルノ責ニ任ス損害ハ保險ノ目的ニ付キ直接ニ生シタルモノノ外共同海損ノ費用ヲモ包含スルモノトス第六五五條然レトモ此原則タル保險者ノ負擔ハ法律ノ規定又ハ當事者間ノ特別ノ契約ニ依リ變更セラルヘ



シ左ニ此責任ノ變更ニ付キ概要ヲ記述スヘシ詳説ハ附録ニ載セラルルモノナリ

第一 法律ノ規定 保險者ハ商法第六百六十七條ニ依リ左ニ列記スル損害又ハ費用ヲ填補スル責ニ任セサルモノナリ

一 保險ノ目的ノ性質若クハ瑕疵

二 保險ノ目的ノ自然ノ消耗

三 保險契約者若クハ被保險者ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害

四 船舶カ發航ノ當時安全ニ航海ヲ爲スニ必要ナル準備ヲ爲サス又ハ必要ナル費類ヲ備ヘサルニ因リテ生シタル損害船舶又ハ運送貨ヲ保險ニ付シタル場合

五 備船者荷送人又ハ荷受人ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合

六 水先案内料入港料燈臺料檢疫料等ノ費用

以上ノ損害又ハ費用ハ或ハ航海ニ關スル事故ノ爲メニ生シタルモノニ非ス或ハ船舶積荷關係人ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ起因シ或ハ航海上通常ノ經費ト看做スヘキモノナレハ其損害ニ付キ保險者ニ對シ責任ヲ有セシメサルハ當然ナリ又保險者ノ責任ニ歸セシムヘキ損害又ハ費用ナリト雖モ其金額輕微ナルモノハ徒ニ計算ノ手數ヲ要シ實益少キヲ以テ多クハ一定ノ制限ヲ設ケ保險者カ責任ヲ有セサルコトトスルヲ通常トス我商法ハ此價例ヲ認メ損害又ハ費用カ計算ニ關スル費用ヲ算入セスシテ保險價額ノ百分ノ二以内ナルトキハ保險者ハ之ヲ填補スルノ責ニ任セサルモノト定ム尤モ共同海損ヨリ生スル損害又ハ費用ハ必ス計算スルモノナレハ保險者ヲシテ責任ヲ免レシムル理由ナキヲ以テ百分ノ二ノ制限ハ共同海損ニ非サル損害又ハ費用ノミニ適用スルモノトス

第二 契約ノ規定 海上保險契約ニ於テ保險ノ範圍ヲ増減スルハ當事ノ便宜ニ任スルヲ必要トス保險者ニ於テ水路季節殊ニ保險ノ目的等各種ノ狀態ヲ斟酌シテ一定ノ事故ヨリ生スル損害ニ限リ負擔スヘキコトヲ契約シ若クハ一定

ノ事故ヨリ生スル損害ハ負擔セサルコトヲ契約スルハ實例ニ於テ常ニ行ハルル所トス此保險者ノ負擔ニ關スル合意上ノ變更ハ各國又ハ各保險會社ノ慣例ニ依リ千差萬様ナリト雖モ其最モ普通ナルモノヲ舉グレハ左ノ如シ事トス

一 全損 此契約ニ於テハ保險者ハ保險ノ目的カ全部滅失シタル場合ニ限リ責任ヲ負ヒ一部分ノ損害ハ負擔セサルモノナリ例ヘハ價格百万円ノ船ヲ保險ニ付シ全損ノミ填補スルトセハ其船舶カ衝突等ノ爲メ損害ヲ生スルモ船舶ノ全體カ沈没其他滅失セザル限ハ保險金ヲ支拂ハサルカ如シ

二 海損不擔保 此契約ニ於テハ前項ノ如ク航海中ニ生シタル損害ハ全損ノ場合ニアラザレバ保險者カ責任ヲ負サハルモノトス(B.A.)

三 單獨海損不擔保 此契約ニ於テハ分損ハ共同海損ノ外保險者カ責任ヲ負ハサルヲ原則トス(Net)然レトモ單獨海損不擔保ノ契約ニ於テモ乗揚ノ沈没火災衝突ヨリ生スル損害費用ハ擔保スルコトヲ定ムルコトアリ

四 共同海損擔保 此契約ニ於テハ保險ノ目的カ全損ニ至リタル場合ノ外

共同海損及ヒ救援救助ノ費用ヲ擔保スルモノナリ(G.A.)

五 海損制限擔保 此契約ニ於テハ海損ハ一定ノ契約ニ定ムル割合以上ノ損害ヲ負フモノニシテ二様ノ方法アリ一ハ海損ノ額カ契約上ノ割合ヲ超過スルトキハ全部ヲ支拂フヘシトスルモノ一ハ其割合ヲ超過スルトキハ其超過ノ額ヲ支拂フヘシトスルモノアリ

六 戰爭危險不擔保 此契約ニ於テハ保險者ハ戰爭等ヨリ生スル損害ヲ擔保セサルナリ或場合ニハ戰爭カ發生スルトキハ保險契約ヲ無効トスルコトヲ定ムルコトアリ又或場合ニハ戰爭カ發生スルモ戰爭ヨリ生スル危險ヲ除キ通常ノ海上危險ヲ擔保スルコトニ定ムルコトアリ

前段ニ述ヘタル如ク保險者ハ法律並ニ契約上別段ノ定アルトキハ其範圍内ニ於テ責任ヲ負セ若シ損害カ發生シタルトキハ保險金額ヲ限度トシテ填補ヲ爲スニキモノトス保險金額ハ保險價額ト同一ナルコトヲ必要トセス保險金額ハ

保險價額ヲ超過スルヲ得スト雖モ保險價額ノ範圍内ニ於テハ當事者ニ於テ隨  
 意ニ之ヲ定ムルコトヲ得ヘキハ疑ヲ容レズ  
 保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ損害ノ高カ保險金額ト同額若クハ其  
 以上ナルトキハ保險者ハ保險金額ノ全部ヲ支拂ハサルヘカラサルヤ否ヤト謂  
 フニ實例ニ於テハ當該保險者ニ於テハ保險價額中保險ニ付セサル部分ハ自ラ  
 保險ヲ爲シタルモノト看做スヲ通例トス語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ保險者カ保險  
 金額ト保險價額トノ割合ニテ損害ヲ負擔スルモノナリ例ヘハ價額百萬圓ノ船  
 舶ヲ保險ニ付スルニ當リ保險金額ヲ五十萬圓トシテ契約ヲ結ヒタルニ六十萬  
 圓ノ損害ヲ生シタリトモハ保險者ハ三十萬圓ノ損害ヲ填補スルカ如シ我商法  
 ハ第三百九十一條ニ同様ノ趣旨ヲ以テ規定ヲ設ケタリ曰ク「保險價額ノ一部ヲ  
 保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ負擔ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割  
 合ニ依リテ之ヲ定ム」ト

### 第八款 保險料

保險料ハ保險者カ航海ニ關スル事故ニ因リテ生スル損害ヲ填補スル責ニ任ス  
 ルニ對シ保險契約者ヨリ支拂フ報酬ニシテ保險契約ニ於ケル要項ニ屬ス保險  
 料ハ保險契約者ニ於テ支拂フ義務ヲ有シ自己ノ爲メニ保險契約ヲ結フ場合ハ  
 勿論他人ノ爲メニ保險契約ヲ結フ場合ニ在リテモ同様ナリトス(第四〇一條然  
 レトモ他人ノ爲メニ保險契約ヲ結ヒタル場合ニ保險契約者カ破産ノ宣告ヲ受  
 ケタルトキハ被保險者カ保險者ニ對シ保險料ヲ支拂フ義務ヲ負フニ非サレハ  
 保險關係ヲ繼續スルコトヲ得サルモノトス保險料ハ金錢ヲ以テ計算スルヲ原  
 則トスレトモ金錢ヲ以テ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ以テ之ニ代フルハ妨ナシ  
 保險料ハ確定ノ金額ヲ以テ示スコトアリ又割合ヲ以テ示スコトアリ割合ヲ以  
 テスルハ保險金額若クハ保險價額ノ幾部ト定ムルヲ普通トス保險料ノ額ハ保  
 險者カ擔保スル危險ノ程度ト相伴フモノニシテ保險ノ目的保險期間航海季節  
 等ヲ斟酌シテ之ヲ定メ危險多クシテ保險料モ亦其額ヲ増スモノナリ危險  
 ノ變更アルヘキ保險契約ニ於テハ航海ノ場所若クハ季節ト場所ニ付キ特ニ割  
 増保險料ヲ支拂フヘキコトヲ定ムルコトアリ例ヘハ冬期ニ於ケル日本海ノ航

海ニ於テハ百分ノ二ヲ保險料ヲ増加スト契約スルノ類ナリ保險契約ニ於テ特別ノ危險ヲ斟酌シテ保險料ノ額ヲ定ムル場合ニ保險期間中其危險力消滅シタルトキハ保險契約者ハ將來ニ向テ保險料ノ減額ヲ請求スルコトヲ得ヘシ保險料ノ額ニ付テハ法律上制限ヲ加フルコトナシ保險料支拂ノ場所及ヒ時期ハ保險契約ノ定ムル所ニ依ル保險契約ニ定ナキトキハ商慣習ニ依リ相當ノ時期及ヒ場所ニ於テ支拂ヲ爲ササルヘカラス

### 第三節 海上保險契約ノ效力

#### 第一款 契約關係者ノ權利義務

海上保險契約ハ保險者カ航海ニ關スル事故ニ因リテ生シタル損害ヲ填補スルコトヲ約シ保險契約者カ之ニ其報酬即チ保險料ヲ與フルコトヲ約スルモノナルハ上文ニ於テ重テテ説述シタル所ナリ此海上保險ノ原則ヨリ見ルトキハ保險者ハ保險契約者ニ對シ保險料ヲ請求スルノ權利ヲ有シ保險契約者ハ保險料ヲ支拂フヘキ義務ヲ負ヒ又保險契約者若クハ他人ハ爲者ニ保險契約ヲ締結シ

タルトキハ被保險者ハ損害カ發生シタル場合ニ之カ填補ヲ請求スルノ權利ヲ有シ保險者ハ之カ填補ヲ爲ス義務ヲ負フモノナリ保險契約者ノ義務ハ契約ノ成立ト共ニ確定スルモ保險者カ損害ヲ填補スルノ義務ハ擔保シタル危險ニ因リ損害ノ發生スルコトヲ條件トスルモノナリ斯ク説明シ來レハ海上保險契約ニ於ケル權利義務ノ關係ハ頗ル單純ナルカ如シト雖モ實際ハ之ニ反シテ一ニハ保險自體ノ性質ヨリ一ニハ危險及ヒ損害ノ千差萬様ナルヨリ極メテ錯雜セル現象ヲ呈スルモノトス即チ保險自體ノ性質上ヨリシテ特種ノ關係ヲ生シ保險契約者若クハ被保險者ヲシテ負ハシムル義務ハ保險料ノ支拂ノミニ止マラス又保險者ノ義務ハ直接ニ保險ノ目的ニ生シタル損害ヲ填補スルノミニ止マラサルモノトス又危險及ヒ損害ノ種種錯雜セルヤ損害補填ハ單純ナル民法上ノ原則ニノミ依ル能ハス法律ニ於テモ契約ニ於テモ關係者ノ權利義務ニ付キ種種ノ規定ヲ設タルノ已ムヲ得サルニ至ラシム先ツ本款ニ於テハ海上保險契約ニ特種ナル義務ニ關シ説述スル所アラントス

若クハ積荷ニ對シ被保險者ノ有スルト同様ノ利害關係ヲ有スルニ至ラシム保  
 險者ハ保險契約ヲ締結ニ依リ擔保シタル危險ニ起因スル損害ヲ填補スル責任  
 ヲ有スルカ故ニ危險ノ發生セザルコト即チ船舶積荷等ニ損害ヲ生セザルコト  
 ハ保險者ノ利益ニ屬スルモノトス然ルニ船舶積荷等ハ被保險者ノ管理ニ屬ス  
 ルヲ以テ保險者ノ利益モ亦其管理ニ信託セララルモノト謂ハザルヘカラス實  
 際ニ於ケル船舶積荷ノ保管ハ船長ニ屬スト雖モ被保險者ハ其利益ヲ保護スル  
 爲メ船舶積荷ニ對シ相當ノ處置ヲ施スヲ得ヘク殊ニ危險カ發生シタル場合ニ  
 在リテハ救助船ヲ派遣シ修繕ヲ加ヘ毀損物件ヲ迅速ニ處分スル等損害ヲ未發  
 ニ防キ若クハ既發ノ損害ヲシテ可成結果ヲ小ナラシムルノ手段ヲ採ルヲ得ヘ  
 シ保險者ハ責任ノ始マル時ヨリ危險ノ發生スルニ至ルマテ船舶積荷等ニ對シ  
 毫モ直接ノ關係ヲ有セス其利益ハ一ニ被保險者ノ措置ニ依リ保護セララルノ  
 狀態ニ在ルモノナリ以上說述シタル實際上ノ必要ニ基キ法律ハ保險者ノ利益  
 ヲ保護スル爲メ被保險者場合ニ依リ保險契約者ニ對シ一定ノ義務ヲ負ハシメ  
 タリ其最も重要ナルモノヲ舉タレハ左ノ如シ

一 保險契約者又ハ被保險者ハ保險者ノ負擔シタル危險ノ發生ニ因リ損害カ  
 生シタルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク保險者ニ通知ヲ發スヘキ義務ヲ有  
 ス(第四一二條)

二 被保險者ハ危險ノ發生シタル場合ニ於テハ損害ヲ防止スルコトヲ力ムル  
 義務ヲ有ス(第四一四條)

前記ノ保險契約者又ハ被保險者ノ義務ハ保險者ノ利益ヲ保護スルニ必要ナル  
 モノニシテ保險契約者被保險者ニ於テ此義務ヲ履行スルコトヲ怠リタルトキ  
 ハ保險契約ヲ無効タラシムルニ至ラスト雖モ因リテ生シタル損害ハ義務ヲ履  
 行セザル者ニ於テ負擔セザルヘカラス然レトモ被保險者ハ損害ヲ防止スルニ  
 ハ相當ノ費用ヲ要スルモノニシテ此費用ハ保險者ノ利益ヲ保護スルニ出ツル  
 モ費用及ヒ填補額カ保險金額ニ超過スルト雖モ超過保險トシテ無効タラシム  
 ルコトナシ最モ保險價額ノ一部分ヲ保險ニ付シタル場合ニハ保險者ハ其負擔  
 スル保險金額ノ割合ニ應シテノミ費用ヲ分擔スルハ勿論ナリトス

## 第二款 損害ノ填補

保險者ハ負擔シタル事故ノ發生ニ因リ損害ヲ填補スル責任ヲ有ス保險者ノ義務ノ履行ハ負擔シタル危險ノ發生ヲ條件トシ此條件カ成就スルトキハ保險者ハ主タル債務者ノ位置ニ立ツモノトス保險者ノ負擔シタル危險カ發生シ保險ノ目的ニ付キ損害ヲ生シタルトキハ保險契約者又ハ被保險者カ第三者ニ對シテ損害賠償ノ請求權ヲ有スルトスルモ保險者ハ契約ニ從ヒ其損害ヲ填補スル責ニ任セサルヘカラス尤モ此場合ニ於テ保險者ハ其支拂ヒタル金額ノ限度ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ第三者ニ對シテ有セル權利ヲ取得スルモノナリ(第四一六條第六七七條)保險者カ損害ヲ填補スルニハ保險契約ノ定ムル所ニ從ヒ保險ノ目的ニ付キ生シタル損害カ全部ニ對スルトキト一部ニ對スルトキトノ區別ニ應ジ保險金額ノ全部又ハ一部ヲ支拂ハサルヘカラス

損害填補ノ額ハ保險ノ目的ニ對スル損害ノ高ニ應スヘキモノニシテ損害ノ高ハ危險カ保險ノ目的ニ及ホシタル作用ノ如何ニ關係ヲ有ス保險ノ目的タル船

舶積荷等カ危險ノ爲メ或ハ全滅スルコトアリ或ハ輕微ノ損害ヲ被ルニ過キサルコトアリ保險ノ目的カ全部消滅スルトキ例ヘハ船舶カ洋海ニ於テ燒失シ若クハ棄揚、衝突ノ爲メ破壊シタルトキ又ハ積荷ノ全部カ毀損シタルトキ等ノ場合ハ所謂全損ニシテ保險者ハ保險金額ノ全部ヲ支拂ハサルヘカラス此全損ハ保險ノ目的カ全部滅失シタル場合ニ止マラス船舶カ行衛不分明ト爲リタルトキ、捕獲セラレタルトキ等ノ場合モ亦保險關係者ヨリ見ルトキハ全部滅失シタルトキ、相擇フナキニ由リ諸國ノ法律ニ於テ之ヲ全損トシテ處分セシム以上ノ程度ニ達セサル損害例ヘハ船舶ノ一部ニ損傷ヲ生シタルトキ若クハ積荷ノ一部カ毀損シタルトキ等ノ場合ハ所謂分損ニシテ保險者ハ保險契約ニ定ムル所ニ從ヒ保險金額ニ對スル割合ニ依リテ損害ノ填補ヲ爲スモノトス保險者ノ負擔スヘキ損害カ發生シタルトキハ其後ニ至リ保險ノ目的カ保險者ノ負擔セサル危險ノ發生ニ因リテ滅失シタルトキト雖モ保險者ハ其損害ヲ填補スル責任ヲ免ルルコトヲ得サルモノナリ(第四一三條)

第三款 全損

全損ト稱スルハ嚴正ニ之ヲ言ヘハ保險ノ目的カ全然滅失シタル場合ノミヲ指  
スモノナリ例ヘハ船舶積荷カ海上ニ於テ破壞沈没シ絶對ニ救助ヲ爲ス能ハサ  
ルニ至リタルトキノ如キ是ナリ然レトモ前段ニ述ヘタル如ク保險ノ目的カ全  
然滅失シタルニ非サルモ殆ト之ト同様ノ情態ニ在ルトキハ之ヲ全損トシテ處  
理セシムルヲ慣例トス或國ノ法律ニ於テハ全損ノ場合ニハ總テ委付ヲ爲スコ  
トヲ要ストスルモノアリ例ヘハ佛蘭西伊太利等ノ法律ニ依レハ難破捕獲押收  
航海不能全價四分ノ三以上ニ相當スル損傷等ノ場合ハ全損ニシテ被保險者ハ  
委付ヲ爲スコトヲ得ヘク其他ノ場合ハ分損ニシテ割合ニ應ジ保險金額ノ支拂  
ヲ請求スルヲ得ルモノトス他ノ法律ニ於テハ全損ノ區別シテ委付ヲ要セスシ  
テ保險金額ノ全部ヲ請求スルコトヲ得ル場合ト委付ヲ爲スニ因リ保險金額ノ  
全部ヲ請求スルヲ得ル場合トニ分ツモノアリ例ヘハ獨逸及ヒ英吉利ニ於テハ  
此主義ヲ採ル獨逸商法第八百五十四條ニ依レハ船舶若クハ積荷カ滅失シ若ク

ハ回復ノ見込ナク被保險者ノ手ヲ離レ殊ニ沈没シテ救助スル能ハス又ハ從前  
ノ形狀ヲ破壞シ又ハ捕獲裁決ヲ受ケタルトキハ全損トシ同商法第八百六十  
一條ニ依レハ船舶カ行衛不分明ト爲リ若クハ保險ノ目的カ押收捕獲セラレタル  
等ノ場合ニハ被保險者ハ保險ノ目的ニ對スル權利ヲ委付シテ保險金ノ全部ヲ  
請求スルヲ得ルモノトス英吉利ノ判例ニ依レハ保險ノ目的カ全然滅失シタル  
トキ若クハ其修繕カ絶對的ニ不能ナルトキハ勿論保險ノ目的カ全部滅失シタ  
ルニ非サルモ殆ト之ニ近キトキ又ハ保險ノ目的ノ修繕カ絶對ニ不能ニ非サル  
モ極メテ見込少ク又ハ經濟上甚シク不利益ナルトキモ全損トシテ保險金額ノ  
全部ヲ請求スルヲ得ルハ同様ナルモ後者ノ場合ニハ委付ヲ爲スコトヲ要スル  
モノトス前記英國國ノ制度ニ於テハ通常全損ヲ二様ニ區別シ保險ノ目的カ全  
然滅失シタル場合ヲ實際ノ全損トシ殆ト之ト同様ノ情態ニ在ル場合ヲ認定  
上ノ全損ト稱ス此區別ニ依レハ實際上ノ全損ノ場合ハ被保險者ハ單ニ其實  
ヲ證明スルトキハ保險金額全部ノ請求ヲ爲シ得ヘキモ認定上ノ全損ノ場合ニ  
ハ事實ヲ證明スルノ外委付ノ行爲ヲ爲スニ非サレハ保險金額ノ全部ヲ請求ス

ルヲ得ナルモノナリ最モ何ヲカ實際ノ損害トシ何ヲカ認定上ノ損害トスル  
 ヤニ付テハ多少國法ノ間ニ差異ノ存スルヲ免レヌ我商法ニ於テハ第六百七十  
 一條ニ一定ノ場合ヲ示シ被保險者ハ保險ノ目的ヲ保險者ニ委付シテ保險金額  
 ノ全部ヲ請求スルコトヲ得ヘシト定ム本條ニ掲クル場合ハ事項ノ點ニ就テハ  
 多少ノ差別アリト雖モ其範圍ハ殆ト佛伊國ノ法律ニ規定スル所ト同様ナリ故  
 ニ保險ノ目的カ全然滅失シタル場合ハ勿論全然滅失シタルニ非サルモ船舶カ  
 沈没シタルトキ、船舶ノ行方カ知レサルトキ、船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至  
 リタルトキ、船舶又ハ積荷カ捕獲セラレタルトキ、船舶又ハ積荷カ官ノ處分ニ依  
 リテ押收セラレ六箇月間解放セラレサルトキ保險ノ目的ヲ委付スルニ於テハ  
 保險金額ノ全部ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス更ニ船舶積荷等被保險利益ニ  
 付テ分解スレハ左ノ如シ

一 船舶ノ全部カ破損、沈没シテ舊態ヲ存セザルトキ並ニ沈没シテ  
 ノ發生ニ因リテ船舶ノ全部カ破損、沈没シテ舊態ヲ存セザルトキ並ニ沈没シテ  
 多少舊態ヲ存スルモ到底引揚ケル能ハサルトキハ勿論全損ナリ沈没シタルト

キ、行方不明ト爲リタルトキ、捕獲セラレタルトキ、官ノ處分ニ依リ押收セラレ六  
 箇月ヲ經過シタルトキハ或ハ被保險者カ之ヲ回復スルヲ得ルヤモ計リ難シト  
 雖モ之ヲ全損トシテ委付ノ處分ヲ爲スコトヲ得ヘシ

二 積荷 積荷ハ其物質カ全部滅失シタルトキハ全損トス例ヘハ保險ノ目的  
 タル穀類、綿布、棉花、煙草等カ全ク燒失シタルカ如キ又ハ酒類、石油等カ樽ノ破損  
 ニ因リテ全ク海中ニ流失シタルカ如キハ即チ此類ナリ其他物質カ全然變化ヲ  
 來シタルトキモ亦全損ナリ例ヘハ魚鳥肉類カ全部腐敗シタルカ如キ類ナリ積  
 荷カ捕獲セラレタルトキ若クハ官ノ處分ニ依リ押收セラレ六箇月間解放セラ  
 レサルトキハ前項ト同様ニ全損トシテ委付スルコトヲ得ヘシ積荷ヲ航海ノ途  
 中ニ於テ不可抗力ニ因リ賣却シタル場合ニハ其賣却ニ依リテ得タル代價ノ中  
 ヲリ運送費其他ノ費用ヲ控除シタルモノト保險價額トノ差額ヲ保險者ノ負擔  
 トスルモノニシテ若シ買主カ其代價ヲ支拂ハサルトキハ保險者ハ保險金額ノ  
 全部ヲ支拂ハサルヘカラス又積荷カ毀損シテ陸揚港ニ到達シタル場合ニハ毀  
 損シタル狀況ニ於ケル價額ノ毀損セザル狀況ニ於テ有スヘカリシ價額ニ對ス



ル割合ヲ以テ定ムルモノニシテ毀損シタル積荷カ價額ヲ有セサルトキハ保險者ハ前段同様ニ保險金額ノ全部ヲ支拂ハサルヘカラス(第六六九條第六七〇條)

三 運送貨 運送貨ノ保險契約ニ於テハ被保險者カ積荷ノ滅失等ニ因リ運送貨ノ全部ヲ失フトキハ全損トス

四 積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益及ヒ報酬 積積カ目的港ニ到達セサルトキハ全損トス

五 海産ヲ限度トスル債權 債權ノ目的タル船舶積荷カ沈没破壊其他滅失シタルトキハ全損トス

### 第四款 委付

委付ハ海上保險ニ特有ナル方法ニシテ各國ノ法制ニ於テ認ムル所ナリ被保險者カ危險ノ發生ニ因リ損害ヲ受ケ之カ填補ヲ求メントスルニハ其損害ノ事實及ヒ範圍ヲ調査セサルヘカラス此調査ハ船舶カ沈没シタルトキ若クハ大部分破壊シタルトキ其他前段ニ述ヘタル認定上ノ全損ノ場合ニハ頗ル困難ニシテ

就中船舶積荷カ捕獲セラレタルトキ船舶カ行方不分明ト爲リタルトキ等ニ在リテハ果シテ全損ト看做スヘキヤ否ヤ豫メ斷定ヲ下シ難キ所トス此ノ如キ場合ニ被保險者ヲシテ事實ノ判明スルマテ損益未定ノ間ニ彷徨セシムルハ商業ヲ獎勵スル所以ニアラサルヲ以テ諸國ノ法制及ヒ慣例ニ於テハ被保險者ニ保險ノ目的ヲ委付シテ保險金額ノ全部ヲ請求スルノ權利ヲ與ヘタリ以下委付ノ場合委付ノ方式及ヒ委付ノ效力ニ付キ概要ヲ説明スヘシ

#### 第一 委付ノ場合

我商法ニ於テハ第六百七十一條ニ委付ノ場合ヲ列舉セリ其各項ノ場合ハ左ノ如シ

一 船舶カ沈没シタルトキ 船舶ノ沈没トハ字義ノ示ス如ク船舶カ全ク海底ニ沈ムコトヲ謂フ或ハ絕對ニ救助スルコト能ハサル場合アリ或ハ救助シ能ハサルニアラサルモ救助ノ費用巨額ニシテ不經濟ナル場合アリ前ノ場合ハ勿論後ノ場合ニ於テモ被保險者ハ保險ノ目的例ヘハ船舶積荷ヲ委付シテ保險金額ヲ請求スルコトヲ得ヘシ

二 船舶ノ行方カ知レサルトキ 我商法ニ於テハ船舶ノ存否カ六箇月間分明ナラサル場合ニハ行方ノ知レサルモノトス船舶法ノ規定モ同様ニ船舶カ六箇月間存在不分明ナルトキハ其登録ヲ抹消スヘキモノトス外國ノ法律ニ於テハ航路ノ長短又ハ船舶ノ種別ニ依リ期間ヲ異ニシ或ハ一箇年ト定ムルモノアルモ近年物質的進歩ノ趨勢ニ依レハ此期間ハ短縮スルヲ至當トスルモノノ如シ船舶カ航海ヲ始メ法定ノ期間内其行方ヲ知ル能ハサルトキハ滅失シタリト推定スルモノニシテ此場合ニハ被保險者ハ船舶積荷等ヲ委付シテ保險金額ヲ請求スルコトヲ得ヘシ保險期間ノ定アル場合ニ於テ其期間カ船舶ノ行方ヲ失ヒ未タ六箇月ニ達セサル前ニ經過シタルトキト雖モ被保險者ハ委付ヲ爲スコトヲ得ヘシ此場合ニ保險者ハ船舶カ保險期間内ニ滅失セザリシコトノ證明ヲ爲ストキハ委付ヲ無効トスルコトヲ得ヘシ(第六七二條)

三 船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキ 船舶カ保險契約ニ定ムル危險ノ發生ニ因リ損害ヲ受ケ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキハ被保險者ハ保險ノ目的ヲ委付シテ保險金額ノ全部ヲ請求スルコトヲ得ヘシ修繕スル

コト能ハサルニ至ルトハ船舶カ其所在地ニ於テ修繕ヲ受クルコト能ハス且修繕ヲ爲スヘキ地ニ到ルコト能ハサル場合並ニ修繕費カ船舶ノ價額ノ四分ノ三ニ超ユル場合ヲ指ス(第五七一條此點ニ關シテハ外國ノ法律ハ我商法ト規定ヲ異ニスルモノ少カラス獨逸ノ法律ニ於テハ修繕スルコト能ハサル場合及ヒ修繕ノ費用カ船價ノ四分ノ三ニ超ユル場合ニハ被保險者ハ船舶若クハ難破物件ヲ公賣スルコトヲ得ヘク賣得金ト保險金額トノ差額ヲ以テ損害ノ額ト定ム(獨逸商法第八七三條佛蘭西ノ商法ニ於テハ被保險者ハ船舶カ航海ニ堪ヘスト認定セラレタルトキ及ヒ損害ノ高カ保險ノ目的ノ價額ノ四分ノ三ニ超ユルトキハ委付ヲ爲スコトヲ得ルモノトス英吉利ノ判例ニ依レハ船舶カ修繕スルコト能ハサルトキ及ヒ修繕費カ船舶ノ價額ニ超ユルトキハ被保險者ハ委付ヲ爲スコトヲ得ルモノトス船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキハ積荷モ亦委付ヲ爲シ得ヘシ尤モ船長カ運滞ナク他ノ船舶ヲ以テ該積荷ノ運送ヲ繼續シタルトキハ委付ヲ爲スコトヲ許サス

四 船舶又ハ積荷カ捕獲セラレタルトキ 交戦ノ實例ニ依レハ捕獲ニ付テハ

當該官憲ノ審判ヲ經テ當否ヲ決スルヲ普通トシ捕獲セラレタル船舶積荷カ解放セラレヘキヤ否ハ審判ヲ結了スルマテハ明カナラス故ニ斯ル場合ニハ被保險者ニ於テ保險ノ目的ヲ委付シテ保險金額ノ全部ヲ請求スルコトヲ許ス獨逸ノ法律ニ於テハ戰利品トシテ捕獲審判ノ決定ヲ與ヘラレタルトキハ委付ヲ要セサルモ交戰國ノ爲メニ捕獲セラレ若クハ海賊ノ爲メニ掠奪セラレ一定ノ期間ヲ經過スル場合ニハ被保險者ハ委付ノ手續ヲ爲シテ保險金額ノ全部ヲ請求スルヲ得ルモノトス佛伊國ノ商法ニ於テハ捕獲ヲ以テ委付ヲ爲シ得ル場合ノ一ト認ムルコト我商法ト同様ナリ捕獲ハ敵國ノ行爲ニ出ツルモノト海賊ノ行爲ニ出ツルモノトアリ

五 船舶又ハ積荷カ官ノ處分ニ依リテ押收セラレ六箇月間解放セラレサルトキ 政府ノ處分トシテ船舶積荷ヲ數箇月以上抑留スル等ノ場合ニハ利害關係人ニ對シテハ該物件ヲ喪失シタルト同様ノ結果ヲ來スヘシ即チ商法ニ於テハ船舶又ハ積荷カ官ノ處分ニ依リ押收セラレ六箇月間解放セラレサルトキハ被保險者ハ委付ノ手續ニ依リ保險金額ノ全部ヲ請求スルヲ得ヘキコトヲ定ム

以上我商法ニ於テ被保險者ノ權利トシテ委付ヲ爲シ得ルモノト定メタル場合ヲ列舉シタリ此外當事者ノ合意ヲ以テ委付ヲ爲スコトヲ得ル場合ヲ協定スルニ因リ何等ノ故障アルヲ見ス

第二 委付ノ方式

我商法ノ規定ニ依レハ被保險者カ委付ヲ爲サント欲スルトキハ法定ノ期間内ニ保險者ニ對シ其通知ヲ發スルコトヲ必要トス此期間ハ三箇月ニシテ起算點ハ委付ヲ爲ス場合ノ如何ニ依リ多少ノ差別アリ船舶カ沈没シタル場合船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタル場合船舶又ハ積荷カ捕獲セラレタル場合ニハ被保險者カ其實情ヲ知リタル日ヨリ起算シ船舶ノ行方カ知レサルトキ及ヒ官ノ處分ニ依リ押收セラレタル場合ニハ法定ノ六箇月ノ期間ヲ經過シタル日ヨリ起算ス再保險ノ場合ニハ第一ノ保險契約ニ於ケル保險者ハ其對手タル被保險者ヨリ通知ヲ受ケテ始メテ委付ヲ爲スコトヲ知ルモノニシテ第二ノ保險契約ニ於ケル保險者ニ委付ノ通知ヲ爲スハ必ス自己ノ被保險者ヨリ委付ノ通知ヲ受ケタル後ナラサルヘカラス故ニ再保險ノ場合ニハ法律ニ定ムル三箇

月ノ期間ハ被保險者ヨリ委付ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ起算ス普通ノ手續ニ依  
 レハ契約ニ定ムル危險カ發シ損害ヲ生シタルトキハ被保險者ハ運滞ナク其越  
 フ保險者ニ通知シ三箇月内ニ委付ノ通知ヲ發スルコトヲ必要トス被保險者カ  
 委付ノ通知ヲ爲サスシテ法定ノ期間ヲ經過シタルトキハ遂ニ委付ノ權利ヲ行  
 フコトヲ得サルヘシ固ヨリ之カ爲メ被保險者ノ保險者ニ對スル損害填補請求  
 ノ權利ハ消滅スルニ非スト雖モ損害ノ確定シタル後ニ非ナレハ填補ノ請求ヲ  
 爲スコトヲ得サルモノトス

委付ノ通知ハ單純ナラサルヘカラス條件附ノ委付ハ效力ヲ生セス又委付ハ保  
 險ノ目的ノ全部ニ付テノミ之ヲ爲シ得ルモノナレハ一部ヲ委付シテ一部ヲ留  
 保スルカ如キハ委付ノ效力ヲ生セシムルコトナシ然レトモ委付ノ原因カ保險  
 ノ目的ノ一部ニ付テ生シタルトキハ其部分ニ付テ之ヲ爲スコトヲ得ヘク又保  
 險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ  
 應シテ委付ヲ爲シ得ヘシ(第六七五條)

我商法ハ委付ノ通知ニ關シ別段ノ形式ヲ備フヘキコトヲ要求セス然レトモ被

保險者カ委付ヲ爲スニハ保險者ニ對シ保險ノ目的ニ關スル證書ヲ交付シ且他  
 ノ保險契約並ニ其負擔ニ屬スル債務ノ有無及ヒ其種類ヲ通知スルノ義務ヲ有  
 スルモノト定ム

第三 委付ノ效力

委付ノ通知ハ單獨行爲ニシテ保險者ノ承諾ヲ缺タスシテ效力ヲ生ス一旦決定  
 シタル委付ハ後ニ至リ之ヲ變更スルヲ許サス又保險者カ委付ヲ承認シタルト  
 キハ後日ニ至リ其委付ニ關シ異議ヲ述フルコトヲ得サルヲ原則トス尤モ詐僞  
 強迫等ノ事實ニ起因スルコトヲ證明スルトキハ承諾ノ無効ヲ主張スルコトヲ  
 得ルハ論ヲ缺タス保險者ハ被保險者カ委付ニ關シ必要ナル手續ヲ終リタルト  
 キハ相當ノ時期ニ於テ保險金額ヲ支拂ハサルヘカラス保險契約ニ於テ支拂ニ  
 付キ期間ヲ定メタルトキハ被保險者カ各種必要ナル通知ヲ爲シタル時ヨリ起  
 算スルモノトス委付アリトキハ保險者ハ別段ノ方式ヲ履マシテ被保險者カ  
 保險ノ目的ニ付キ有セル一切ノ權利ヲ取得スヘシ委付アリタル後物件ノ回復  
 アリトスルモ委付ニハ變更ヲ及ホスコトナシ委付ヲ爲シタル後ニ在リテモ被

保險者ハ保險ノ目的ニ對シ尙ホ相當ノ力ヲ用ヒテ損害ヲ防止スルノ義務アリ  
保險者カ委付ヲ承認セサルトキハ被保險者ハ委付ノ原因ヲ證明スルニ非サレ  
ハ保險金額ノ支拂ヲ請求スルヲ得サルモノトス

### 第五款 分損

分損ハ全損ニ對シ保險ノ目的ニ付キ生シタル一部分ノ損害ナリ船舶ニ就テ之  
ヲ言ヘハ船體ノ一部カ破損シ又ハ機關ニ損傷ヲ生シタルノ類、積荷ニ就テ之ヲ  
言ヘハ目的物件ノ或部分ヲ流失シ毀損シ若クハ燒失シタルノ類ナリ前段ニ述  
ヘタル如ク分損ニ付テハ契約ニ別段ノ定アルトキノ外共同海損ニ屬セサル費  
定ハ計算費用ヲ算入セスシテ保險價額ノ百分ノ二ニ達セサルモノハ保險者ハ  
之ヲ填補セサルモノトス分損ノ結果ハ全損ノ場合ト異ナリテ保險契約ヲ終了  
セシメサルヲ以テ保險契約ノ有効期間内ニ在リテハ幾回ノ損害アリトスルモ  
保險者ハ之ヲ填補スルノ義務ヲ有ス此點ニ關シ獨逸ノ商法ニハ制限ヲ設ケ保  
險者カ保險價額ノ全部ヲ支拂フトキハ業務ノ解除ヲ請求シ得ヘキコトヲ定ム

### 〔獨逸商法第八四一條〕

### 第四節 海上保險契約ノ解除、無效、失効

海上保險契約ノ解除等ニ付テハ一般契約ニ關スル原則ニ依ルヘキハ勿論ナリ  
ト雖モ保險上特別ナル規定ヲ設ケラレタルモノニシテ足ラス左ニ其主要ナ  
ルモノヲ掲クヘシ  
保險契約者ハ保險者ノ責任ノ始マル前ニ於テハ契約ノ全部又ハ一部ノ解除ヲ  
爲スコトヲ得ヘシ又保險者ノ責任カ始マル前ニ於テ保險契約者若クハ被保險  
者ノ行為ニ因ラスシテ保險ノ目的ノ全部又ハ一部ニ付キ保險者ノ負擔ニ歸ス  
ヘキ危險カ生セサルニ至リタルトキハ保險者ハ保險料ノ全部又ハ一部ヲ返還  
スヘキモノトス  
以上ノ場合ニ於テハ保險者ハ其勢力等ニ對スル報酬トシテ返還スヘキ保險料  
ノ半額ニ相當スル金額ヲ請求スルコトヲ得ヘシ又保險契約者ハ保險者カ破産  
ノ宣告ヲ受ケタルトキハ契約ノ解除ヲ爲シ得ヘシ尤モ保險契約者カ保險者ヲ

シテ相當ノ擔保ヲ供セシメテ契約ヲ繼續スルハ其擇ヲ所ニ任ス第四〇五條第四〇七條乃至第四〇九條前段ニ依リテ保險契約ノ解除ノ要件ニシテ保險者ハ保險期間中危險カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ著シク變更シタルトキハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ヘシ(第四一一條) 條

海上保險契約ハ締結ノ當時保險契約者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ重要ナル事實ヲ告ケヌ又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタルトキ委任ヲ受ケスシテ他人ノ爲メニ契約ヲ爲シタル場合ニ其旨ヲ保險者ニ告ケサルトキハ無効ニ歸スヘシ契約締結ノ後ニ於テ保險期間中危險カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ著シク變更又ハ増加シタルトキハ保險契約ハ效力ヲ失フ第四一〇條其他保險者ノ責任カ始マル前ニ航海ヲ變更シタルトキ保險者ノ責任カ始マリタル後航海ヲ變更シタルトキ被保險者カ發航ヲ爲シ若クハ航海ヲ繼續スルコトヲ怠リ又ハ航路ヲ變更シタルトキ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ船舶ヲ變更シタルトキ最初

船舶ヲ定メサル場合ニ船積ヲ爲シタルコトヲ知リタルニ拘ハラヌ船舶ノ名稱國籍ヲ通知セサルトキ等ノ場合ニ關シ我商法ハ或ハ效力ヲ失フモノトシ或ハ保險者ヲシテ事後責任ヲ負フコトヲ免レシムルハ既ニ前段ニ述ヘタル所ナリ

### 第十章 船舶債權者

我商法ニ於テ船舶債權者ト稱スルハ船舶ノ上ニ特別ノ先取特權ヲ有スル者及ヒ抵當權ヲ有スル者ヲ指ス故ニ之ヲ先取特權者ト抵當權者トノ二様ニ分チ其大要ヲ説明スヘシ

#### 第一節 先取特權者

先取特權ハ法律ノ規定ニ依リテ成立スルモノナルコトハ民法ノ原則ニ照ラシテ明カナリ航海ノ必要ヨリ生シタル債權例ヘハ船員ノ給料造船費用等ハ船舶ノ價額ノ上ニ特別ノ權利ヲ有スルコトハ既ニ中古時代ノ制度ニ於テ認ムル所ニ係ル我商法第六百八十條ニ於テ先取特權ヲ以テ擔保スヘキ債權ノ種類ヲ列

舉セリ左ニ其性質ヲ略説スヘシ夫其性質ヨリ於テ其權利ノ行使ハ其船舶ノ所有權ノ行使ニ依リテ行ハルルモノナリ故ニ其權利ノ行使ハ其船舶ノ所有權ノ行使ニ依リテ行ハルルモノナリ

第一 船舶並ニ其屬具ノ競賣ニ關スル費用及ヒ競賣手續開始後ノ保存費、此費用ハ債權ヲ履行スルニ必要ナルモノニシテ之ニ先取特權ヲ認ムルハ民法ニ於テ債務者ノ財産ノ保存清算又ハ配當ニ關スル費用ニ付キ先取特權ヲ認ムルト同様ノ趣旨ナリトス

第二 最後ノ港ニ於ケル船舶及ヒ其屬具ノ保存費 此費用ハ前項ノ費用ト同様ノ性質ヲ有ス既ニ競賣手續開始以後ノ保存費ニ付キ先取特權ヲ認ムル以上ハ船舶カ最後ノ港ニ入りテ以來ノ保存費モ亦先取特權ヲ認メサルヘカラサルヤ明カナリ競賣ノ場合ニ於テハ本項ノ費用ハ實際其一部ト看做スモ不可ナキカ如シ最後ノ港ト稱スルハ船舶カ最後ノ航海ヲ終リ到着シタル港ヲ指ス

第三 航海ニ關シ船舶ニ課シタル諸稅 航海ニ關スル諸稅トハ港稅噸稅燈臺稅檢疫稅等ノ公稅ヲ指ス此諸稅ニ先取特權ヲ與フルハ此等ハ航海ノ利益ヲ圖リ施設スル營造物ノ費用ヲ支辨スル爲メ徵收スル所ニ係ルヲ以テナリ

第四 水先案内料及ヒ挽船料 水先ハ航海ノ危險ヲ避クル爲メ必要ニシテ挽

船ハ獨力航行スルコト能ハサルカ若クハ獨力航行スルコトノ危險ナル場合例ヘハ凍船ノ機關ニ損傷ヲ生シ航行スルコトヲ得サルトキ又ハ帆船カ逆風ニテ狹隘ナル水路ヲ航行スルトキ等ニ必要アリ共ニ船舶ノ安全ヲ求ムルニ缺タヘカラサルモノナルカ故ニ之ニ對スル費用ハ船舶ノ保存費ト同様ノ性質ヲ有スト謂フコトヲ得ヘシ故ニ此水先案内料及ヒ挽船料ニ對シ先取特權ノ存在ヲ認ムル所以ナリ

第五 救援並ニ救助ノ費用及ヒ船舶ノ負擔ニ屬スル共同海損 救援並ニ救助ハ共ニ船舶ヲ救護スルノ謂ナリ其異ナル點ハ船舶ニ船長海員ノ存在スルアリテ救援ヲ求ムルニ應シテ助力ヲ與フル場合ヲ救援ト稱シ船長海員ノ存在セタルカ若クハ存在スルモ船舶ヲ處分スル能力ヲ失ヒタルトキ救援ヲ爲スル救助トスルニ在リ共同海損ハ前章ニ述ヘタルカ如ク船舶貨物共同ノ危險ヲ避クル爲メ生ジタル損害及ヒ費用ナリ故ニ救援救助及ヒ共同海損ノ處分ハ船舶ヲ救護スル處置ニシテ此處置ナキニ於テハ船舶ハ沈没破壊スルヲ免レザリシヤモ測リ難シ即チ船舶ヲ保存スルニ必要ナル所ナルヲ以テ之ニ對スル船舶ノ負擔

ニ付テハ先取特權ヲ認ムルヲ至當トス  
 第六 航海繼續ノ必要ニ因リテ生シタル債權者航海繼續ノ必要ニ因リテ生シタル債權トハ船長カ航海ヲ繼續スルニ必要ナル爲メ船舶ヲ抵當トシ又ハ借財ヲ爲シ積荷ヲ航海ノ用ニ供シ又ハ之ヲ賣却若クハ質入シタル結果トシテ生シタル債權ノ類ヲ指ス此等ハ船舶カ航海ヲ爲スニ缺タヘカラサル所ニシテ直接ナル救護ニ非サルモ救護又ハ救助ノ場合ト敢テ異ナル所アルヲ見ス是レ此債權ニ先取特權ヲ認ムル所以ナリ  
 第七 雇傭契約ニ因リテ生シタル船長其他ノ船員ノ債權 雇傭契約ニ因リテ生シタル船長海員ノ債權中給料ハ其第一ニ位スルモノナリ其他船長海員カ解約ニ依リ船舶所有者ニ對スル請求權ノ如キモ亦之ニ包含セラル船長海員ハ船舶ノ操縦維持ノ爲メ勞務ニ服スルモノニシテ其給料等ハ船舶ノ保存等ノ必要ナル費用ト同一視スヘキモノナルヲ以テ法律ニ於テハ之ニ付キ先取特權ノ存在ヲ認メタリ是レ一面ニハ法律カ船長海員ヲ保護スルノ趣旨ニ出テタルモノナリ

第八 船舶カ其賣買又ハ製造ノ後未タ航海ヲ爲ササル場合ニ於テ其賣買又ハ製造並ニ艦裝ニ因リテ生シタル債權及ヒ最後ノ航海ノ爲メニスル船舶ノ艦裝食料並ニ燃料ニ關スル債權 船舶ノ賣買價額並ニ製造價額ニ付テハ船舶カ賣買又ハ製造ノ後未タ航海ヲ爲ササル場合ニ限リテ先取特權ヲ認ム賣買及ヒ製造ノ後爲シタル艦裝ノ費用ニ付テモ同様ナリ此先取特權ハ船舶カ航海ヲ始メタルトキハ消滅シ其債權者ハ普通一般ノ債權者ノ有スル權利ヲ有スルニ過キス又最後ノ航海ノ爲メニスル艦裝ノ費用又ハ最後ノ航海ニ必要ナル爲メ船積シタル食料及ヒ燃料ノ代價ハ造船價額等ト同様ニ看做スヘキモノニシテ其先取特權ハ船舶カ航海ヲ始メタルトキハ消滅ス第六八五條  
 第九 第二號第四號乃至第八號ニ掲ケタルモノヲ除外商法第五百四十八條ノ規定ニ依リ委付ヲ許シタル債權 此債權ハ船長其他ノ船員カ職務ヲ行フニ當リ他ニ損害ヲ加ヘタルヨリ生シタル債權例ヘハ船員ノ過失ニ基因シタル衝突ヨリ生シタル債權ノ如キモノ並ニ船長カ其法定ノ權限内ニ於テ爲シタル行爲例ヘハ運送契約ノ履行ヨリ生スル債權ノ如キモノヲ指ス此等ノ債權ニ對シ



ノ船舶所有者ハ船舶運送貨等ヲ委任シテ責任ヲ免ルルコトヲ得ルカ故ニ特  
 ニ商法ニ於テ此等ノ債權ニ付キ先取特權ヲ認メタリ  
 前段ニ列舉シタル船舶債權者ノ先取特權ハ船舶其屬具並ニ未タ受取ラサル運  
 送貨ノ上ニ存スルモノトス船舶及ヒ其屬具ニ付テハ別ニ説明ヲ要セズト雖モ  
 未タ受取ナル運送貨ニ付キ一言スヘシ運送貨トハ物品ニ對スル運送貨ト旅客  
 ニ對スル運送貨トヲ併セ包含スルモノニシテ茲ニ未タ受取ラサルトアルハ船  
 舶所有者カ受取ルヘキ權利アル運送貨ニシテ未タ受取ラサルモノヲ指スニ外  
 ナラス而シテ運送貨ハ先取特權ノ生シタル航海ニ於ケルモノノミヲ指ス其前  
 後ノ航海ニ於ケル運送貨ハ之ヲ包含セザルモノトス第六八一條  
 船舶債權者ノ先取特權カ競合スル場合ニ付テハ左ノ順序ニ依リ優先權ノ順位  
 ヲ定ム第六八二條  
 一 同一ノ航海ニ於テ生シタル場合 此場合ニ於テハ原則トシテ商法第六百  
 八十條各號ノ順序ニ依リ先取特權ノ順位ヲ定ム而シテ同一ノ航海ニ於テ同一ノ  
 順位ニ在ル先取特權者數人アルトキハ債權額ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ受クルモ

ノトスルモ水先案内料挽船料救護並ニ救助ノ費用及ヒ船舶ノ負擔ニ屬スル共  
 同海損航海繼續ノ必要ニ因リテ生シタル債權ニ關シテハ同一航海ニ於テ生シ  
 タル時ノ前後ニ依リ後ニ生シタルモノハ前ニ生シタルモノヨリ優先權ヲ有ス  
 唯同時ニ生シタル場合ニ限リ債權額ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ受クルモノトス蓋  
 シ此等ノ費用ハ直接ニ船舶ノ維持ニ缺クヘカラサルモノニシテ後ニ生シタル  
 債權ノ爲メニ前ニ生シタル債權ハ利益ヲ受クルヲ以テ他ノ順位ノ債權ノ例ニ  
 依ラシムル能ハサルハ明カナリ  
 二 航海ヲ異ニシテ生シタル場合 先取特權カ數同ノ航海ニ付テ生シタル場  
 合ニハ航海ノ前後ニ依リ區別シ後ノ航海ニ付テ生シタルモノハ前ノ航海ニ付  
 テ生シタルモノニ先ツモノトス是レ後ノ航海ニ於ケル處分ニ依リ前ノ航海ニ  
 於ケル債權者カ利益ヲ受クルカ爲メナリ尤モ商法第六百八十條ニ掲グル債權  
 ハ最後ノ港ニ於ケルモノニ限リ先取特權ヲ與フルモノアリ此等ハ所謂絕對ノ  
 先取特權ニ屬スルモノナリ  
 航海ノ前後ハ如何ナル標準ニ依リ之ヲ區別スルヤ獨逸商法第七百五十七條ニ

ハ航海ノ意味ヲ説明シテ船舶カ新ニ艦裝ヲ爲シ若クハ新ナル運送契約ヲ締結シ若クハ積荷ノ全部ヲ陸揚シタル後爲スモノトセリ我商法ニ於テハ明文ヲ掲ケタルヲ以テ一ノ航海カ終了シ他ノ航海カ始マリタルヤ否ヤハ事實ニ照ラシテ判定セラルヘカラス

船舶債權者ノ先取特權ト他ノ先取特權トカ競合スル場合ニ於テハ商法第六百八十三條ノ明文アリテ船舶債權者ノ先取特權カ他ノ先取特權ニ先ツコトヲ規定セリ民法上一般ノ先取特權ト特別ノ先取特權ト競合スル場合ニハ特別ノ先取特權ハ一般ノ先取特權ニ先ツト同一ノ原則ニ出テタルモノナリ

船舶債權者ハ船舶ニ關シ追及權ヲ有ス此制度ハ各國ノ商法ニ於テ概テ其軌ヲ同シウスル所トス獨逸商法第七百五十五條佛蘭西商法第九十條伊太利商法第六百七十四條ニ各明文ヲ示セリ我商法ニ於テハ明文ヲ設ケス而シテ民法ノ規定ニ依レハ先取特權ハ債務者カ其動産ヲ第三取得者ニ引渡シタル後ハ其動産ニ付テ之ヲ行フコトヲ得サルヲ原則トス民法第三三三條船舶ハ動産ナルヲ以テ此原則ヨリ解釋スルトキハ船舶債權者ハ船舶讓渡ノ場合ニハ第三取得者

ニ對シ追及權ヲ行フコトヲ得サルモノト謂ハサルヘカラス然ルニ商法第六百八十四條ノ規定ヨリ見レハ船舶讓渡ノ場合ニ於テハ讓渡人ヨリ公告シタル債權ノ期間内ニ船舶債權者カ申出ヲ爲サザルトキハ其先取特權ハ消滅スルモノトセリ是ニ由リテ之ヲ觀レハ船舶債權者ハ讓受人ノ手ニ引渡シタル船舶ニ追及スルコトヲ得ヘシト解釋スルヲ穩當トス

抑モ船舶債權者ノ先取特權ハ船舶カ債務者ノ手ニ在ル間ハ固ヨリ制限ヲ加フヘキニ非スト雖モ船舶カ讓渡サレタル場合ニハ多少ノ制限ヲ設クルノ必要アリ船舶債權者ノ先取特權ニ付テハ登記ナキヲ以テ船舶ノ讓受人ハ幾干ノ債務カ船舶ニ伴フヤヲ知ルコト頗ル困難ナリ而シテ讓受人カ速ニ其取得シタル船舶ノ負擔スル債務ノ全額ヲ知ルコトヲ得サルニ於テハ安シテ船舶ノ賣買ヲ爲ス能ハス隨テ海運ノ發達ヲ阻害スル虞ナシトモス故ニ我商法ニ於テハ船舶ノ讓渡アリタル場合ニ讓受人ヲシテ其讓渡ヲ登記シタル後先取特權者ニ對シ一定ノ期間内ニ債權ノ申出ヲ爲サシメ此期間内ニ申出ヲ爲サザラシトキハ其先取特權ハ消滅スルモノトス其債權申出ノ期間ハ一箇月以上ヲ要スルモノトス

蓋シ之ヨリ短キトキハ船舶債權者ノ利益ヲ損スル虞アルヲ以テ其最短期間ヲ定メタルナリ獨逸商法第七百六十五條ニモ同様ノ趣旨ヲ以テ規定ヲ設ケタリ佛蘭西商法ニ於テハ船舶カ讓渡サレタル場合ニ讓受人カ其名義ヲ以テ自己ノ危険ニ於テ航海ヲ爲シ債權者ヨリ故障ナキトキハ其先取特權ハ消滅スルモノト定ム

船舶債權者ノ先取特權ハ抵當權ニモ先テ極メテ強大ナルヲ以テ其特權ヲ永ク存續セシムルハ他ノ債權者ノ利益ヲ損スルコトナシト謂フヘカラス故ニ商法ニ於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ其發生後一年ヲ經過シタルトキハ消滅スルモノトセリ

### 第二節 抵當權者

船舶カ抵當權ノ目的ト爲ルヲ得ルコトハ近時各國ノ法律ニ於テ認ムル所ニ係ル是レ船舶カ動産ナルニ拘ハラヌ不動産ニ關スル法規ノ適用ヲ受クル例ナリトス我商法ノ規定スル所ニ依レハ登記シタル船舶ハ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得ヘク其抵當權ニ付テハ不動産ニ對スルト同一ノ規定ニ依ラシム(民法船舶登記規則参照)船舶ヲ抵當權ノ目的トシタルトキハ其屬具モ亦當然抵當權ノ目的タルモノトス此ノ如ク登記シタル船舶ハ之ヲ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ認ムルカ故ニ我商法ニ於テハ之ヲ質權ノ目的ト爲スコトヲ許サヌ又製造中ノ船舶モ亦抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得ヘシ是レ場合ニ依リ船舶ノ注文者カ資金ヲ借入ルル爲メ製造中ニ在ル船舶ヲ以テ抵當ト爲ス等ノコトアルヲ以テ之ヲ認メタルニ外ナラス

## 商法海商 終

商法 海商

法律學部 商法科 講義

商人の権利義務... 債權... 債務... 商標... 海商... 船舶... 海難... 賠償... 責任... 追償... 引当金... 留置権... 優先権... 船主... 船長... 乗組員... 貨主... 荷役... 引当金... 留置権... 優先権... 船主... 船長... 乗組員... 貨主... 荷役...

三十五年度講義

法學士 内田嘉吉 講述

商法 海商

和佛法律學校發行

第一編 第一章 商法の意義と歴史 第二章 商人の資格 第三章 商標 第四章 海商 第五章 船舶 第六章 海難 第七章 賠償 第八章 責任 第九章 追償 第十章 引当金 第十一章 留置権 第十二章 優先権 第十三章 船主 第十四章 船長 第十五章 乗組員 第十六章 貨主 第十七章 荷役

商法學

法律學博士 內田嘉吉 著

三十五

商法海商目次

緒論

第一章 海商法ノ沿革

第二章 海法及ニ海商法

第一節 國際法上ニ於ケル海事關係

第二節 國法上ニ於ケル海事關係

第三節 海商法ノ性質

第三章 船舶

第一節 船舶ノ種類

第二節 船舶ノ性質

第三節 船舶ノ國籍

第四節 國籍ニ伴フ特權

第五節 船舶ノ測度登記登錄國籍證書

商法海商目次

第四章 船舶所有者

- 第一節 船舶ノ取得…………… 六九
- 第二節 船舶所有者ノ法律上ニ於ケル性質…………… 七二
- 第三節 船舶所有者ノ責任…………… 七六
- 第四節 船舶ノ共有…………… 九〇

第五章 船員

- 第一節 船長…………… 一〇五
- 第一款 船長ノ職務上ノ權限…………… 一〇七
- 第二款 船長ノ職務上ノ義務…………… 一〇八
- 第三款 船長ノ注意ノ程度…………… 一一一
- 第四款 船長ノ法定ノ代理權…………… 一一三
- 第五款 船長ト船舶所有者トノ關係…………… 一一九
- 第六款 船長ト積荷關係人トノ關係…………… 一二七
- 第二節 海員…………… 一二九

第六章 物品運送

- 第一節 物品運送契約ノ性質…………… 一四五
- 第二款 運送準備…………… 一四九
- 第三款 船積…………… 一五三
- 第四款 發航…………… 一五八
- 第五款 陸揚…………… 一六〇
- 第六款 運送貨…………… 一六五
- 第七款 運送契約上ニ於ケル船舶所有者ノ責任…………… 一七四
- 第八款 船荷證券…………… 一八五
- 第一款 船荷證券ノ交付…………… 一八六

第二章 船荷證券ノ效力……………一八九

第三款 船荷證券ニ依ル所有權ノ移轉……………一九一

第四款 船荷證券ニ對スル船長ノ權利義務……………一九四

第九節 運送契約ノ解除及ヒ終了……………一九六

第七章 旅客運送……………一九九

第八章 海損……………二〇三

第一節 海損ノ意義及ヒ種類……………二〇三

第二節 共同海損……………二〇五

第三節 船舶ノ衝突……………二一五

第九章 海上保險……………二一九

第一節 海上保險ノ要素……………二一九

第一款 海上保險ノ目的……………二二一

第二款 危險……………二二五

第二節 海上保險契約ノ締結……………二二六

第一款 海上保險契約ノ當事者……………二二八

第二款 海上保險契約ノ目的……………二三〇

第三款 海上保險契約ニ於テ負擔スル危險……………二三四

第四款 保險金額及ヒ保險價額……………二三八

第五款 保險期間……………二四〇

第六款 航海及ヒ航路……………二四二

第七款 損害ノ負擔……………二四七

第八款 保險料……………二五二

第三節 海上保險契約ノ效力……………二五四

第一款 契約關係者ノ權利義務……………二五四

第二款 損害ノ填補……………二五八

第三款 全損……………二六〇

第四款 委付……………二六四

第五款 分損……………二七二

第四節 海上保險契約ノ解除無效失効……………二七三

第十章 船舶債權者……………二七五

第一節 先取特權者……………二七五

第二節 抵當權者……………二八四

商法海商目次終

原告ハ通則ニ從ヒテ左ニ説明スル要件具備ノ事實ヲ立證セサルヘカラス何トナレハ我民事訴訟法ハ人事訴訟事件ヲ除ク外職權ヲ以テ事實上ノ調査ヲ爲シ係爭事實ヲ確定スヘキ主義ヲ認メサレハナリ但民事訴訟法第五百十五條第二項第五號ノ場合ニ於テハ外國法ノ立證ニ關スル民事訴訟法第二百十九條ノ適用ヲ見ルヤ當然ナリ執行判決ヲ求ムル訴ヲ却下シタル判決モ亦一ノ終局判決ナルヲ以テ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ故障又ハ上訴ヲ申立ツルコトヲ得ヘシ我帝國ノ裁判官ハ外國裁判所ノ裁判ノ當否ヲ調査スルノ職權ナシ故ニ第一ニ外國ノ訴訟法ニ從ヒテ執行スヘキ判決ノ取消ヲ主張セント欲スル當事者ハ之ヲ管轄外國裁判所ニ於テ爲ササルヘカラス唯內國裁判所ニ於ケル執行判決ヲ求ムル手續ハ外國裁判所ノ判決ニ對スル再審ノ訴ノ如キ非常手段カ管轄外國裁判所ニ繫屬シタルトキニ於テ民事訴訟法第二百一十一條ニ則リ之ヲ中止スヘキノミ何トナレハ外國裁判所ノ判決ハ執行判決ヲ爲ス前提要件ノ一ナレハナリ然レトモ內國裁判所ニ於テ言渡シタル執行判決ヲ確定以後ニ於テ外國裁判所ノ確定判決カ前示非常手段ノ結果トシテ廢棄セラレタルトキハ債務者ハ其



廢棄ヲ理由トシテ民事訴訟法第五百四十五條ニ則リ執行判決ヲ爲シタル内國裁判所ニ其執行判決ノ廢棄ヲ目的トスル訴ヲ提起スルコトヲ得ヘシ何トナレハ執行判決ヲ爲ス場合ニ於テハ外國裁判所ノ判決ヨリ生シタル執行上ノ訴訟法の請求ハ民事訴訟法第五百四十五條ニ所謂判決ニ因リテ確定シタル請求ニシテ又新ニ成立シタル異議ハ外國裁判所ノ判決ノ廢棄ト共ニ斯ル請求ノ消滅ヲ主張スルモノニ外ナラザレバナリ第二ニ外國裁判所ノ判決ニ因リテ確定セラレタル實體の請求ニ對シ此判決ノ言渡以後ニ於テ成立シタル異議ハ執行判決ヲ求ムル訴訟ノ終局ニ至ルマテ抗辯トシテ之ヲ主張スルコトヲ得ヘク又該訴訟ノ終局以後ニ於テ成立シタル異議ハ民事訴訟法第五百四十五條ニ則リ執行判決ヲ爲シタル内國裁判所ニ受訴裁判所トシテ訴ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得ヘシ何トナレハ民事訴訟法第五百四十五條ニ規定シタル訴ハ確定シタル外國裁判所ノ判決ヲ廢棄スルニ非スシテ唯内國ニ於ケル執行ノ除去ヲ目的トスルモノナレバナリ第三ニ實體的反訴ハ執行判決ヲ求ムル手續ニ於テハ許サレザルモノトス何トナレハ内國ニ於ケル執行許可ヲ目的トスル訴訟の請求

ハ之ヲ支拂ヲ目的トスル實體の請求ト相殺スルコトヲ得サレハナリ第四ニ執行判決言渡以後ニ於テハ民事訴訟法第五百四十六條ニ於テ規定シタル訴ハ外國裁判所ニ非スシテ却テ執行判決ヲ爲シタル裁判所ニ之ヲ提起ス又執行判決言渡以前ニ於テハ外國裁判所ノ判決ニ表示シタル債權者ノ承繼人ヨリ又ハ債務者ノ承繼人ニ對シ執行判決ヲ求ムル訴ヲ提起スルコトヲ得此場合ニ於テハ承繼人ノ成就ニ關シテモ辯論ヲ爲シ裁判所ハ其結果ニ依リ執行判決ヲ與ヘ又ハ之ヲ拒ム判決ノ執行カ條件ニ繋ル場合ニ於テ亦然リ(第五一九條第五一八條第二項何トナレハ此等ノ事項ハ内國ニ於ケル強制執行ノ許否ニ關スルモノナレハナリ)ストロツクマン及ヒ「コフホ氏ハ執行判決言渡以後ニ成立シタル請求ニ對スル異議ハ一般ノ原則ニ從ヒ(第五四五條)獨逸民事訴訟法第六八六條外國ノ受訴裁判所ノ管轄ニ屬シ内國裁判所ノ調査スル所ニ非ス執行判決以後ニ生シタル承繼ノ調査ニ關シテ亦然リ(第五一九條第五二一條)第五四六條)獨逸民事訴訟法第六六五條第六六七條第六八七條ト曰ヘリ然レトモ這ハ通説ニ非ザルナリ

(b) 特定ノ要件 執行判決ヲ言渡スニハ左ノ前提要件ヲ具備スルコトヲ要ス  
 (1) 外國裁判所ノ終局判決タルコトヲ要ス 外國裁判所即チ外國ニ於テ民事  
 的請求權ニ付キ非行政的即チ訴訟的裁判ヲ爲ス職務アル官府ノ裁判タルヲ要  
 ス約言スレハ民事的裁判所ノ判決タルヲ要ス第五一四條第五一五條外國裁判  
 所ノ判決何トナレハ我民事訴訟法ノ強制執行ハ私法の請求權ノ満足ヲ得セシ  
 ムルカ爲メニ存在ス隨テ民事訴訟法第五一四條第一項ニ所謂強制執行モ之  
 カ限界ヲ超越スルコトヲ得サレハナリ故ニ損害賠償ヲ目的トスル民事的請求  
 ニ關スル刑事的裁判所ノ判決私訴判決ノ類ニ外國ニ於テ執行判決ニ因リ強制  
 執行ヲ爲スノ材料ト爲ラス蓋シ此判決ハ損害賠償ノ爲メニスルモノナリト雖  
 モ民事訴訟法ヲ適用セザル刑事的裁判所ノ判決ニ外ナラサレハナリ外國ニ於  
 ケル行政裁判所ノ裁判若クハ行政官廳ノ處分ニ對シテモ亦然リ然レトモ外國  
 裁判所ノ裁判タル以上ハ其裁判ノ材料カ內國ノ法律ニ從ヘハ司法ニ屬セスシ  
 テ却テ行政ニ屬スルカ如キハ敢テ問フ所ニ非サルナリ何トナレハ國際私法ニ  
 所謂廷地法ノ適用トシテ獨立國ハ其國內ニ他國ノ主權ノ行ハルルヲ認メサ

ルカ故ニ國家ノ權力ノ作用タル司法權ヲ行使スル機關タル裁判所ハ自國法ニ  
 認メタル權限及ヒ手續ニ從ヒテ裁判シ外國ノ法律ニ於テ認メラレタル權限及  
 ヒ手續ニ從ヒテ裁判スルコトヲ得ス是ヲ以テ訴訟ハ専ラ法廷地法ニ支配セラ  
 ルヘキ國際私法上ノ原則ヲ生ス外國裁判所ノ判決ニ於テ認メラレタル請求カ  
 更ニ訴訟ノ目的ト爲リ又審理セラレルコトナケレハナリ外國裁判所ノ終局判  
 決タルヲ要ス民事訴訟法第五百十四條及ヒ第五百十五條ニ於テハ單ニ判決下  
 アルモ「ブランク」氏ノ言ノ如ク民事訴訟法第四百九十七條ト相對照シ終局判決  
 ヲ指示スルコト言フヲ埃タス而シテ終局判決即チ當事者雙方ヲ審問スヘキ訴  
 訟手續ニ因リ訴訟事件ヲ確定的ニ終局シタル裁判所ノ裁判之ヲ換言セハ「ブラ  
 ンク」氏ノ所謂確定事實ニ法律ヲ適用シテ生シタル係爭民事訴訟的請求「ブラ  
 ンク」氏ハ訴訟費用負擔ニ付テノ請求ヲ包含スト曰ヒ「ガウプ」氏等ハ訴訟費用  
 ニ關スル裁判ハ事件ノ裁判ナルモ民事訴訟法第五百十四條及ヒ第五百十五條  
 ニ所謂判決ニ非スト曰フニ似タリニ付テノ裁判タル以上ハ其名目ノ如何其訴  
 訟手續ノ如何公開審理不公開審理口頭審理書面審理正則手續變則手續等ヲ問

ハス執行判決ヲ求ムルノ一要件ト爲ル是ヲ以テ判決及ビ開廢判決ハ勿論執行命令ト雖モ民事訴訟法第三百九十四條ニ規定シタル效力ヲ有スルニ至リタルトキハ執行判決ヲ言渡スノ妨ト爲ラス又我帝國内ニ於テ執行ヲ爲スニ適當ナル以上ハ請求ノ形式及ヒ其内容ノ如何ヲ問ハス執行判決ヲ言渡スノ妨ト爲ラス故ニ形式ニ於テハ判決ヲ爲シタル者ノ書面ヲ要シ内容ニ於テハ敗訴者ニ對シ執行ニ依リ違スルコトヲ得ヘキ給付ヲ求ムルモノタルヲ要スルノミ隨テ確認判決訴却下ノ判決ハ執行判決ヲ言渡スノ材料ト爲ルヲ得ス其他訴訟事件ヲ確定シ終局スル判決タルヲ要スルヲ以テ外國裁判所ノ特別終局判決第四百二十六條第三項第四百九十一條第三項ノ如キ中間判決執行判決(ブランド)民ハ訴訟的請求ノミニ關スル終局判決ハ執行判決ヲ言渡スノ材料ト爲ラスト主張シ外國裁判所ノ執行判決ヲ以テ其一例ト爲セリ假差押假處分判決等ノ如キ判決ニハ執行判決ヲ與フルコトヲ得ス何トナレハ特別終局判決ノ如キハ假ニ執行力ヲ享有スルニ過キサルヲ以テ民事訴訟法第五百十五條第一號ノ要件ヲ缺キ其他ノ判決ハ事件ノ實體ニ關スル判決ニ非ザルヲ以テナリ

(2) 形式上確定ノ證明アルニトテ要ス 外國裁判所ノ判決ハ形式上確定セザルヘカラス第五一五條第二項第一號獨逸舊民事訴訟法第六六一條第一項外國裁判所ノ判決ハ外國ノ法律ニ從ヒ我民事訴訟法ニ於ケル形式の確定ノ意義ヲ有スル特質ヲ備ヘサルヘカラス我民事訴訟法ノ用語ニ基キテ之ヲ言ヘハ審判ノ終局ヲ妨ケ且一定不變期間ニ爲スヘキ通常不服申立方法即チ上訴若クハ故障ニ依リ攻撃スルコト能ハサル終局判決ナルコトヲ要ス(第四九八條何トナレハ外國裁判所ノ判決タルノ故ヲ以テ我民事訴訟法第四百九十七條ノ原則ヲ無視スルノ理ナケレハナリ此形式の確定ノ存否ハ判決ヲ爲シタル外國裁判所屬國ノ法律ニ從ヒテ判斷セサルヘカラス何トナレハ外國裁判所ノ判決ノ攻撃ニハ唯其外國ノ法規ノミカ適用セラレ得ヘキモノナレハナリ形式の確定ヲ必要ト爲スカ故ニ外國裁判所ノ單純ナル執行力アル判決獨逸ノ假執行宣言附判決佛國ニ於ケル確定前ノ判決ノ如キニハ執行判決ヲ與フルコトヲ得ス通常不服申立方法ニ非スシテ既ニ終結シタル手續ヲ再施セシムル非常不服申立方法(再審ノ如キ)ノ可能ハ執行判決ヲ與フルノ妨ト爲ラス何トナレハ此非常不服申

立方法カ有效ニ提起セラルルモ既ニ發生シタル形式の確定ヲ消滅セシムルモノニ非サレハナリ然レトモ非常不服申立方法ノ提起ハ判決ノ形式の確定ノ繼續ノ能否ニ疑惑ヲ惹起スヤ當然ナルヲ以テ自國ニ提起セシムル執行判決ヲ求ムル訴訟中止ノ原因ト爲ル蓋シ確定シタル外國裁判所ノ判決ヲ消滅ハ執行判決ヲ受クルコトヲ目的トスル訴訟の請求權ヲ消滅セシムルハナリ同一理由ニ依リ執行判決確定以後外國裁判所ニ於テ執行判決ノ原因タル判決ヲ非常不服申立方法ニ依リ廢棄シタルトキハ被告ハ民事訴訟法第五百四十五條ノ規定ニ則リ異議ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ヘシ外國裁判所ノ判決ノ形式の確定ハ執行判決ヲ求ムル訴訟ニ於ケル原告カ普通ノ原則ニ從ヒテ證明セサルヘカラサルヤ言フヲ埃ダス

(3) 強テ爲サシムルコトヲ得ヘキ行爲ニ付テノ判決ナルヲ要ス我國法上強テ爲サシムルコトヲ得サル行爲即チ強制執行不能ノ行爲ニ付テノ外國裁判所ノ判決ニハ執行判決ヲ與フルコトヲ得ス(第五一五條第二項)獨逸舊民事訴訟法第六六一條第二項(何トナレハ彼我各國家の生存ノ條件ヲ異ニスルヲ以テ我國法

上執行不能ノ行爲ヲ執行セシムルニ於テハ我帝國ノ秩序ヲ危ウスルヲ以テナリ獨逸ノ大家ワル氏ノ説明ヲ借リテ之ヲ言ハハ外國ノ法律ハ自國裁判所ハ執行上ノ權限ヲ擴張スルコトヲ得サレハナリ強テ爲サシムルコトヲ得ル行爲ニ法禁の行爲ノミナリト限定スヘカラス何トナレハ法禁の行爲ニ非サルモ強制執行ニ依リ強制スルコトヲ得サル行爲アルヲ以テナリ如何ナル行爲カ之ニ屬スルヤハ本邦ノ法律殊ニ民法ニ依リテ之ヲ定ム法禁ノ行爲及ヒ不徳義ノ行爲ハ其最モ著シキモノナリ夫婦同居ノ目的トスル訴ニ付テノ判決ノ如キ亦之ニ屬ス然レトモ外國裁判所ニ於テ認マタル實體的請求若クハ外國裁判所ノ判決ニ於テ言渡アレタル給付カ内國ノ法律ニ從ヘハ法禁ノ行爲賭博當籤ノ類若クハ不徳義ノ判決ニ基キテ訴ヲ許ササルモノナリト雖モ執行判決ヲ拒絕スルノ理由ト爲ラス何トナレハ前述ノ如ク内國裁判所ハ外國裁判所判決ノ當否ヲ調査スルノ職權ナケレハナリ

(4) 管轄權アル外國裁判所ノ終局判決ナルコトヲ要ス外國裁判所ノ管轄權ノ有無ハ本邦ノ法律ニ從ヒテ之ヲ定ム(第五一五條第三號)獨逸舊民事訴訟法第六六

一條第三號蓋シ執行判決ヲ求ムル訴訟ニ在リテハ我帝國ノ裁判官ハ訴訟法ノ關係ニ於テモ外國裁判所ノ裁判ノ當否ヲ調査セザルヲ以テ其外國ノ法律ニ從ヒ管轄權ノ有無ヲ判斷スルコトヲ得サレハナリ判決ヲ爲シタル外國裁判所ハ我國法ニ從ヒテ土地ノ管轄權ヲ有セザルヘカラス蓋シ土地ノ管轄權ニ關スル我民事訴訟法ノ規定ハ我司法權ノ支配スヘキ事件ヲ規定シタルモノナルヲ以テ之ニ反スル外國ノ司法權ヲ是認スルコトヲ得ス然ラズンハ外國ノ司法權ノ行使ニ因リ我國ノ司法權ノ侵害ヲ來スヲ以テナリ判決ヲ爲シタル外國裁判所ノ事。物。ノ。管。轄。權。ヲ。有。セ。ザ。ル。事。實。ハ。執行判決ヲ拒ムノ理由ト爲ラス蓋シ外國ニ於ケル事物ノ管轄權ノ規定ハ我帝國裁判所カ判決ヲ爲スノ法則トシテ之ヲ採用スルコト能ハサルノミナラス該規定ヲ遵守スルト否トハ我帝國ニ對シ利害ノ關係ナケレハナリ故ニ民事訴訟法第五百十五條第二項第三號ニ所謂管轄權トハ土地ノ管轄權ヲ指示スルモノト知ルヘシ民事訴訟法第五百十五條第二項第三號ニ所謂外國裁判所トハ判決ヲ爲シタル外國裁判所ヲ指示スルヤ或ハ總テノ外國裁判所ヲ指示スルヤ換言セハ自國裁判所ハ外國裁判所ノ管轄ノ有無ヲ

現實のニ調査スヘキヤ或ハ抽象的ニ調査スヘキヤハ頗ル困難ナル問題ナリ「ア。ハ。ニ。ヘ。ル。マ。ン。」  
「フ。キ。フ。エ。ル。ド。」「フ。ッ。チ。ン。グ。」「シ。ユ。シ。ッ。ト。」「氏等ハ外國裁判所ヲ總外國裁判所ト解釋シ抽象的調査ヲ必要ト爲スニ似タリ其論據ハ執行判決ヲ求ムル訴訟ニ於テハ自國ノ裁判所ハ自國ノ法律ニ從ヒ判決ヲ爲シタル外國裁判所所屬國ノ總テノ裁判所カ管轄權ヲ有セス隨テ其國家カ裁判權ヲ有セザル場合ニ於テノミ本題ノ要件ヲ缺クモノトシテ執行判決ノ言渡ヲ拒ムコトヲ得外國ノ判決裁判所ノ管轄ノ有無ハ問フ所ニ非サルナリ何トナレハ法文上特定ノ一外國裁判所カ土地ノ管轄權ヲ有スルヤ否ヤヲ調査スヘキ旨ヲ要件トセザルノミナラス外國ノ判決裁判所カ管轄權ヲ有セザルモ外國ノ他ノ裁判所ニ於テ管轄權ヲ有スルニ於テハ結局自國ノ裁判權ヲ害スルコトナキヲ以テナリ「ブ。ラ。ン。ク。」「ウ。キ。ル。モ。ー。ス。キ。ー。」「ス。ト。ロ。ッ。ク。マ。ン。シ。」「エ。ン。ヂ。マ。」「ベ。ー。テ。ル。ゼ。ン。氏等ハ外國裁判所ヲ判決ヲ爲シタル外國裁判所ト解釋シ現實的調査ノミヲ以テ足レリト爲スニ似タリ其論據ハ自國裁判所ハ判決ヲ爲シタル外國裁判所カ管轄權ヲ有セザルトキハ本題ノ要件ヲ缺クモノトシテ執行判決ヲ拒絶セザルヘカラス其理由

ノ二ハ外國裁判所ノ判決ヲ爲メ共助ヲ爲シ即チ執行判決又言渡スヘキモノナルヲ以テ判決ヲ爲ササル他ノ外國裁判所カ管轄權ヲ有スルコトハ敢テ問フノ必要ナク又文理解釋上裁判所ノ判決ヲ爲サリシ他ノ外國裁判所ヲ含有スルモノト謂フコト能ハス(二)總裁判所ノ管轄權即チ國家ノ管轄權ナル觀念ハ民事訴訟法ニ於テ認メサルモノナラズ土地ノ管轄權ハ唯判決ヲ爲シタル裁判所ニ關係ヲ有スルノミ外國カ管轄權ヲ有スルヤ否ヤノ調査ハ民事訴訟法ノ認メサル所ナリ又管轄權ノ存否ニ關スル裁判官ノ調査ハ判決ヲ爲シタル裁判所ニノミ制限セラレサルヘカラス他ノ裁判所ノ管轄權ノ有無ハ之ヲ調査スルヲ得ス何トナレハ其裁判所ノ行爲ハ當事者ヨリ要求セラレタルヲ以テ判決ヲ爲シタル裁判所ニ非サル裁判所ノ管轄權ノ存否ヲ調査スルハ民事訴訟法ノ原則ニ反スト云フニ在リ此兩説ノ何レヲ正當ト認ムヘキヤノ問題ハ諸君ノ研究ニ委ヌ予輩ハ我民事訴訟法ノ解釋トシテ後説ヲ正當ト信ス

外國裁判所ノ管轄權ノ有無ハ本邦ノ法律ニ從ヒ之ヲ定ムルモノナルコト前述ノ如シ故ニ我民事訴訟法第二十九條以下ニ規定シタル合意管轄亦民事訴訟法

第三十一條ノ規定ニ觸レサル以上ハ縱令外國裁判所カ其所屬國法ニ從ヘハ毫モ管轄權ヲ有セサル場合ト雖モ其外國裁判所カ管轄權ヲ有スルノ原因ト爲ル然レトモ被告カ外國裁判所ニ於ケル辯論期日ニ出頭セサルノ一事ハ默示的合意管轄アリタルモノト認ムルニ足ラス寧ロ外國裁判所ノ爲シタル關席判決ニ關シテハ其外國裁判所ニ自國ノ法律ノ意味ニ於ケル法定若クハ約定ノ管轄權アルコトヲ要ス又專屬管轄ニ非サル限ハ自國ニ裁判籍アルノ故ヲ以テ自國裁判所ノミカ唯一ノ管轄權ヲ有スルノ理由ト爲ラス却テ外國ニ有スル裁判籍ト共ニ當事者ヲシテ選擇セシムルノ原因ト爲ル隨テ當事者ハ自國若クハ外國ニ於テ履行地若クハ不法行為地等ノ特別裁判籍アルトキハ民事訴訟法第二十五條ニ從ヒテ選擇ヲ爲スコトヲ得ヘシ自國ノ裁判所ハ外國裁判所ノ管轄權ノ有無ヲ調査スルニ當リテハ唯リ外國裁判所カ認定シタル事實ハ自國ノ法律ニ從ヘハ其外國裁判所ヲシテ管轄權ヲ有セシムヤノ點ヲミナラス況テ裁判籍ヲ定ムルノ標準タルヘキ事實上ノ關係ヲ調査シ外國裁判所カ管轄權ヲ有スルヤ否ヤヲ定ム例ヘハ當事者カ管轄ニ付キ合意ヲ爲シタルコトハ其真意ニ出テタル

カ或ハ當事者カ係争契約ノ履行ヲ外國ニ於テ爲スヘキ旨ヲ約シタルコトハ眞實ナルカヲ調査スルカ如シ是ヲ以テ假想シタル事實ノ自白ニ基テ管轄ハ自國裁判所ヲ拘束スルモノニ非ス然レトモ自國ノ法律ニ從ヒ外國裁判所ノ管轄權ヲ有スルコトヲ正當ナラシムルカ爲メニ新事實及ヒ證據方法ヲ提出スルハ敢テ妨ナキ所ナリ自國裁判所ハ外國裁判所ノ管轄權ノ有無ヲ調査スルニ止マリ係争事件ニ付キ民事訴訟カ許サルベキヤヲ調査スルコトヲ得ス蓋シ内國ニ於ケル裁判所及ヒ行政官府ニ關スル政務分配上ノ限界ハ外國官廳ニ適用スルコトヲ得サルヲ以テ民事訴訟法第五百十五條ハ此點ニ付キ何等ノ規定ヲ設ケサルヤ瞭然タルノミナラス之カ爲メニ外國法ヲ適用スルコトハ民事訴訟法第五百十五條第一項ノ規定ニ反シ外國裁判所ノ裁判ノ當否ヲ調査スルニ至レハナ

(5) 相互ノ擔保アルハ要ス 判決ノ執行ニ關スル相互トハ執行手續若クハ之ニ先スル訴訟手續ノ同一ヲ指示スルモノニ非スシテ却テ單ニ判決ノ執行ニ屬スル實體の要素ノ同一ヲ指示スルモノトハ前ニ「氏ノ言ノ如シ蓋シ相互ノ内

容トシテ内外訴訟法規ノ嚴正ナル一致ヲ要スルモノト解セハ斯ル一致ハ不能ナルヲ以テ相互ノ要件ハ始ト成立セサルモノナルニ至ルヘケレハナリ故ニ「氏ハ相互ハ法則ノ一致ヲ指示スルモノニ非スト云ヘリ此ノ如ク相互ハ單ニ判決ノ執行ニ關スル實體の要素ノ同一ヲ指示スルモノナルヲ以テ(1)相互ハ本邦ノ裁判所ノ確定判決カ或外國ニ於テ其外國ノ裁判所ノ確定判決ト同シテ攻撃スルコト能ハサルモノト看做サレ法律上若クハ事實上及ヒ實體上若クハ外形上ノ當否ニ付キ更ニ調査ヲ受クルコトナク執行スルコトヲ得ルノ效力ヲ認メラルルニ因リテ成立ス本邦ノ判決ノ執行許可ニ關スル手續ノ存否及ヒ民事訴訟法第五百四十五條ニ規定セル請求ニ關スル異議ノ原因ニ依ル抗辯ヲ提出ノ許否ノ如キハ相互ノ成立ニ關係ナシ故ニ外國ニ於テ本邦ノ裁判所ノ判決ノ當否ニ付キ更ニ調査ヲ爲スヘキモノトシ又ハ民事訴訟法第五百四十五條ニ規定セル請求ニ關スル異議ニ非サル本案ニ付テハ異議ヲ認メタルトキハ相互ノ成立ナキモノト知ルベシ(2)本邦ノ裁判所ノ確定判決ニ關シ外國ニ於テ執行ノ許可ヲ求ムル訴訟手續カ本邦ニ於ケル手續ト異ナルコト又外國ニ於ケル執



行ノ許可ノ要件カ本邦ニ於ケル要件ト異ナルコト而カ嚴ナルノ事情第五一四條第二項第五一五條ハ相互ノ成立ヲ妨ケス蓋シ相互ハ本邦ノ裁判所ノ確定判決カ或外國ニ於ケル執行ノ實體的要素トシテ其外國ニ於テ認メラレサル場合ニ限リ成立セザルモノナレハナリ(3)本邦ノ裁判所ノ確定判決ニ關シ外國ニ於テ單ニ確定判決トシテ之ヲ認ムルニ止マリ執行ニ付テノ效力ヲ認メザルトキハ相互ノ成立ナシ又外國カ其是認シタル合意ノ裁判籍相續ノ裁判籍及ヒ不法行爲ノ裁判籍等ニ關スル法則ヲ本邦ニ於テ實施シタル訴訟ニ關シ適用スルコトヲ拒ミ斯ル裁判籍ノ存スル本邦ニ於テ爲シタル判決ヲ更ニ其當否ノ調査ヲ爲スコトナクシテ執行セシムルコトヲ欲セザルトキ亦相互ノ成立ナシ其他外國カ一般のニ本邦ノ裁判所ノ判決ノ爲メニ執行スルコトヲ得ヘキ效力ヲ認メスシテ唯單ニ本邦ノ裁判所ノ判決ヲ或外國ニ於テ執行スルコトヲ要スル各箇ノ場合ニ於テノミ其外國カ該判決ニ執行スルコトヲ得ヘキ效力ヲ認ムルニ過キザルトキハ相互ノ成立ナキモノタリ(第五一五條第五號)獨逸舊民事訴訟法第六六一條第五號新民事訴訟法第三二八條相互ノ擔保ニ相互ノ繼續カ將來ニ向

雜 報

○株主總會通知記載事項  
株主總會ヲ召集スルニハ會日ヨリ二週間前ニ各株主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要シ其通知ニハ總會ノ目的及ヒ總會ニ於テ決議スヘキ事項ヲ記載スルコトヲ要ス(商法第一五六條第一項第二項)(無記名ノ株券ヲ發行シタルトキハ三週間前ニ公告スルコトヲ要ス)又定時總會ノ場合ニハ取締役ハ會日ヨリ一週間前ニ財産目録貸借對照表營業報告書損益計算書準備金及ヒ利益又ハ利息ノ配當ニ關スル議案ヲ監査役ニ提出スヘキ(第一九〇條)取締役ハ會日前ニ此等ノ書類及ヒ監査役ノ報告書ヲ本店ニ備フヘキモノトシ(第一九一條)而シテ此等ノ書類ハ株主ヲシテ營業時間内自由ニ閱覽セシムルコトヲ得セシムルモノトス(同第二項)此等ノ規定ニ依レバ定時總會召集通知ノ時ニ於テハ其事業期間ニ於ケル總テノ計算ヲ終了ヲ必要トセザルコトハ明白ナルカ如シ然ルニ下ニ示スヘキ大審院ノ判例ニ依レバ定時總會ヲ通知ヲ發スル時ニ其事業年度ニ於ケル計算ヲ完了シタルコトヲ要スヘシ其裁判理由ニ



曰之商法第五十六條第二項ハ株主ヲシテ總會ノ目的及ヒ其總會ニ於テ詳決セラルルハキ事項如何ヲ豫知スルコトヲ得セシメ其決議權ヲ行使ス付キ十分準備ヲ爲シタル規定ナルヲ以テ會社カ株主ニ爲シ總會ノ通知ニハ其議事日程タルハキ事項如何ヲ了解スルコトヲ得セシムルニ足ル記載ヲ付コトヲ要ス今原告人ノ發シタルモノナリト云フ通常總會ニ關スル通知ニハ第七期諸計算書並ニ利益配當ニ關スル件トアリテ第七期計算及ヒ利益金配當ニ關スル件カ議事トナルハキコトヲ推知セシムルコトヲ得ヘシト雖モ如何ナル計算ニ因リテ如何ナル割合ノ利益配當ト爲ルハキ其計算ハ果シテ相當ナルヤ否等總會ノ決議ニ付スハキ事項ニ至リテハ之ヲ知ルニ由チキモコトナルヲ以テ右商法ノ規定ニ違背スルコト瞭然タリ何トナレハ斯ル通知ニ依ルモ株主ハ決議ヲ爲ササルヘカラサルモノトセンニハ議事ノ何カルヲ研究スルニ違ナカリシ株主ヲシテ違カニ辭決ノ數ニ加ハラシムルコトヲ強要スルト異ル所ナク決議事項ヲ豫知セシメントスル立法ノ趣旨ヲ貫徹スルコトヲ得サレハナリト(大審院明治三十五年四月二十四號商法及日本勸業銀行法違反事件ノ決定ニ此判例ノ如クセハ利益

配當ノ場合ニ於ケル總會ノ開會ヲ見ルハ從來ニ比シ少クトモ一週間ヲ後レサ  
ルコトヲ得ルカ故ニ株主ノ爲メニハ尠カラサル利害ノ關係ヲ有スルモノト謂  
フヘク十二月ニ於テ定時總會ノ時期ト爲ス會社ノ株主ノ如キハ甚タ迷惑ヲ感  
スル者尠カラサルヘシ尙ホ同裁判ニ於テ大審院ハ說明シテ曰ク又其臨時總會  
ノ召集ニ付キ發シタリト云フ通知ヲ見ルニ故副總裁片山遠平君ニ功勞金贈與  
ノ件トアルヲ以テ其功勞ニ報スル爲メ金圓ヲ贈與スルコトヲ決議スル目的ノ  
總會ナルコトヲ推知シ得ルモ贈與セントスル金額ハ果シテ若干ナルヤヲ知ラ  
シムルコトナク株主カ決議スヘキ事項ノ表示ヲ爲スニ足ラサルカ故ニ此通知  
モ亦違法ナリトス下果シテ然ラハ株主ニハ本人ノ勸勞ニ暨ミ實例若クハ世間  
並ニ據リ簡簡ノ心裡ニ於テ贈與スヘキ標準額ヲ豫定スルノ能力ナキカ將タ又  
株主ハ第一讀會ニ於テ功勞金ノ贈與ヲ否決スルノ權利ナキカ尤モ此通知ハ死  
人ニ贈與スルカ如ク見エ少シク盡ササル所ナキニ非スト雖モ其趣旨ニ於テハ  
敢テ疑ヲ容ルヘタモ非ス隨テ其通知ニ金額ヲ現ハスカ如キハ實際上ニ於テモ  
何等ノ必要ナキモノトセザルヘカラズ殊ニ右ノ決定ハ決議スヘキ事項ト決議

ノ爲メニ豫メ知ルコトヲ要スル事項トテ混淆シタルモノナルコトハ既ニ梅博士ノ評論セラレタル所ナリ(法學志林第三六號參看) 株式會社解散ノ場合ニ於テハ清算人ハ其就職ノ日ヨリ二箇月内ニ少クトモ三回ノ公告ヲ以テ債權者知レタル債權者ニハ各別ニ對シ二箇月ヲ下ラサル期間内ニ其請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要シ(商法第二三四條、民法第七九條其期間内ニ於テハ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス(商法第二六二條第一〇號然ルニ此期間ニ於テモ相殺ヲ爲スコトヲ妨ケスト認メタル大審院ノ判決理由ニ曰ク「民法第五百五條ニ所謂辨濟期トハ債務辨濟ノ義務發生スル時期即チ通例債務者遲滯ノ責發生ノ時期ヲ指稱シタルモノニシテ商法第二百六十二條第十號規定ノ趣旨ハ要スルニ民法第七十九條ノ期間内ハ會社ノ債權者ニ辨濟ヲ爲スコトヲ清算人ニ禁シタルニ止マリ此規定アルカ爲メニ既ニ到來シタル辨濟期延長スルモノト云フヲ得ス故ニ一旦辨濟期ノ到來シタル債務ニ付テハ假令民法第七十九條ノ期間内ニテモ辨濟期ニ在ルモノト云フヲ妨ケス下(大審院明治三十五年十月九日第一民事部判決)

### 注意

一 本校講義録ハ第三種郵便物認可ノ都合上自今三十五年度ニ十六年度ヲ通シテ號ヲ送フヘキニ由リ表紙第一面録書ノ號數ノ爲メニ誤ララルコトナキ様注意セラレバシ

一 三十五年度第三學年講義録發行日ヲ自今十三日及ヒ二十八日ニ變更ス

十一月

和佛法律學校

ノ爲メニ豫メ知ルコトヲ要スル事項トヲ混淆シタルモノナルコトハ既ニ梅博  
 士ノ評論セラレタル所ナリ(法學志林第三六號參看)  
 ○債權申出期間内ニ於ケル相殺 株式會社解散ノ場合ニ於テハ清算人ハ其  
 就職ノ日ヨリ二箇月内ニ少クトモ三回ノ公告ヲ以テ債權者知レタル債權者ニ  
 ハ各別ニ對シニ箇月ヲ下ラサル期間内ニ其請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告  
 スルコトヲ要シ(商法第二三四條民法第七九條其期間内ニ於テハ辨濟ヲ爲スコ  
 トヲ得ス)商法第二六二條第一〇號然ルニ此期間ニ於テモ相殺ヲ爲スコトヲ妨  
 ケスト認メタル大審院ノ判決理由ニ曰ク「民法第五百五條ニ所謂辨濟期トハ債  
 務辨濟ノ義務發生スル時期即チ通例債務者遲滞ノ責發生ノ時期ヲ指稱シタル  
 モノニシテ商法第二百六十二條第十號規定ノ趣旨ハ要スルニ民法第七十九條  
 ノ期間内ハ會社ノ債權者ニ辨濟ヲ爲スコトヲ清算人ニ禁シタルニ止マリ此規  
 定アルカ爲メニ既ニ到來シタル辨濟期延長スルモノト云フヲ得ス故ニ一旦辨  
 濟期ノ到來シタル債務ニ付テハ假令民法第七十九條ノ期間内ニテモ辨濟期ニ  
 在ルモノト云フヲ妨ケスト」(大審院判決明治三十五年十月九日第一民事部判決)

### 注 意

- 一 本校講義録ハ第三種郵便物認可ノ都合上自今三十五年度三十六年度ヲ通  
 シテ號ヲ逐フヘキニ由リ表紙第一面録書ノ號數ノ爲メニ誤ラレルコトナキ  
 様注意セラレヘシ
- 一 三十五年度第三學年講義録發行日ヲ自今十三日及ヒ二十八日ニ變更ス

十一月

和佛法律學校

# 法學志林

每月一回十五日發行  
校外、生徒、校外生、限リ  
一冊特價郵稅共金九錢  
十冊同金郵稅共金八十錢

## 第三十六號

十月十五日發行

### 志林

○最近判例批評 法學博士 梅 謙次郎  
○私法ノ研究ト社會法 法學士 志田御太郎

### 纂論

○賭博罪ニ就テ 法學士 古賀廉造  
○取引所(續) 海山巖夫

### 解疑

○法定代理人ノ爲シタル控訴ト被告人ノ處分權 法學士 豊島直通  
○タニロープ河委員會ノ成立、組織及ヒ國際法上ノ地位 法學士 秋山雅之介

### 寄書

○廢罷訴權ト轉待者ノ惡意トノ關係 法學博士 梅 謙次郎  
○非常大權ノ行動ヲ論ス 校友 神居繁太郎

### 其他

判例、雜報、記事 數十件

## 發行所 和佛法律學校

(明治二十二年十二月九日內務省許可)  
(明治三十五年十一月四日第三種郵便物認可) 毎月十八日、廿五日、廿六日、廿八日、廿九日、十日發行  
(日三十五日、廿六日、廿七日、廿八日、廿九日、三十日、三十一日發行)

明治三十五年十一月十二日印刷  
明治三十五年十一月十三日發行  
(定價金四拾錢)

編輯兼發行者 萩原敬之  
東京市牛込區牛込北町十番地

印刷者 小宮山信好  
東京市牛込區矢來町三番地

印刷所 金子活版所  
東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地

發行所 司法省 和佛法律學校  
指定 東京市總町區富士見町六丁目十六番地  
(電話番町百七十四番)